建築と社會

昭和八年度 常設委員會調査研究報告

第十六輯
第十二號

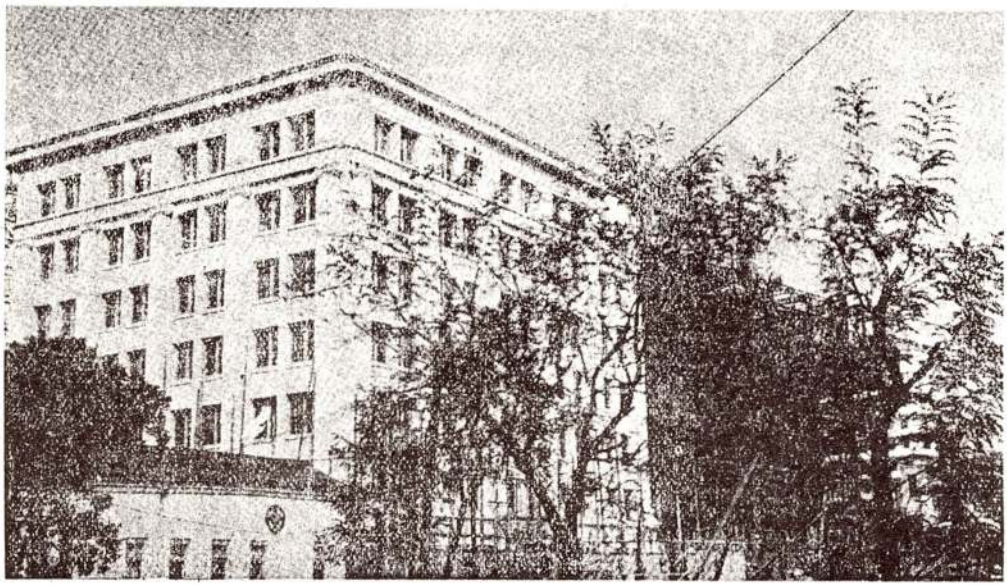
日本建築協會

昭和八年
十二月一日

移轉御通知

謹啓 益々御隆昌奉賀候陳者 弊店儀堺筋野村ビルにて營業致居候處拾弐月壹日より今般新築落成の三井ビルに移轉仕候間左樣御承知の上何卒不相變御愛顧御引立の程偏に奉願上候

敬具



三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目五番地大阪三井ビル內

電話土佐堀 (44) 8365 • 8366 • 8367

本店　東京市麹町區有樂町——三信ビル內

出張所　大連市山形通——日本郵船ビル內

出張所　名古屋市中區天王崎町——三井物產內

取扱店　三井物產株式會社各地支店出張所

東洋キヤリア工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目五番地大阪三井ビル內

電話土佐堀 (44) 1588

本店　東京市麹町區有樂町——三信ビル內

取扱店　三井物產株式會社各地支店出張所

會　　告

本協會定款第十七條及第十八條に依り監事二名改選並評議員半數改選に付昭和八年十一月二十五日開會の通常總會に於て選擧を執行致しました其結果下記の通であります。

監　事

當選 504票　岡部顯則氏　　同 381票　富士岡重一氏

次點 210票　小林悉氏（以下略）

評議員

當選 90票　池田宮彦氏　　同 88票　國藤武氏

同 83票　落藤藤吉氏　　同 82票　鳥井信氏

同 82票　加藤善吉氏　　同 82票　渡部圭吾氏

同 81票　伊東宗太郎氏　　同 81票　清水榮二氏

同 81票　白石登喜男氏　　同 81票　矢田鐵藏氏

同 80票　牧野忠氏　　同 80票　新名種夫氏

同 80票　伊藤和夫氏　　同 79票　松久保敬三氏

同 78票　酒井勇三郎氏　　同 78票　高橋榮治氏

同 78票　玉置豊次郎氏　　同 78票　谷隆夫氏

同 74票　佐野俊三氏　　同 73票　平塚鎗吉氏

次點 73票　三木來三氏（以下略）

昭和 8 年 12 月

社團法人 日本建築協會

會　　告

今回本會から下揭の如き單行本を上梓した。「市街地建築物法令」は三版、「續住宅圖案集」及「續學校建築圖集」は夫々前回刊行の際好評を受けたものゝ姉妹篇で孰れも充分の自信を以つてお薦めする良著である。別綴「注文ハガキ」を以て陸續申込を乞ふ。

（三版）市街地建築物法令

本書は本年5月出版するや忽ち初版再版ともに賣切となつたもので其後多數の注文があるので三版を刊行したものである。

1. 大　さ　　菊半截　　330頁
1. 定　價　　50錢　　送料6錢
1. 割引　會員　定價の2割引、賛助員　同1割引

（新刊）續住宅圖案集

本書はさきに刊行して絶讃を受け忽ち三版を重ねたる「住宅圖案集」の姉妹篇である。收める所のものは

「**阪和上之芝住宅**」懸賞當選圖案

東豐中住宅懸賞當選圖案（婦人・子供室を主とせるもの）

「**住宅平面圖及台所設計圖**」（昨秋までの本會募集の諸懸賞當選圖案中より撰出）

以上でいづれも多數の應募圖案より 46 種を嚴選せるもので住宅設計上具體的の指針を提供したる好箇の標準圖案集である。

1. 大　さ　　四六倍版　　100頁
1. 定　價　　1,00圓　　送料10錢
1. 割　引　會員　定價の2割引、賛助員　同1割引

（新刊）續學校建築圖集

各方面の盡力を得て最近二三年間に竣工した學校建築の資料を蒐めたところ、大・中・小・學校の代表的のもの 40 餘校に上つたのでこれらを纏めて編纂刊行することにした、發行は本月下旬の豫定である、前回發行したる本集は非常なる好評を得て三版を重ねたがその姉妹編である。

1. 大　さ　　四六倍版　　200頁
1. 定　價　　1.00圓　　送料14錢
1. 割　引　會員　定價の2割引、賛助員　同1割引

昭和8年12月

社團法人　日本協築建會

登録商標 ONO SHUTTER PATENTE

日米特許一二個・實用新案登錄四六個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七・三七三八

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

建築と社會

第16輯第12號　昭和8年12月發行

常設委員會昭和八年度調査研究報告

目　　次

住に關する問題照會事項回答調査書‥‥‥‥‥教化委員會（1）
大阪に於ける大工徒弟養成の實況調査‥‥‥‥‥教化委員會（4）
壘の研究‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥材料委員會（13）
各種パイプ類市場品調査報告‥‥‥‥‥‥‥‥材料委員會（21）
一般建築工事施工上に必要なる設備の研究‥‥設備委員會（31）
住宅の門塀‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥住宅委員會（35）

上野芝住宅博覽會出品住宅‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（45）
瑞光住宅博覽會出品住宅‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（55）

國際新建築‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（63）
京阪神新建築‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（77）
會　　報‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（88）

住に關する問題照會事項回答調査書

教化委員會

昭和8年6月15日附を以て二府三縣の高等女學校女子師範學校女子專門學校 107 校に對し家事科教材中住に關する問題に付き照會を發し回答を得たるもの 42 校に就き分類調査の結果次記の成績を得たり。其の結果に徴するに教授時間數の如きもの學校により非常に相違する所あり、また家事科總教授時數を住に關する教授時數の割合の如きは更に甚だしき逕庭あり。殊に指導の方法に至つては次記記載の如く到底住に關する問題に限り其の徹底を期し難きものゝ如く思考せらる。

故に我が教化委員會に於ては適當なる機會を得て此等當事者と一席隔意なき意見の交換を爲し以て住に關する問題の教授徹底に貢献する所あらんことを希望するものなり。

照會學校數と回答學校數との割合

照會府縣	照會學校總數	回答學校學年制別 4箇年制	5箇年制	專門程度	合計	百分比
大阪府	37	1	14	2	17	46%
京都府	14	—	3	1	4	29%
兵庫縣	31	9	4	—	13	42%
和歌山縣	17	8	1	—	9	53%
奈良縣	8	2	—	—	2	25%
合計	107	20	22	3	45	42%

4箇年制の高等女學校　教授時間數と學校數との關係

教授時間數	學校數	備考
8 — 10	1	最低8時間
11 — 15	2	最高61時間
16 — 20	3	平均時間數
21 — 25	4	559/20=27.95
26 — 30	4	
31 — 35	2	
36 — 40	2	
41 — 45	0	
46 — 50	1	
51 — 61	1	

5箇年制の高等女學校　教授時間數と學校數との關係

教授時間數	學校數	備考
10 — 15	4	最低10時間

16 — 20	5	最高 49 時間
21 — 25	3	平均時間數
26 — 30	7	545/22＝24.80
31 — 35	0	
36 — 40	2	
41 — 45	0	
46 — 49	1	

4箇年制の高等女學校 家事教授總時間數に對する建築教授時間數の割合と學校數との關係

家事教授總時間數に對する建築教授時間數の割合	學校數	備考
5%— 10%	3	最低 5 %
11 — 15	8	最高 36 %
16 — 20	1	平均
21 — 25	2	559/3655＝15.3%
26 — 30	4	
31 — 36 %	2	

5箇年制の高等女學校 家事教授總時間數に對する建築教授時間數の割合と學校數との關係

家事教授總時間數に對する建築教授時間數の割合	學校數	備考
8 %— 10%	5	最低 8 %
11 — 15	5	最高 38 %
16 — 20	5	平均
21 — 25	3	543/3544＝15.4%
26 — 30	0	
31 — 35	1	
36 — 38 %	3	

教授學年と學校數

教授學年	四箇年制學校數	五箇年制學校數	專門程度(二年三年)學校數
第一學年	—	—	1
第二學年	1	—	1
第三學年	16	2	1
第四學年	1	17	—
第五學年	—	1	—
第(一二三四)學年	1	—	—
第(三四)學年	1	—	—
第(四五)學年	—	2	—
合計	20	22	3

指導者數と出身學校

出身學校名	指導者數 四箇年制	五箇年制	專門程度	合計	備考
帝國大學	0	0	3	3	一學校二人乃至三人

奈良女高師	8	6	0	14	の指導者あるものあ
檢定	4	5	0	9	り從つて學校數と指
日本女子大學	4	4	0	8	導者の數と一致せず
東京女高師	2	4	0	6	
第六臨校	4	2	0	6	
京都同志社	2	2	0	4	
京都府立第一	2	2	0	4	
大阪府女專	2	1	0	3	
京都女專	1	0	0	1	
東京女專	3	0	0	3	
廣島女專	3	0	0	3	
大阪府女師	0	1	0	1	
合計	35	27	3	65	

家事教授科書と採用學校數

教科書名	著者	發行所	採用學校		
			四年制	五年制	合計
家事新教科書	石澤吉磨	集成堂	12	10	22
新時代家事讀本	越智キヨ	星野書店	2	4	6
家事新教科書	佐保會	至誠堂	1	4	5
現代家事教科書	開成館	東京開成館	0	1	1
綜合家事教科書	家事資料研究會	文献書院	0	1	1
實地應用家事教科書	吉村千鶴	開成館	1	0	1
家事教科書	家庭經濟研究會	帝國書院	1	0	1
新編家事	倉橋惣三	富山房	1	0	1
現代家事教科書	井上秀子	文光社	2	0	2
筆記			0	2	2
合計			20	22	42

指導の方法

理論は主として教科書記載の事項を敷衍して教授し更に物理化學と相俟つて實驗を加味して完全なる教授を期し見學は和洋新古の建築を問はず、臺所浴室門塀等に至るまで機會と時間の許す限りに於てその見學をはかり、實習は住宅間取りの製圖を始めとして、掃除整頓家具什器の選定手入法より更に轉宅、非常時の心得に至るまで行き屆きたる記載を爲せるものあるも、何等の記載なきもの大半を占め、殊に地方により見學の便等容易に得難きものあり、また教授時間の關係上として製圖の如きは圖畫科に一任せるもの等あり生徒も一般に建築及び住に關する問題には興味を感すること少なく非常に教授し難きをかこてるものあり、從つて大部分の學校は教科書に準據し理論を主として教授しつゝあるものゝ如く思考せらる。

大阪に於ける大工徒弟養成の實況調査

教化委員會

目　　次

前　言
A、徒弟制度の意味
B、大工徒弟養成の實際
C、徒弟養成の目的と大工の一人前
D、徒弟修業の年數
E、現在徒弟制度の欠陷
F、對策としての徒弟制度の改新と學校教育の革新
G、大工技術の標準型作成の必要
H、結び

前　言

大正9年の國勢調査の結果を大阪市産業部の報告によれば、舊市内當時の人口は

1,583,650人内

大　工	10,669人
左　官	2,906人
石　工	1,427人　である

大工は之によれば全人口の 147 分の 1 に相當してゐる。

亦最近大阪大工業組合聯合會の報告によると、大阪府下には 17,540 人に達して居る。

次の大阪府下に於ける大工の分布狀況を表示したものを掲げた、參照されたし。

大阪府下に於ける大工の分布狀況

組合名		組合名		組合名		組合名	
船　場	187	玉　造	238	新　町	238	川　口	148
九　條	290	市　岡	439	朝日橋	591	築　港	449
泉　尾	386	島之内	121	高　津	285	天王寺	412
戎	173	難　波	309	芦　原	156	天　滿	236
曾根崎	341	福　島	560	網　島	656	今　宮	615
阿部野	277	住　吉	606	鶴　橋	500	中　本	480
平　野	346	今　福	469	中　津	430	十三橋	307
柴　島	237	大和田	306	合　計	10,788		

池田	328	岡町	430	地黄	140	茨木	299
高槻	263	吹田	271	堺	761	鳳	257
福田	112	三林	87	大津	203	岸和田	651
佐野	330	尾崎	166	市場	109	富田林	198
長野	130	古市	123	黒山	151	柏原	111
八尾	258	三宅	148	御厨	281	額田	148
南高安	63	枚方	232	守口	233	四條畷	157
津田	112	合計	6,752	總計	17,540		

以上の表中の大工とは、一般の建築に從事して居るものにて、鐵筋コンクリート工事に從事する建築工又は假枠工を除外したものである。

今大工の實際働き得る年數を平均 30 年と假定して見ると、毎年550 人以上宛養成されて行かねばならない筈である。此處を考へる時，大工徒弟の養成、大工の教育と云ふものは、輕々に附すべきものでなく、重大なる社會問題である。獨り、建築界のみの問題でないと信ずる。本調査の目的は此が鮮明にある。

現在大阪府下には大工の養成を目的として教育して居る學校は殆ど見當らない。又大工養成所も見當らない。大工志望者の大部分は、皆徒弟となり、親方の許にて或年數だけ修業することになる。

如何にして養成されて居るか、現在如何なる不便、不合理があるか、の實際を知りたいと調査を續けたのである。併し、之は甚だ困難なるものである。未だ調査が不充分であるけれ共、尙將來に亘り完成したいと思ふ。本調査は、大阪府大工業組合の後援と、今宮職工學校夜間部生徒の調査と、棟梁の意見とよりなつたものである。此處に附記しておく。

A、徒弟制度の意味

徒弟制度は親方、職人、徒弟（弟子）より成立する。

徒弟は一定期間（徒弟年限）忠實に上長即ち親方職人に服從し、技術を習得する時、職人となる。職人は自分の努力又は計畫の下に親方となり經濟的に獨立することになるのである。

徒弟は親方の下に起居を共にし、親方の家族の一員となり、技術の習得は勿論、家庭の雜事の手傳をもするのである。親方は徒弟に對し、技術を教へるのみでなく、徒弟の一身上一切の世話をする、即ち訓練をするのである。

故に徒弟制度の意味は徒弟より見れば、技術を習得し、一人前の常識を授けて貰ひ、職人、即ち、一人前の大工に養成して頂くためである。彼等の結ぶ夢は親方であり、棟梁であることは勿論である。

その間の經費は一切親方の負擔である。その代償として、徒弟は親分子分の契りを結ぶと同時に、勞力を無制限に提供したものであつたのである。

B、 大工徒弟養成の實際

徒弟が如何なる系統を辿りつゝ、一人前の大工に仕上げられるかは、徒弟のもつ、親方の方針により、勤める場所により、親方のなす仕事の種類により異なるものである。

これは徒弟養成には一定の方針規約はなく全く親方の個々の意見方針により、時々刻々の意向により隨時教育されるからである。

尙徒弟教育は學校教育の如く、一定の主義方針方法により養成する方法によらないのみでなく、徒弟の練習用の費用、即ち練習用材がないのである。言ひ換へれば、此の材料は鉋の練習に供し、そのまゝ役立たなくなつてもよいのだ、練習が主で即ち技術の習得が主で、その材料は從である。習得の便宜のためには、その材を無駄にしても、かまわぬと云ふ様なものはないのである。あくまで、仕事が主であり、練習は從のもの副のものである技術が充分に出來なければ、次の技術へ移るとか、又は實際の仕事には關係させない傾向となり、練習期間が長引くことになるのは當然なことである。

尙親方は、技術を教授するのが主でなく、彼等に仕事をさせるのが主となる、それが爲不便なる故に、技術を教へるのである、その教授は見覺えであり、獨習である。尙同僚の相互研究であり、共教へであるわけである。

故に親方の境遇及びその關係する仕事により相違して來るわけである。

隨つて、實際の徒弟養成はこの順序による、かゝる方法であると、一概に決定して見るはとは實際不可能なことである。

此の多種多様に亘る方法を系統立てゝ見るも、それは、何等意義のないものになるではないかと云はれ様が、大體の所同じ様な傾向であり、順序を經てゐることが、明らかになつた、各詳細に亘つては多少異るものであるが、その小異を捨て、組織的にして見たのが以下の順序であり方法である。

先づ相談が纏り、徒弟として親方の家に世話になる、之を弟子入りすると稱してゐる。弟子入りした當時は年齢も若く、力も少く且つ、建築の知識は勿論道具の名稱もその取扱ひ方も不明であるから、仕事場に於ても、仕事をさせられることは少く、誰でも出來るもの即ち素人でも出來ること、卽ち手傳並びに助手の仕事をすることになる。亦仕事のない時は家庭にあり、雜事即ち子守をしたり、走り使ひをしたりする、昔から、此の事が充分我慢し得て、忠實にやり通せる様なものでなければ、もう一人前の腕のある職人にはなれないものとして居られたのである。所謂之がその試練場であつたわけである。

朝早く起き、仕事には誰よりも早く出て、仕事の準備をする、即ち、研ぎ場の水を準備したり、道具を出して整へたりする、仕事が始まれば、手傳ひしたり、助手となつたり、又は、道具直し等をさせられることになる。仕事終了後は、道具を片附けたり、跡掃除をしたりする內に、親方又は職人のする技術を見覺えするのである。これから鉋の齒の甚だ

しく破れたもの等の直し研ぎを命ぜられる。

此の間研ぎ方のコツが仕込まれる　道具の作り方は困難なる技術の一つに加へられてゐる。完全に手直し得るものであれば、必らず仕事は一人前以上出來るものであるとは、一般大工に信ぜられて居る金言である。最も最近は鉋研ぎ屋、鋸直し目立て屋又は臺直し屋等專門の道具直し屋は出來たがやはり、之のみによることは出來ないものである。完全なる道具の作り方直し方を研究することが必要である。

次に昔なれば仕事の順序として、釿（チョウナ）及び斧（ヨキ）の練習をやる。これは荒木より角材を造る時丸太をならす時に、用ゐられる方法である之は少々技術が不練にて相當手荒く、間違ふても、直ぐ親方又は職方の手直しにて充分に直し得るものであるからである。

現在大阪等にては釿又は斧は殆ど必要でない故、直ちに鉋に入るものである。鉋にも一枚鉋二枚鉋、溝鉋等種々ある。二枚鉋は逆目もよく切れる故に板削りに廣く使用される。木口を削る時は一枚鉋が主として用ひられる。

故に之等は同時に、使用されるわけである。鉋の種類も始めは、床板とか押入の天井板等餘り見映えせぬ所、又は見え隱れになつてしまふ所の板を削らせるのである。

次に鋸の使用であるが、勿論此の邊に來ると、その徒弟の能力により、仕事の都合により、その練習用道具が異なるわけである。鋸は、やはり荒木の切組前の大まかに木取りされる時に練習させられることになる。

次には鑿である。之は見え隱れとなる貫穴胴差穴等から始められる。此處にては幾分狂ふても、餘り仕事の上にその失敗が目に立たぬからである。

次には荒木削り、柱削りの練習に入る、此の頃より墨附の手傳等させられる、此の間墨附けの方法墨壺の取扱ひ方、蕊の作り方等仕込まれるのである。昔は墨壺の製作法も教へたのでしたが、近頃は墨壺は店頭にある故安價に手に入れることが出來る爲、之を省略してゐるのである。次に荒木の墨附手傳ひと共に切組鋸練習を繰返す樣になる。

此處まで技術が進めば、家屋の組立の初步に入る、即ち、床板の張付けとか、押入の板張り、木摺打、裏板打ち等にて、仕上り後隱れてしまふ部の取付けに入るわけである。

之がすめば、造作の取付に入るわけである。即ち敷居鴨居、天井、羽目等に入るわけである。

次に床の間、違棚の取付けに入るわけである。此處まで來ればもう大工として一人前の技巧を得たわけである。此處に始めて、各種の高級なる建築の製作及びそれが組立法並びにその規矩を研究し始めるものである。即ち親方の技術か、又は書籍により各自研究する樣になるわけである。最後に自ら建築物の構成狀態を知り、自ら仕事もし、指導もし、墨附け出來、一人にて構成し得るまでになれば大工徒弟の理想である。

以上の主なる道具をとりだし、その練習の時期を擧げたのである、以上の外の大工道具には餘り深き練習なくとも、充分にその目的を達せられるものは、之を省略したのである

例へば、錐、鎚、定規、其他等である。

筆者は各道具につき充分取扱ひ得るまでの練習期間は何時までかと云ふ研究して見たいものと努力したが、何れも滿足な結果が得られなかつたのでした、之は技術は練習のみにて、その技能に甲乙が生ずる外に、頭と、生來の性質にも大いに關係があり、一律に決定しかねるものである故、その數字を述べることを差控へたわけである。

C、徒弟養成の目的と大工の一人前

徒弟養成の目的は、大工の後繼者の養成である。技術的の繼承である。亦徒弟から云へば一人前の大工への修養であるとも云へ得るのである。一人前の大工とはどんなものか、之亦議論百出の問題である之が充分になれば、賃銀の問題も易々と解決し得るものである嘗て日光東照宮の寶物殿を見學したことがある。その寶物の內に、東照宮の上棟式に用ひたと云ふ、大工道具の供物がある。それは釿と墨壺と曲尺である。何れも善美を盡したものである故、實用のものではないと思はれる。

併し、筆者の察するに、當時の棟梁又は親方の腕前の象徴（シンボル）、技術技巧の偶像として此處に供へたものと思ふ。換言すれば、以上三種の道具の完全なる使ひ分けが出來るものこそ眞の棟梁の理想と考へたものと信ぜられる。

釿は木取りを、墨附は切組構造を、曲尺は計畫を指示したものではないかと推察する。之により、思ふに大工の一人前中には、單なる道具の取扱ひだけではない、組立技術と計畫技術が包含されてゐたものと推察して間違ひないのである。換言すれば、技能の完備である、製作技術と構成技術の外に創作能力まで希望して居た樣に筆者は考へたのである。

今現在の大工術を考へ、その一人前を定義して見たいと苦心した。大工業組合の方々に色々尋ねたが、明らかでなく、又大工棟梁にも尋ねたが、明瞭な答は得られなかつた。

それには種々なる原因がある。大工には各々その特異とする所がある。造作に秀でたるもの、建前に、木取りに、切組に、墨附けに、假枠取付けに秀でたるものもある。故に一人前の資格を何處にをくかにより、異なるし、實際は何れに優秀であるにしても、立派に一人前の大工として世間も認めるからである。

隨て一人前の仕事となつても前同樣、決定し兼ねる、仕事の程度と仕事の量の相乘積で計算するが至當であらうけれども、程度と量を如何なる割合にするか數理的に決定することは難關がある。併し、請負工事にては之を金額に換算して、決定はしてゐる。例へば板削りなれば 30 坪、丁寧なるものなれば 10 坪とか云ふ如く、貫穴なれば60箇等と稱してゐるのがある。併し、大工の技術をこの方法のみにて決定することはどうかと思ふ。普通の大工即ち徒弟を經たものなれば、此方面の仕事位の出來ないものは殆どないのである。然らば、何を標準にするか亦難問題である。併し一般世間には暗々裡にその規定がある。大工募集と云ふ廣告が出る。應募者を決定する時何等かの標準がある筈である。亦實際工

事には適材を適所に割宛てて、その作業能力を擧げる様に現在努力してゐるのである。

實際一人前の大工と云ふ定義を技術的に證明し、その技術の精巧さ、そのなし得る能力量の決定は目下の所、決定されて居らない、只經歷により彼等を一人前の大工と認めてゐるのである。即ち徒弟修了せしもの、を主體とし、之と同等以上の技術のあるものを一人前と稱してゐるものと認定してゐる現狀である。

D、徒弟修業の年數

徒弟として親方の許に入る年齡は何時がよいかと云ふに對して意見が分れる。

技術には、微妙なるコツと云はれる一種の肉感的の動作がある。これを體得させるには幼い程よい、との說がある。昔は 10 歲前後で弟子入りしたが、現在では少くも尋常科を卒業したものでなければならないのである。故に尋卒程度のものが理想である。又、技術と云ふも大工のには、相當の體力と腕力が必要である。故に相當體力の出來た、高等科卒業ぐらひのものがよいと云ふのもある。兩者ともにその根據に不滿がある。大工の技術は彫刻又は繪具の樣に微妙なるコツを餘り必要としないものである。藝術的な建築よりは工業的な、合理的の建築が將來主として要求されるのであることを思ふに付け以上の根據は理とならないと信ずる。建築を理解し、技術を練習し得る體力の出來た、高等科卒業位が目下の所最もよいと思ふ。又趨勢は此處に辿りつゝあると、大工業組合の幹部より聞いたのである、當然の歩みと思ふ。

次に何年修業すればよいか、昔は 10 年以上修業して始めて親方より許しを受けて、一人前となり世間に出たものであるが、現在は弟子入りの如何に關係せず適齡までと決定してある樣である。尋卒なれば 14—15 才より 7—8 年 高等科卒業なれば 5—6 年となるわけである。適齡後は一人前の大工と見做してゐる現狀である。尙昔は御禮奉公と稱し、年期あけ後尙2年乃至3年親方の許に働くことが習慣であつたのであるが、現在餘り實行されず廢れてゐるのである。

かくして始めて、一人前の職人となり、何處に行くも一人前の待遇を受ける資格が出來るわけである。併し以上のは年數から見たのであるが、各々個人の技術能力により、必らずしも、一人前となるに實際7ケ年かゝると云ふわけではないのである。例へば鉋削りにしても6ケ月もあれば充分に一人前となり得るものもあれば1年も2年もかゝるものもあるし、尙且つ充分出來ぬものさへあるのである。

徒弟への技術の敎授は、大體は親方が敎へるも、多くは兄弟弟子の友敎へ、又は見覺えが主となるものである。別に練習として課せられるものではない。その結果として、腕が出來ぬ內は、決して仕事は與へられない。それが爲、腕の出來ぬものは、益々遲れてしまふものである。以上の方法による故技術的に、一人にて一軒の家、如何なるものでも完全に纏められる腕までは中々得られるものではないのである。只目下の所は、かゝるまでの

技術を必要としない現場が多いし、現場監督者が大工の技術を補ふて呉れる故、適齢までとし、それ以後を完成せる工人として取扱ふも大いに意味あるものと首肯される。

今後の大工は、藝術家でも工藝家でもない、構成者であり、工人であると思ふ。建築は美術品と考へるよりは工業品として考へるのが至當であると思ふ時、徒弟修業年數の餘り長きは不適當であると考へられる。

E、現在の徒弟制度の欠陥

現在の徒弟制度には幾多の欠陥がある。先づ第一の欠陥は、無秩序無組織の下にある練習のみを主とする技術習得法であるが爲に多くの修業年數を要する欠陥がある。秘傳とかコツは始めから計畫的に教へられるのでなく、一人前となつてから、自ら悟る程度になつてから與へる方法によるは、非常なる勞働力の無駄がある。故に今後は、秘傳とかコツとか云ふものを始めより公開し、然かも誰もが理解し得られる様に、或様式を造り、それにより徒弟を指導すると云ふ方法によれば、短期間に技術を習得し得て、親方も、徒弟にも好都合になるのではないかと思はれる。次に折角技術の優秀な親方を撰擇して、之に入門しても、親方が實際の仕事に從事しなければ、教へられる機會もなく、又その技術を振ふだけの仕事がなければ、何年經るも覺え込むことは不可能になる欠陥がある。次は組織の欠陥である、即ち長年の徒弟修業を了へ、技術を充分得たとするも、親方となり、棟梁として立つにはそれにたへるだけの經濟的力を有しなければ出來ない仕末である、技術の習得のみを目的とする徒弟制度の破壞されんとする、原因は此處にもある。尙一方技術は次第に簡易となり、長年月の修業をせずとも間に合ふ様に建築の構造術は進歩してゐるためでもある。

これが爲には、餘りに徒弟時代の努力が大きい所にもある。併し、目下の處は大工となる道は徒弟による外ないのである。

やがて大工の養成所が生れる時もあるであらうが。併し、以上の欠陥はあるにしても、徒弟は全く、月謝も、御禮も出さずに、技術を教へて貰える處に强味がある。目下の所此の制度が影を沒してしまふとは考へられない。

併し、現在のままにして放任してをく時は頭腦明晰なる少年から捨てられてしまふことは已むを得ない處である。制度を改良するか又は他によき制度養成機關を造ることは目下の處必要ではないかと考へられる。

F、對策としての徒弟制度の改新と學校教育の革新

以上の對策として徒弟制度並びに學校教育の革新を計り幾分の努力と徒弟のために割愛させたい念願を基礎として、次の如き考察と私案を述べて見る積りである。

徒弟の第一の目的は一人前の大工技術を習得したい念願である。一人前の大工の技術範

圍を明瞭に決定し、最小限これだけの技術は必要であると云ふ限界を定めることが先づ必要となるわけである。之は世間一般、大工界の重鎭が決定すべきであるから、暫く之を預り、その範圍が決定されたものとすれば、次にはその技術範圍を合理化し、その習得方法を合理的に、その原理を科學的に考究し、その技術を標準型化し、一目明瞭たらしめをき過去の失敗に時を移すことなく、安心して、技術を習得し得る様、作業指導方法を發見することが、徒弟養成を合理化し得、且つ、その年數を短縮し得るわけである。

無益な努力、有害な努力は却つて徒弟をして新興の氣分、潑溂なる氣分、創造力をにぶらしてしまふことになる。直觀による朗らかな指導は、徒弟をして益々、元氣にし且つ、仕事へ對して感興を湧かし得るものであると信ぜられる。此處が明らかになれば、徒弟制度は技術的に改新されることになる。各親方は此の方法を採用すれば、容易に徒弟を養成し得るわけである。尙之に科學的の建築學をと云ふと如何にも重複するが、學術的のことを教へ込み、新興建築への力を徒弟に與へる方法として講習會又は短期の學校を利用するのも一方法である。

次に大工養成所としての學校はどうかと云ふ問題がある。或者は技術を教へるに學校は不適當である。第一に實習時間練習時間が短いと云ふて居られる、併し、これは可能であると信じ切つて居る。恰も畫家に彫刻家に美術學校が役立つ様に、勿論中には美術學校は却つて技術を害ふ天性を損すると云ふが、やはりその方面に一大貢獻をして居ることには疑はれない。然らばどんな方法によるか、先づ大工技術を完全なる様式、合理的なる習得方法、昔のコツと秘傳とを公開したものを作成し、之により、短期間に先づ技術を教へ込み之が練習させる。外人間として大工としての一般常識と技術の基礎原理を教込む方法によるのである。かくすれば先づ大工として、少くも將來益々技術が簡易化する時代に思ひ合すれば、大工養成は可能であると信ずるも誤りないと私は思ふ。次に將來彼等をして棟梁たらしめ親方たらしめ、世話役たらしめるために、如何にせば、仕事の能力を擧げ得るかの技能を研究させたい。大工としては、昔は自分だけよく仕事が出來、充分の仕事即ち一人前以上の仕事が出來さへすればよいのだが、それだけでは充分ではない。現場には不熟練のもの素人さへ使はねばならないことがある、その場合尙それ等不熟練なるものを指導し、自分の腕以上の仕事と、一人前以上の仕事の能力を擧げ得るものでなければならない筈である。

その爲には、仕事の方法、技術を自ら顧み理窟なく、直觀的に素人を直ちに教育し、一人前の仕事をさせ得る教育者たるの能力がなければ駄目である。更に仕事の段取りを明らかにすることが必要である。

之は或る劍道の教師に聞いた話であるが、初段の者が試合では三段のものを破ることは決して珍らしい事ではない。併し、三段のものは決して初段のものの腕以下ではない。試合には負けても尙、三段のものは初段のものに稽古を付けて、之を二段にしてやることが

出來る、その教育力、技術の完全なる認識が三段たる資格であると云はれた。蓋し、至言である。親方は單に腕だけでは駄目だ、充分に自分の腕を知り、それを以て、徒弟を職工を教育し得てこそ、眞の一人前の大工であり・親方であると思ふ。その方法は學校、少くも徒弟教育では必要であると思はれる。

以上を一言にして云へば、技術の定型化、それにより、教育し、それにより、現場の仕事を能率擧げて行ける様に方針を改めるにあること强調する。

G、大工技術の標準型作成の必要

大工技術を公開して誰もが、容易に習得し得る様にしたい、無益な努力なしに進んで行きたい希望からと、もう一つは仕事の能率を擧げたい希望から、その作成と必要が强調されるわけである。標準型とか様式とか定型とか色々と同じものを云ひ表はしたが、これは大工の技術のコツをそのままカンだとか、微妙だとか云はずに、もつと精細に具體的に、說明を加へたものである。鉋削りするを一例にとれば、鉋をどんな風に造へれば平滑に削れるか、どんな姿勢にて、どんな風に鉋を持ち、どんな時にどこに力を入れ、どこで抜くか、最も力も經濟的に使用し仕事がよく出來能率を擧げられるかを詳細に研究して見る。その結果をよく、調査し、よつて來るべき原理を考究し之を實際に教育し、その結果を調査し、更に始めにかへり、その技術の再吟味し、更に教育してその結果を見る、等不斷の努力と研究により作成さるべきものである。

故にこの様式は時々刻々變化し行くべきもので、決してその型が不動の者と化するものを指すのではない。型と云へば、技術の最高點を示したものにして、それよりは技術は下り坂となると考へられる。木割法、雛形が生れて、建築計畫に見るべきものがなくなつた。同様、大工技術の型が一定したなら、大工技術は低下するではないかと云ふ說がある、至極同感な說である。併し、型あれば多くの人、凡人をして一人前の仕事をさせることが容易である。尙之に捕はれずに、年々新しき型への研究を進めて行くとしたなれば、決して技術へ對して、御心配なさる程の妨害は與へないものと信ずる、尙この型のため、徒弟の受ける喜びを思ふ時、この妨害は他の方法で除き得ると考へ、推薦して間違ひないと信ずる

H、結　　び

私は現在の徒弟制度の改新を技術的にのみ求めた、勿論經濟的發達とその變化を無視したわけでは決してない。只此處ではその問題から離れて、工人としての意見を技術上に求めるのであることを諒解して頂きたい。尙

前節にて述べたる一人前の大工の仕事量とその技術は、之は大工業者の協議により大體決定され得るものであると信ずるし、その技術の定型化も又、熟練なる大工の努力により可能であると信ぜられる。かかる方面へ一日も早く、實現され、目下府下一萬に近き徒弟者の爲に新しき道の開かれんことを希望し、祈願して筆を擱く次第である。

疊　の　調　査

材　料　委　員　會

材料委員會の一分科として日本疊の調査をすることに決定した、擔當者は相當範圍廣く調べて見たい希望であつたが、扨て事に當つて見ると、據るところ少なく、現今の疊職は德川中興以降の如く隆盛なるものでなく實用本位に傾き技倆を練るとか專心研究するとか謂ふ六ケ敷しきものでなく只如何にして丈夫で、立派で、價格の安きものを造るかと謂ふ點が本領にて偶々宮職とか茶室構造位ひには本質を發揮する位ひにて斯道の漸次衰微する傾きは現在我國大建造物が洋風に變遷しつゝある結果と一言にして謂へる次第である。

從つて此疊を相當詳細に調べるに付き斯道の大家に出會ふことの出來なかつたことは殘念であるが、幸ひ大阪三鄕疊職仲間の屋號の方又は明治初年の仲間の方の意見を拜聞し、以下關西方面を主として各項に付き調査したる點を揭げることにした。

1 疊の起源及變遷　　2 疊の床　　3 疊の表
4 疊の緣、紙及糸　　5 疊の工作法　　6 特徵及將來

1. 疊の起源及變遷

我民族の生活が坐居する習慣上敷物と云ふものが必要であつて現在の疊までに變遷するには相當の時代と改良があつた、德川末期よりは實用本位に傾き明治以降は洋風建築の影響にて何等の進歩と改良もされなかつた、其起源は神代であつて民族の日常生活に應じ敷物としての質に變遷あり佛教渡來以降相當大なる改革で今日の疊の濫觴であつて平安朝、鎌倉時代には必要なる部分が使用されて居たが、足利時代の茶室の隆盛に從ひ完全に發達したものである。

今此れの文獻及古記に依り次に摘錄し其變遷を示さん。

神代及上古時代

古事記のワタツミ宮の段に『ミチノカワの疊八重を敷き又其上に絁疊八重をしき』とあるは、綿津見宮か彦火々出見尊を迎へ參らせしに美智（海驢）皮又は絁（拷布）を疊み重ね席を設けられしにより疊みと云ひしなり。

又白樫原朝大御歌に『すがたゝみ敷きて二人御寢座、云々、倭建命御歌に『たゝみこも、へぐりのやまの、云々とあるを見ると神代にても皮、絁、の外に菅、薦の類も敷疊として用ひられしこと明なり。

亦景行天皇の御宇弟橘媛浦賀のあたりにて海に入り給ひし時菅筵八枚、敷皮八枚、きぬ

の敷物八枚を波の上に敷重ね飛下り給ふとあるは敷物としては相當材料の纏つてあつた様に見受けらる。

上古時代の末聖徳太子の時佛教つたはり支那と交通をはじめし時疊表又其造方が傳つて大いに改革された、當時の現品が法隆寺に保存されあるを見ると龍鬚表の様で薄緣形のものであると。

奈良朝時代

萬葉集に依れば『カラクニノ　トラチフカミヲ　ヤツトリモチキ　ソノカワヲタヽミサシ　ヤエタヽミ云々』とあるは韓國の虎と云ふ神を生け取つて八頭持ち來り其皮をたゝみ刺して八重疊と云ふとの事にて毛皮の類をも用ひらるゝ様に見受けらる、又同集に『疊薦重編』と云へるは薦をたゝみ重ねて疊と云ふものを作つた様で、其後稻殻をたゝみ重ね編みて作る疊は今日の疊と同形のものである、やまと言葉に依れば重ねたゝむの義であつて氈、茵、席、薄緣、疊と文字も變つた様である、現代正倉院に藏せらるゝ御茵は奈良朝時代のものと言ひ傳られて居る、奈良朝時代の後期には藁を重ね編みそれに表を付けたる疊の形が完全に出來た様である、只今の疊の名實共に纏つたものである。

平安朝時代

平安朝に入つて建築の様式が寢殿造りと著るしく進歩し從つて疊緣も亦錺緣、高麗、錦緣、紫緣、綠緣等を用ひ立派なるものになつて實用化された、最初は上御一人の御褥として用ひしも天皇のお裾分けを近臣の者が賜つて用ひる様になつた、而し當時は疊は必要に應じ敷き又は取除く様であつたのである、枕草紙に『いとつやゝかなる板のはし近う、あさやかなるたゝみひとひら、かりそめにうちしき三尺の几帳、おくのかたにをしやり云々』とあり又今昔物語に『在原業平女をぬすみ出して、大なるあぜ倉につれ行くところに板敷の板もなくて立寄るべきやうもなかりければ此内に疊一枚を具して此の女を臥せたり』云々とある、又源氏物語須磨卷、二條院殿上の様を述べた言葉に『だいばんなども、かたへはちりばみて、たゝみどころところ、できかへしたり』とある如く僅の間にも座はむに付き不用ならば引きかへして置く様にして居て今日の如く一間に敷詰めては居なかつた様である。

鎌倉時代

此時代より疊は床に表、綠を附し高貴の御殿及由緒ある寺院に限られ用ひた様にて平安時代より一と間に敷詰めらるる様に變化したのである、法隆寺の太子殿が七百年前の鎌倉初期の建立であつて、それに敷かれたる疊の中當時のもの六帖殘存して居るとのことに依つても疊が一と間に敷詰られたことが證明される。

室町時代

此時代に茶の湯を初め、能、狂言等の遊樂が專ら盛んになり金閣、銀閣等數寄を凝らした建物が流行し疊も一段と進んで、掛縫床が編み出さるるに至つたのである、桃山時代よ

り疊が中流階級にまで用ひらるる様になつたが疊緣で上下の區別することになつた、海人藻に依れば、疊の事、帝王繧繝端也、神佛前半疊用二繧繝端一、此外實不レ可レ用也、大紋高麗端親王大臣用レ之以下更不レ可レ用、大臣以下公鄕小紋高麗端也、僧中僧正以下、有職非職紫端也、七位侍黃端也、諸寺諸社皆用二黃端一、四位五位雲客用二紫端一也、とせられて居る。

德 川 時 代

此時代には疊の普通化益々激しく武士階級は皆使用したが封建の階級的差別は相當劇しかりしにより足輕級は用ゆること許されなかつた、元祿の頃は町人も用ゆることが出來たが其支配者はそれそれ稅を取りたてた爲め町家には店の間等は板間のままとして居間には出來得るだけ用ゆる様になつた、品質も異常に發達し兩面掛縫床の如き空前の精々品を造つて今日迄で及んで居る。

明 治 以 降

世は四民平等になり農家などにて贅澤品と見られて居た疊が日用品扱ひになり、大正に遷るに從つて需用が頓みに加はり德川時代の流れに依る質の優良よりも經濟的、實用的の要求に應する爲め機械床の考案が企てられ大正十年以降は製床機の完成を期し昭和の今日は相當高級品にても機械床にて手製の如きものは最高級が、機械製に平行さる位ひの程度に一變した形である。

疊床の名稱及品質

手製床		
稱呼	竪縫糸數	巾通筋數
菰裏 8通	35	筋縫 8通
同 9通	38	同 9通
同 10通	42	同 10通
同ハギ 11通	45	同 11通
同 本 11通	45	實當て筋縫11通
同 12通	45	同 12通
同 13通	55	同 13通
丹波裏 11通	45	同 11通
同 12通	45	同 12通
同 13通	55	同 13通
同 14通	60	同 14通
同 筋 75	75	同 14通
同 筋 90	90	同 15通
同 掛 75	75	掛縫 14通
同 掛 90	90	同 15通
同 掛 100	100	同 15通
同 掛 120	120	同 15通

器械床	
稱呼	巾針竪針
8通代用	18本針
	20本針
9ッ代用	18本針
	20本針
10通代用	20本針
	22本針
	24本針
11通代用	

2. 疊の床

一疊床原料の藁は梅雨期を過ぎ藁の根元に居る雲蛾が出てしまひ相當乾燥したる十月末頃迄のものを一般に使用し、新藁は不完全である、疊床は機械製と手製とありて機械製は播州、淡路、大和、江州、丹波等で產出するが播州は第一位である、手製も各所で製作するが淡路產が最も多い、床の手製 13 通り以下のものは機械製の使用が丈夫で且德用である。

床の上下の區分は裏附の菰とか疊表。竪糸橫糸の通數及重量に依つて差別する。

現今一般的に手製は高級品の 13 通以上が多く使用せられ殆ど機械製で充分である

濕氣多い箇所では稀に棕梠裏を使用する事もある。

手製疊床

立數	通數	裏附	重量	縫糸	寸法	製造工賃
40	10	莚	4貫500	信州撚糸		1人3分
33	8	同	4貫000	同		1人25
47	11	同	5貫000	同	6尺60 3尺25	5分
47	12	丹波表	5貫000	同	6尺60 3尺25	5分
53	13	同	6貫000	同	同	7分5
60	14	極上丹波表	6貫500	信州産二筋撚糸	同	1人
75	14	備中産中髭表	7貫000	同	同	1人
90	15	同	7貫500	同	同	2人
100	15	備後引通表	8貫000	同	同	3人
120	15	同	8貫000	同	同	4人
150	15	同	9貫000	同	同	5人

機械製疊床

立數	通數	裏附	重量	時價
43	18	莚	5貫000	円 .75
53	24	同	5貫500	1.00
47	22	同	5貫000	.90
65	24	丹波表	6貫000	1.50
75	28	莚	6貫500	1.20
100	28	丹波表	7貫500	2.50
75	28	同	6貫500	2.10
165	28	備中産中髭表	8貫000	3.00
125	28	丹波表	8貫000	2.50

3. 疊の表（表の説明）

疊表の産地として從來より備後福山産を最上として尾道これに次ぐもので、之れを區別するに耳の織工合にて見分けて居たが、現今同一の機になり見別六ケ敷しきも既して福山は莖が堅く、尾道は柔らかきものなり。備前備中は岡山産にて實用本位の表である、琉球表は元來琉球とか、七島、豊後産であつたが現在は豊後産が一番多し、花莚類は岡山地方特産である。

表の種類に六配とか三配とかあるは疊の寸尺に合し兩耳で六ツ目とか三ツ目落せる巾のものを云ふ、從つて多く落せるもの程上等となする長髭通とは中纖なきものなり、又中髭、小髭とは織端の髭の長短を云ふ、流備表は床間用の疊にて赤口と青口の二種あり。

備前備中産に大頭、小頭と云ふは品質の上下を表すものにて琉球表の大抜、中抜とは中髭、小髭と云ふことと同じ。

薄綠は無地のものを諸目と云ひ捺染用は印刷都合上目迫を用ふるものなり、以下次の表を對照せられたし。

各種疊表の表

備後本口表

品目	重量	種別	疊目數	寸法
書院表	1貫100匁乃至1貫200匁	各種上中下	72	巾3尺4寸 長6尺7寸
六配表	1貫000匁乃至1貫200匁	同	71	巾3尺35 長6尺7寸
四配表	850匁乃至1貫000匁	同	70	巾3尺30 長6尺7寸
三配表	650匁乃至800匁	同	69	巾3尺25 長6尺7寸
二配表	550匁乃至700匁	同	68	巾3尺2寸 長6尺7寸
長髭引通表	600匁乃至700匁	同	68	巾3尺2寸 長6尺7寸
二配引通表	500匁乃至600匁	同	68	巾3尺2寸 長6尺7寸
流備表大目	280匁	同	—	巾3尺00 長6尺7寸
流備表八分目	280匁	同	—	巾3尺00 長6尺7寸

備後尾道表

三配表	600匁乃至750匁	各種上中下	69	巾3尺25 長6尺7寸
二配表	550匁乃至650匁	同	68	巾3尺20 長6尺7寸
引通表	500匁乃至600匁	同	68	巾3尺2寸 長6尺7寸
二間無地表	1貫100匁	同	—	巾3尺15 長12尺98
五分石目市松表	——	同	—	巾3尺15 長6尺6寸

備前備中表

中髭表大頭	800匁	各種上中下	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
同中頭	700匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
同並頭	550匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
小髭表大頭	600匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
同中頭	500匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
同小頭	450匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸
引通表	350匁乃至500匁	同	66	巾3尺2寸 長6尺6寸

豐後青莚琉球表各拾枚

大抜表上	12貫000	各種上中下	—	巾3尺25 長6尺7寸
同中	11貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
同下	10貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
中抜表上	7貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
同中	6貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
同下	5貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
段物上	5貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸
同中	4貫000	同	—	巾3尺25 長6尺6寸

花莚表無地及捺染				
290立諸目表	9貫000匁乃至9貫500匁	各種上中下	—	巾3尺15　長129尺0
240立諸目表	7貫000匁乃至7貫500匁	同	—	巾3尺15　長129尺0
290立目迫表	6貫500匁乃至7貫000匁	同	—	巾3尺15　長129尺0
290立捺染表	3貫0 0匁乃至4貫000匁	同	—	巾3尺15　長129尺0
織込模様表	3貫000匁乃至4貫000匁	同	—	巾3尺0　長123尺0
土佐間組表	6貫000匁乃至7貫000匁	同	—	巾3尺0　長123尺0
240立捺染廣間敷	——	—	—	巾3尺0
緣附上敷				
大正諸目	——	—	—	巾3尺15
290立諸目	——	—	—	巾3尺15
240立諸目	——	—	—	巾3尺15
同中巾	——	—	—	巾3尺00
290立目迫	——	—	—	巾3尺15
同中巾	——	—	—	巾3尺00
290立捺染	——	—	—	巾3尺15

4. 疊の緣（表の說明）

疊緣の內高宮は最上品であつて麻糸の細口を一本選となしたるものにして高級で體裁を重ずるものに適し、府中は糸太く實用向きである、加賀緣は之れに次ぐと云ふて差支ない、松井田は太麻で糊をしてある位で革緣代用と云はれて居たが現今使用少なし、光輝緣は麻混用と云ふかカタン糸の様で現在實用向で三圓內外の疊に一番多く用られ現在の實用疊は皆光輝織と云ふて差支なし、木綿緣はあまり用ひられない。

紋緣とは高麗緣の事であつて織物と捺染とある、九重高麗とは一名豆紋と云ひ高貴なるところに用ひ普通は大紋、中紋、小紋の高麗を用ゆ、品質は純絹、人絹混用、瓦斯糸程度にして捺染ものは下等なり。

次ぎの表と對照せられたし。

各種疊緣布の表

本高宮正紺上	（疋物）	20帖取	巾1尺2寸
新高宮正紺上	（反）	10帖取	巾1尺1寸
本麻撚糸府中正紺	（同）	10帖取	巾1尺1寸
加賀紺緣	（同）	10帖取	巾1尺1寸
高宮色緣	（同）	10帖取	巾1尺1寸
松井田紺緣	（同）	12帖半取	巾1尺1寸
光輝紺緣	上中下	10帖取	巾2寸3分
光輝色緣	同	10帖取	巾2寸3分

木綿正紺絲	（疋）	25帖取	巾1尺1寸
レザー絲	黒、茶		
革絲	黒漆		
型置文絲（スリコミ）	（反）	10帖取	巾1尺1寸 大巾ニテ大中小 紋ニテ一定セズ
織物文絲	（一本）		
文絲　九重高麗、瓦斯織高麗、シルケツト高麗、絹混用高麗、純絹織高麗			

疊緣用の紙及糸

生漉紙を最上とし普通はハトロン紙を用ゆ、縫糸の高級品は信州産撚糸にて一般的にラミー麻糸を使用す。

5. 疊の工作概要

床は極上等の乾燥したる雲蛾などの居らない藁を原料とし先づ裏附の疊表又は菰の上へ竪藁を左右より各三段に並列し胴菰を置き、竪藁横藁上配の順序に各高低なく推積し機械製は「ローラ」にて壓搾しつつ「ミシン」掛けし手製は縫糸を千鳥に掛け足にて踏み締めつつ刺し固め仕上ぐる。高級品は胴菰を打ちて柔かくしたるものを使用す。

表附床の兩端を切斷し框板を入れ適當なる寸法となし表を張る、敷に合して適宜に藁を入れ緣り縫ひ付け仕上ぐる。

6. 特徴及將來

疊は住宅設備の內建具と同樣最も人に接觸する材料で保健上重大なる關係があり、又維持保存上充分考へなければならぬものである、生活の本體を座式とするなれば疊に代る敷物はなく將來に於ても見出すこと出來ないものと斷言し得るのである。

人間が終日活動して其慰安を住宅に求むるものでなければならぬ、大正時代に一時洋風住宅勃興したと云ふことも住宅の居心地と云ふ以外に外形的慰安をも求めたる結果でなかつたかと思ふ、而し住居は座式か椅子式かの問題が八釜敷くなり、實際問題として或る程度の椅子式を必要とするも住宅本來の使命は座式でなければならぬことに歸結したのである。

座式に是以外に適當なるものなしとして、洋風住宅の窓は床面より2尺5寸以上も高く內部漆喰塗と云つた室內に疊を敷いたとて充分なる慰安が求められなければ氣分も出まいと思ふ、矢張り床には置物の一つもあり、取合には襖、椽側の巾も廣く、手狹ながらにも前栽の植木も手入れされてあるところにほんとうの我家と云ふものが見出され、座、敷、と謂ふ言葉の通りの安息所になるものである。

外國に長く行つて居る人、又は遠洋航海等をした人が一度踞座を組んで見たいと床の上とか、ベツトの上に坐つて見るが日本座敷で見る氣持にならんとの事である、之れは敷物

として疊の如き堅からず、柔からざる材料の賜にて、座式には疊に代る敷物がないと云ふことにもなり、一面防濕的、保溫的に考へても之に代る材料はないのである。

斯様に座敷の敷物として特長あるものであるが其保存法、清潔法と云ふ點を考へると現狀の材料にて最善と云ふ譯のものでなく、尙改良すべき點多々必要として居る次第で當委員會にては之が解決出來なかつたのは殘念であるが皆様の大いに御一考を煩したき次第である。

何とならば日本の座敷は客間、居間、食堂、寢室、病室等實に用途廣く實に勝手なものにして疊の使命が二六時中間斷なく用ひられ然も掛替のなきものである、今少し日常生活の肌着、衣服、夜具と云ふ様に洗濯するとか日光に晒すとかの手入法が出來得ると宜敷きも之とても面倒なものである、彼の大掃除に家並を見るに實に幾年前のものか、朽ちて黴さえ生へて居るものは決して少なくない、元來我國民は潔癖であり、綺麗すきであるから座敷を飾るとか、便所の床板を日毎に拭掃除するとかと同様の考へであつてほしいものである、會々何かの機會に建物を洗ふとか、壁を塗替へることがあつても疊は表替位にて床をも捨てるまで仲々の問題となつて保健上遺憾である、之れを良く考へると床が丈夫すぎるのでないか、又一面疊屋さんの方で新品を買つて頂くより表替の方が手取早く利益であるとでも申すべきか、何れにしても面白くない習慣である、茲で一家庭ありとして赤兒から5—6才位ひ迄で育てたとして其疊との關係を考へるなれば、よくも藁製のものにて亂暴に使ひ平然として居られると思ふ、此等の點を綜合的に考へるなれば一時改良宣傳された防水式疊床も必然的のものでなきや。

次ぎに來るべきメートル法實施に當り疊の規格が如何にすべきや、元來關東と關西の住宅建築の柱間が違ふと云ふ點に規格統一が必要である、吾等は何れかに統一されるものと考へるが、若し從來の型にそれぞれ東西が成行くものとしても關西は疊2メートルに1メートルと云ふ様な簡單な事になるまい、今日表用葦の長さは關西用としては相當注意して作られて居るが、尙2配以下の表では立派なるものが出來難い、依てより以上のものを要求することは無理でなからうか、然らば現在を踏襲するなれば 190 cm × 95 cm が適寸であると申したい、規格統一に依り關東關西一致するなれば原料の點を考へねばならぬ、現在の葦を作ること及現今米作に增石を計りつゝあり藁の丈　短くなり易い場合疊を經濟的に造る方面より見て關西、關東の中間を取ることも至當か、此統一に就ては深甚の注意を要すべきものとす。

各種パイプ類市場品調査報告

材料委員會

1. 近時各種材料の規格統一され日本標準規格として商工省工業品規格統一調査會に依り作成發表され最近亦電氣配線用パイプの規格に付調査を了し我日本建築協會にも之が可否に付意見を求められ材料委員會に於て調査答申せし次第にて今此處に現今市場品として製作販賣せる主要會社の製品寸法を調査報告することゝせり。
2. パイプを左の5種に大別し各日本標準規格及製品寸法表を掲ぐ。
   (1) 鋼管(鍛接及繼目無)　(2) 銅及眞鍮管　(3) 鑄鐵管
   (4) ヒユーム管及經大鋼管　(5) 鉛管
3. 鋼管、日本標準規格寸法表及製造會社の製品寸法表を左に掲ぐ

鋼管類製作範圍　(住友伸銅鋼管株式會社ニ依ル)

(瓦斯管)

品名	管ノ稱呼	外徑 ミリ	外徑 吋	近似厚サ ミリ	近似厚サ 吋	近似厚サ W.G.	重量(接手ヲ含マズ) 1メートルニ付 瓩	重量(接手ヲ含マズ) 1呎ニ付 瓩	螺子山數 1吋ニ付
熱間仕上繼目無鋼製瓦斯管	5	139.8	5½	4.5	0.1772	L 7+	15.015	4.578	11
	4½	127.0	5	4.5	0.1772	L 7	13.595	4.145	11
	4	114.3	4½	4.5	0.1772	L 7	12.186	3.715	11
	3½	101.6	4	4.2	0.1653	B 8	10.089	3.076	11
	3	89.1	3½	4.2	0.1653	B 8	8.794	2.681	11
	2½	76.3	3	4.2	0.1653	B 8	7.469	2.277	11
	2	60.5	2⅜	3.8	0.1496	B 9+	5.313	1.620	11
	1¾	54.6	2⅛+$\frac{1}{32}$	3.8	0.1496	B 9	4.761	1.452	11
	1½	48.6	1⅞+$\frac{1}{32}$	3.5	0.1378	B 10+	3.893	1.187	11
	1¼	42.7	1$\frac{11}{16}$−$\frac{1}{64}$	3.5	0.1378	B 10	3.383	1.031	11

1. 各管ハ總テ日本標準規格ヲ規準トシテ製作
2. 各管ハ總テ兩端ニ標準螺子ヲ切リ、繼目無鋼管製繼手一個及保護環一個ヲ附ス
3. 特ニ指定ノモノニ對シテハ兩端ニ螺子、繼手ノナイ直管モ供給ス

鋼管類製作範圍

（住友伸銅鋼管株式會社ニ依ル）

品名	直徑 吋	直徑 ミリ	厚サ 最小 ミリ	厚サ 最大 ミリ	長サ *最小 ミリ	長サ ※最大 ミリ	最大重量 瓩
熱間仕上 繼目無鋼管 船舶及陸上用罐管 機關車焰管及過熱管 水道及瓦斯用管 製氷機用管、支柱管 石油坑用ケーシング 及チユービング 其他一般用	5½	139.7	4.0	12.7	3600	7050	150
	5⅜	136.5	3.8	12.7	3600	7050	150
	5¼	133.3	3.8	12.7	3500	7050	130
	5 3/32	129.5	3.8	12.7	3500	7050	130
	5	127.0	3.8	12.7	3500	7050	130
	4¾	120.7	3.8	12.7	3500	7050	130
	4½	114.3	3.5	12.7	3500	7050	110
	4¼	108.0	3.5	12.7	3500	7050	110
	4	101.6	3.4	12.7	3200	7050	90
	3¾	95.2	3.4	12.7	3000	7050	80
	3½	88.9	3.4	12.7	3300	7050	80
	3¼	82.5	3.1	11.0	3000	7050	60
	3	76.2	3.0	11.0	3000	7050	55
	2⅞	73.0	3.0	9.5	3600	7050	55
	2¾	69.8	3.0	7.9	3500	7050	55
	2½	63.5	3.1	9.5	4000	7100	50
	2⅜	60.3	3.1	9.5	4000	7100	50
	2¼	57.1	3.1	9.5	4000	7150	45
	2⅛	54.0	3.1	9.5	4500	7300	45
	2	50.8	3.1	9.5	5000	7800	45
	1⅞	47.6	3.2	9.5	5500	8000	45
	1¾	44.4	3.2	9.5	5800	8500	45
	1 11/16	42.9	3.2	8.0	6000	8500	42
	1⅝	41.3	3.2	8.0	6500	8500	42
	1½	38.1	3.2	8.0	6500	8500	42

備考　※印ハ最大厚サノトキノ長サノ極度ヲ示シ

* 印ハ最小厚サノトキノ長サノ極度ヲ示シマス

JES	日本標準規格	第38號
	瓦斯管ノ寸法	類別G16

管ノ稱呼	外徑 mm	近似厚 mm	近似內徑 mm	接手ヲ含マサル重量 kg/m
1/8吋	10.5	2.0	6.5	0.419
1/4	13.8	2.3	9.2	0.652
3/8	17.3	2.3	12.7	0.851
1/2	21.7	2.8	16.1	1.305
3/4	27.2	2.8	21.6	1.685
1	34.0	3.2	27.6	2.431
1 1/4	42.7	3.5	35.7	3.383
1 1/2	48.6	3.5	41.6	3.893
1 3/4	54.6	3.8	47.0	4.761
2	60.5	3.8	52.9	5.313
2 1/2	76.3	4.2	67.9	7.469
3	89.1	4.2	80.7	8.794
3 1/2	101.6	4.2	93.2	10.089
4	114.3	4.5	105.3	12.186
4 1/2	127.0	4.5	118.0	13.595
5	139.8	4.5	130.8	15.015
5 1/2	152.5	5.0	142.5	18.188
6	165.2	5.0	155.2	19.754

備考

一、日本標準規格第37號管接手ねぢニ規定セル圓錐ねぢヲ切ル管ノ外徑ノ公差ハ60.5mm以下ノモノニ在リテハ±0.5mm、60.5mmヲ超ユルモノニ在リテハ±0.8mmトス

二、前號以外ノ管ノ外徑ノ公差ハ±1%トス　但シ公差ノ最小値ハ±0.5mmトス

三、特ニ指定スル場合ノ外管ハ仕上リノ長ニ於テ其ノ兩端ニねぢヲ切リ一端ニ接手管ヲねぢ込ミタルモノトス

四、管ノねぢニ勾配ヲ附セサルトキ又ハ接手管ノねぢニ勾配ヲ附スルトキハ註文ノ際之ヲ指定スルモノトス(日本標準規格第37號管接手ねぢ參照)

五、ねぢ無シ又ハ接手管無シノ管ヲ要スルトキハ特ニ指定スルモノトス

六、管ノ重量ハ本表ニ示ス重量ヨリ輕キコト10%ヲ超エサルモノトス

七、重量欄ノ數値ハ本表ニ揭クル外徑及近似厚ノ管ノ重量ヲ示スモノニシテ1cm^3ヲ7.85gトシテ計算シ小數點下第四位ヲ四捨五入シ第三位ニ止メタルモノトス

大正十四年三月廿七日決定	工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第78號
	一般用繼目無鋼管ノ寸法 （内徑基本）	類別 G 19
		頁 1

單位 mm

内徑	厚																										
10	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
12	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
15	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
20	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
25	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
30	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
35		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5															
40		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5															
45		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5															
50		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
55		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
60		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
65			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
70			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
75			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
80			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
85			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
90				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
95				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
100				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
110				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
120				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
130					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
140					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
150					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
160					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
170					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
180						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
190						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
200						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
210						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
220							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
230							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
240							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
250							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
260								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
270								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
280								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
290									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
300									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
320									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
340										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
360										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
380										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
400											5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
420												5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0			
440												5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0			
460													6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0		
480													6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0		
500															7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0	26.	

備考　本表ハ日本標準規格第18號一般用繼目無鋼管ノ標準寸法ヲ示ス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第78號
	一般用繼目無鋼管ノ寸法 （外徑基本）	類別 G 19 頁 1

單位 mm

外徑	厚																										
10	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
12	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
15	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2																				
20	1.6	1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
25		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
30		1.8	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0																
35			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
40			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
45			2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
50				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
55				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
60				2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0														
65					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
70					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
75					2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
80						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
85						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
90						2.9	3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5													
95							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
100							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
110							3.2	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0												
120								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
130								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
140								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0											
150								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
160								3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
170									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0										
180									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
190									4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
200										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0									
210										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
220										4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
230											5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0								
240											5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
250											5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
260												5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0							
270												5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
280												5.5	6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
290													6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0						
300													6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
320													6.0	6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
340														6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0					
360														6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
380														6.5	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
400															7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0				
420															7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0			
440															7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0			
460																8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0		
480																8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0		
500																8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	16.0	18.0	20.0	22.0	24.0	26.0	

備考　本表ハ日本標準規格第18號一般用繼目無鋼管ノ標準寸法ヲ示ス

昭和三年十月十八日決定　工業品規格統一調査會

鍛接瓦斯管　（日本鋼管株式會社ニ依ル）

稱呼	外徑	重量（約）				ねぢ山數
		繼手無シ		繼手附		
（吋）	粍	瓩/米	瓩/呎	瓩/米	瓩/呎	每吋
* 1/4	13.8	.652	.199	.661	.202	19
3/8	17.3	.851	.259	.862	.262	19
1/2	21.7	1.305	.398	1.325	.404	14
3/4	27.2	1.685	.514	1.715	.523	14
1	34.0	2.431	.741	2.56	.78	11
1 1/4	42.7	3.383	1.031	3.47	1.06	11
* 1 1/2	48.6	3.893	1.187	4.10	1.25	11
* 1 3/4	54.6	4.761	1.451	4.92	1.50	11
* 2	60.5	5.313	1.619	5.49	1.67	11

本製品一本ノ長サハ普通 4.5 乃至 5.5 m ノ亂尺トス

繼目無瓦斯管　（日本鋼管株式會社ニ依ル）

稱呼	外徑	重量（約）				ねぢ山數
		繼手無シ		繼手附		
（吋）	粍	瓩/米	瓩/呎	瓩/米	瓩/呎	每吋
1	34.0	2.431	.741	2.56	.78	11
1 1/4	42.7	3.383	1.031	3.47	1.06	11
1 1/2	48.6	3.893	1.187	4.10	1.25	11
1 3/4	54.6	4.761	1.451	4.92	1.50	11
2	60.5	5.313	1.619	5.49	1.67	11
2 1/2	76.3	7.469	2.276	7.75	2.36	11
3	89.1	8.794	2.680	9.10	2.79	11
3 1/2	101.6	10.089	3.075	10.58	3.23	11
4	114.3	12.186	3.714	12.89	3.90	11
4 1/2	127.0	13.595	4.144	14.28	4.35	11
5	139.8	15.015	4.576	15.91	4.85	11
5 1/2	152.5	18.188	5.543	19.29	5.88	11
6	165.2	19.754	6.021	21.04	6.41	11

本製品一本ノ長サハ普通 4.5 乃至 5.5 米突ノ亂尺トス

一般用繼目無鋼管 (外徑基本) (日本鋼管株式會社ニ依ル)

外徑	肉厚	重量		外徑	肉厚	重量	
粍	粍	瓩/米	瓩/呎	粍	粍	瓩/米	瓩/呎
10	1.6	.332	.101	35	3.5	2.723	.829
10	1.8	.365	.111	35	4.0	3.063	.932
10	2.0	.395	.120	35	4.5	3.390	1.032
10	2.3	.437	.133	35	5.0	3.705	1.128
10	2.6	.475	.145	35	5.5	4.008	1.220
10	2.9	.509	.155	35	6.0	4.298	1.308
10	3.2	.537	.164				
				40	2.0	1.877	.572
12	1.6	.411	.125	40	2.3	2.142	.652
12	1.8	.453	.138	40	2.6	2.402	.731
12	2.0	.494	.150	40	2.9	2.657	.809
12	2.3	.551	.168	40	3.2	2.909	.886
12	2.6	.604	.184	40	3.5	3.155	.961
12	2.9	.652	.198	40	4.0	3.557	1.083
12	3.2	.696	.212	40	4.5	3.946	1.201
				40	5.0	4.323	1.316
15	1.6	.530	.161	40	5.5	4.687	1.427
15	1.8	.587	.179	40	6.0	5.039	1.534
15	2.0	.642	.196				
15	2.3	.721	.220	45	2.0	2.124	.647
15	2.6	.796	.242	45	2.3	2.426	.739
15	2.9	.867	.264	45	2.6	2.723	.829
15	3.2	.933	.284	45	2.9	3.016	.918
				45	3.2	3.304	1.006
20	1.6	.727	.221	45	3.5	3.588	1.092
20	1.8	.809	.246	45	4.0	4.051	1.233
20	2.0	.889	.271	45	4.5	4.502	1.371
20	2.3	1.006	.306	45	5.0	4.940	1.504
20	2.6	1.117	.340	45	5.5	5.366	1.634
20	2.9	1.226	.373	45	6.0	5.780	1.760
20	3.2	1.328	.404				
20	3.5	1.426	.434	50	2.3	2.710	.825
20	4.0	1.581	.481	50	2.6	3.044	.927
20	4.5	1.723	.525	50	2.9	3.374	1.027
20	5.0	1.853	.564	50	3.2	3.599	1.126
				50	3.5	4.020	1.224
25	1.8	1.031	.314	50	4.0	4.545	1.384
25	2.0	1.136	.346	50	4.5	5.057	1.540
25	2.3	1.290	.393	50	5.0	5.553	1.692
25	2.6	1.439	.438	50	5.5	6.045	1.841
25	2.9	1.584	.482	50	6.0	6.521	1.985
25	3.2	1.723	.525				
25	3.5	1.859	.566	55	2.3	2.994	.911
25	4.0	2.075	.632	55	2.6	3.365	1.024
25	4.5	2.279	.694	55	2.9	3.732	1.136
25	5.0	2.470	.752	55	3.2	4.094	1.247
				55	3.5	4.452	1.355
30	1.8	1.254	.382	55	4.0	5.039	1.534
30	2.0	1.383	.421	55	4.5	5.613	1.709
30	2.3	1.574	.479	55	5.0	6.175	1.880
30	2.6	1.760	.536	55	5.5	6.725	2.047
30	2.9	1.941	.591	55	6.0	7.262	2.211
30	3.2	2.118	.645				
30	3.5	2.291	.697	60	2.3	3.278	.998
30	4.0	2.569	.782	60	2.6	3.686	1.122
30	4.5	2.834	.863	60	2.9	4.090	1.245
30	5.0	3.087	.940	60	3.2	4.489	1.367
				60	3.5	4.884	1.487
35	2.0	1.630	.496	60	4.0	5.533	1.684
35	2.3	1.858	.566	60	4.5	6.169	1.878
35	2.6	2.081	.633	60	5.0	6.793	2.068
35	2.9	2.299	.700	60	5.5	7.404	2.254
35	3.2	2.513	.765	60	6.0	8.003	2.436

外徑	肉厚	重量		外徑	肉厚	重量	
粍	粍	瓩/米	瓩/呎	粍	粍	瓩/米	瓩/呎
65	2.6	4.007	1.220	95	5.0	11.115	3.384
65	2.9	4.448	1.356	95	5.5	12.159	3.702
65	3.2	4.885	1.487	95	6.0	13.190	4.016
65	3.5	5.317	1.619	95	6.5	14.209	4.326
65	4.0	6.027	1.835	95	7.0	15.215	4.632
65	4.5	6.725	2.047				
65	5.0	7.410	2.260	100	3.2	7.651	2.329
65	5.5	8.083	2.461	100	3.5	8.342	2.540
65	6.0	8.744	2.662	100	4.0	9.485	2.888
65	6.5	9.392	2.859	100	4.5	10.615	3.232
				100	5.0	11.733	3.572
70	2.6	4.328	2.318	100	5.5	12.833	3.909
70	2.9	4.806	1.463	100	6.0	13.931	4.241
70	3.2	5.280	1.607	100	6.5	15.001	4.570
70	3.5	5.749	1.750	100	7.0	16.080	4.896
70	4.0	6.521	1.985				
70	4.5	7.280	2.217	110	3.2	8.441	2.570
70	5.0	8.028	2.444	110	3.5	9.207	2.803
70	5.5	8.762	2.668	110	4.0	10.473	3.183
70	6.0	9.856	2.888	110	4.5	11.726	3.570
70	6.5	10.195	3.104	110	5.0	12.968	3.948
				110	5.5	14.196	4.322
75	2.6	4.650	1.416	110	6.0	15.413	4.692
75	2.9	5.165	1.572	110	6.5	16.617	5.059
75	3.2	5.675	1.728	110	7.0	17.809	5.422
75	3.5	6.181	1.882				
75	4.0	7.015	1.136	120	3.5	10.071	3.066
75	4.5	7.836	2.386	120	4.0	11.461	3.489
75	5.0	8.645	2.632	120	4.5	12.838	3.909
75	5.5	9.442	2.875	120	5.0	14.203	4.324
75	6.0	10.226	3.113	120	5.5	15.555	4.736
75	6.5	10.998	3.348	120	6.0	16.895	5.144
				120	6.5	18.222	5.548
80	2.9	5.523	1.681	120	7.0	19.538	5.948
80	3.2	6.070	1.848	120	8.0	22.131	6.738
80	3.5	6.613	2.013				
80	4.0	7.509	2.286	130	3.5	10.936	3.329
80	4.5	8.392	2.555	130	4.0	12.449	3.790
80	5.0	9.263	2.820	130	4.5	13.949	4.247
80	5.5	10.121	3.081	130	5.0	15.438	4.700
80	6.0	10.967	3.339	130	5.5	16.913	5.149
80	6.5	11.800	3.593	130	6.0	18.377	5.595
				130	6.5	19.828	6.037
85	2.9	5.881	1.790	130	7.0	21.267	6.475
85	3.2	6.465	1.968	130	8.0	24.197	7.340
85	3.5	7.046	2.145				
85	4.0	8.003	2.436	140	3.5	11.800	3.593
85	4.5	8.948	2.724	140	4.0	13.437	4.091
85	5.0	9.880	3.003	140	4.5	15.061	4.585
85	5.5	10.800	3.288	140	5.0	16.673	5.076
85	6.0	11.708	3.564	140	5.5	18.272	5.563
85	6.5	12.603	3.837	140	6.0	19.859	6.046
				140	6.5	21.433	6.526
90	2.9	6.239	1.899	140	7.0	22.996	7.001
90	3.2	6.861	2.089	140	8.0	26.083	7.941
90	3.5	7.478	2.277				
90	4.0	8.497	2.587	150	3.5	12.665	3.856
90	4.5	9.503	2.893	150	4.0	14.425	4.392
90	5.0	10.498	3.196	150	4.5	16.172	4.924
90	5.5	11.479	3.495	150	5.0	17.903	5.452
90	6.0	12.449	3.790	150	5.5	19.630	5.977
90	6.5	13.406	4.081	150	6.0	21.341	6.497
				150	6.5	23.039	7.014
95	3.2	7.256	2.209	150	7.0	24.725	7.523
95	3.5	7.910	2.408	150	8.0	28.059	8.543
95	4.0	8.991	2.737	150	9.0	31.344	9.543
95	4.5	10.059	3.063				

一般用繼目無鋼管 (内徑基本)　(日本鋼管株式會社ニ依ル)

内徑	肉厚	重量		内徑	肉厚	重量	
粍	粍	瓩/米	瓩/呎	粍	粍	瓩/米	瓩/呎
10	1.6	.458	.140	40	2.3	2.403	.732
10	1.8	.525	.160	40	2.6	2.736	.833
10	2.0	.593	.180	40	2.9	3.073	.935
10	2.3	.699	.213	40	3.2	3.415	1.039
10	2.6	.814	.246	40	3.5	3.761	1.145
10	2.9	.924	.281	40	4.0	4.347	1.323
10	3,2	1.043	.318	40	4.5	4 946	1.506
				40	5.0	5.558	1.692
12	1.6	.537	.164	40	5.5	6.181	1.882
12	1.8	.614	.187				
12	2.0	.692	.210	45	1.8	2.081	.633
12	2.3	.812	.247	45	2.0	2.322	.707
12	2.6	.938	.285	45	2.3	2.687	.818
12	2.9	1.067	.325	45	2.6	3.057	.931
12	3.2	1.201	.366	45	2.9	3.431	1,045
				45	3.2	3.810	1.160
15	1.6	.656	.200	45	3.5	4.193	1.276
15	1.8	.747	.227	45	4.0	4.841	1.474
15	2.0	.840	.256	45	4.5	5.502	1.675
15	2.3	.983	.299	45	5.0	6.175	1.880
15	2.6	1.130	.344	45	5.5	6.860	2.089
15	2.9	1.282	.390				
15	3.2	1.439	.438	50	1.8	2.303	.701
				50	2.0	2.569	.782
20	1.6	.854	.260	50	2.3	2.971	.904
20	1.8	.969	.295	50	2.6	3.378	1.028
20	2.0	1.087	.331	50	2.9	3.789	1.154
20	2.3	1.267	.386	50	3.2	4.205	1.280
20	2.6	1.451	.442	50	3.5	4.625	1.408
20	2.9	1.640	.499	50	4.0	5.335	1.624
20	3.2	1.834	.558	50	4.5	6.058	1.844
20	3.5	2.032	.618	50	5.0	6.793	2.068
20	4.0	2.371	.722	50	5.5	7.540	2.295
20	4.5	2.723	.829	50	6.0	8.299	2.527
20	5.0	3.038	.940				
				55	1.8	2.525	.769
25	1.6	1.051	.320	55	2.0	2.816	.857
25	1.8	1.192	.363	55	2.3	3.255	.991
25	2.0	1.334	.406	55	2.6	3.699	1.126
25	2.3	1.551	.472	55	2.9	4.147	1.263
25	2.6	1.772	.540	55	3.2	4.600	1.400
25	2.9	1.998	.608	55	3.5	5.067	1.540
25	3.2	2.229	.679	55	4.0	5.829	1.775
25	3.5	2.464	.750	55	4.5	6.613	2.013
25	4.0	2.865	.872	55	5.0	7.410	2.256
25	4.5	3.279	.998	55	5.5	8.219	2.502
25	5.0	3.705	1.128	55	6.0	9.040	2.752
30	1.6	1.249	.380	60	1.8	2.748	.837
30	1.8	1.414	.430	60	2.0	3.063	.932
30	2.0	1.581	.481	60	2.3	3.539	1.078
30	2.3	1.835	.559	60	2.6	4.020	1.224
30	2.6	2.094	.637	60	2.9	4.506	1.372
30	2.9	2.357	.717	60	3.2	4.995	1.521
30	3.2	2.624	.799	60	3.5	5.490	1.671
30	3.5	2.895	.882	60	4.0	6.323	1.925
30	4.0	3.359	1.023	60	4.5	7.169	2.183
30	4.5	3.835	1.167	60	5.0	8.028	2.444
30	5.0	4.323	1.316	60	5.5	8.898	2.709
				60	6.0	9.781	2.978
35	1.8	1.636	.498				
35	2.0	1.828	.556	65	2.0	3.310	1.008
35	2.3	2.119	.645	65	2.3	3.823	1.164
35	2.6	2.415	.735	65	2.6	4.341	1.322
35	2.9	2.715	.826	65	2.9	4.864	1.481
35	3.2	3.019	.919	65	3.2	5.391	1.641
35	3.5	3.328	1.013	65	3.5	5.922	1.803
35	4.0	3.853	1.173	65	4.0	6.817	2.075
35	4.5	4.390	1.337	65	4.5	7.725	2.352
35	5.0	4.940	1.504	65	5.0	8.645	2.632
35	5.5	5.502	1.675	65	5.5	9.577	2.916
				65	6.0	10.522	3.203
40	1.8	1.858	.565				
40	2.0	2.075	.632	70	2.0	3.557	1.083

內徑	肉厚	重量	
粍	粍	瓩/米	瓩/呎
70	2.3	4.107	1.250
70	2.6	4.662	1.419
70	2.9	5.222	1.590
70	3.2	5.786	1.761
70	3.5	6.354	1.934
70	4.0	7.311	2.226
70	4.5	8.281	2.521
70	5.0	9.263	2.820
70	5.5	10.257	3.123
70	6.0	11.263	3.429
75	2.0	3.804	1.158
75	2.3	4.391	1.337
75	2.6	4.983	1.517
75	2.9	5.580	1.699
75	3.2	6.181	1.882
75	3.5	6.786	2.066
75	4.0	7.805	2.376
75	4.5	8.836	2.690
75	5.0	9.880	3.008
75	5.5	10.936	3.329
75	6.0	12.004	3.655
80	2.0	4.051	1.233
80	2.3	4.675	1.423
80	2.6	5.305	1.615
80	2.9	5.638	1.808
80	3.2	6.576	2.002
80	3.5	7.291	2.198
80	4.0	8.299	2.527
80	4.5	9.392	2.859
80	5.0	10.497	3.196
80	5.5	11.615	3.536
80	6.0	12.745	3.880
80	6.5	13.887	4.228
85	2.0	4.298	1.308
85	2.3	4.960	1.510
85	2.6	5.626	1.713
85	2.9	6.296	1.917
85	3.2	6.971	2.122
85	3.5	7.651	2.329
85	4.0	8.793	2.677
85	4.5	9.948	3.029
85	5.0	11.115	3.384
85	5.5	12.294	3.743
85	6.0	13.486	4.105
85	6.5	14.690	4.472
90	2.3	5.244	1.596
90	2.6	5.947	1.810
90	2.9	6.654	2.026
90	3.2	7.367	2.243
90	3.5	8.083	2.461
90	4.0	9.287	2.827
90	4.5	10.504	3.198
90	5.0	11.732	3.572
90	5.5	12.974	3.950
90	6.0	14.227	4.331
90	6.5	15.493	4.717
95	2.3	5.528	1.683
95	2.6	6.268	1.909
95	2.9	7.012	2.135
95	3.2	7.762	2.363
95	3.5	8.515	2.592
95	4.0	9.781	2.978
95	4.5	11.059	3.367
95	5.0	12.350	3.760
95	5.5	13.653	4.157
95	6.0	14.968	4.557
95	6.5	16.296	4.961
95	7.0	17.636	5.369
100	2.3	5.812	1.769
100	2.6	6.589	2.006
100	2.9	7.371	2.244
100	3.2	8.157	2.483
100	3.5	8.948	2.724
100	4.0	10.275	3.128
100	4.5	11.615	3.536
100	5.0	12.967	3.648
100	5.5	14.332	4.363
100	6.0	15.709	4.783
100	6.5	17.099	5.206
100	7.0	18.500	5.632
110	2.3	6.380	1.942
110	2.6	7.231	2.201
110	2.9	8.087	2.462
110	3.2	8.947	2.724
110	3.5	9.812	2.987
110	4.0	11.267	3.429
110	4.5	12.727	3.875
110	5.0	14.203	4.324
110	5.5	15.691	4.777
110	6.0	17.191	5.234
110	6.5	18.704	5.695
110	7.0	20.229	6.160
120	2.3	6.948	2.115
120	2.6	7.873	2.397
120	2.9	8.803	2.680
120	3.2	9.738	2.965
120	3.5	10.677	3.250
120	4.0	12.251	3.730
120	4.5	13.838	4.213
120	5.0	15.437	4.700
120	5.5	17.049	5.191
120	6.0	18.673	5.685
120	6.5	20.309	6.183
120	7.0	21.958	6.685
120	8.0	25.293	7.700
130	2.6	8.516	2.592
130	2.9	9.520	2.898
130	3.2	10.528	3.205
130	3.5	11.541	3.514
130	4.0	13.239	4.031
130	4.5	14.950	4.551
130	5.0	16.673	5.076
130	5.5	18.408	5.604
130	6.0	20.155	6.136
130	6.5	21.915	6.672
130	7.0	23.687	7.212
130	8.0	27.269	8.302
140	2.6	9.158	2.788
140	2.9	10.236	3.116
140	3.2	11.319	3.446
140	3.5	12.406	3.777
140	4.0	14.227	4.331
140	4.5	16.061	4.890
140	5.0	17.907	5.452
140	5.5	19.766	6.018
140	6.0	21.367	6.583
140	6.5	23.521	7.161
140	7.0	25.416	7.738
140	8.0	29.245	8.903
150	2.6	9.800	2.984
150	2.9	10.952	3.334
150	3.2	12.109	3.687
150	3.5	13.270	4.040
150	4.0	15.215	4.632
150	4.5	17.173	5.228
150	5.0	19.142	5.828
150	5.5	21.125	6.431
150	6.0	23.119	7.039
150	6.5	25.126	7.650
150	7.0	27.145	8.364
150	8.0	31.221	9.505
150	9.0	35.346	10.761

一般建築工事施工上必要なる設備の研究

設　備　委　員　會

設備委員會に於て決議したる研究項目

昭和8年1月、委員會規程第三條により我々は建築工事各種附帶設備に對する施工方法と其經濟化に就き研究を進むることとし大體左の如き順序により調査を始んとす。

1. **一般建築工事施工上に必要なる設備の研究**

イ、地下室を設くる場合の堀方其他工事設備

ロ、リベツチング、ミキサー其他工事上の騒音防止に關する設備

以上二項を第一次に研究すること

ハ、デレツキ其他機械設備

ニ、一般の附帶設備施工上に關し現場に於て特に注意すべき要點等

以上二項を第二次に研究すること

2. **建築物附帶設備の研究**

イ、電燈、電力、通信設備

ロ、煖冷房換氣設備

ハ、給水、給湯設備

ニ、衛生工事

以上四項を第一次に研究すること

ホ、消火、防火設備

ヘ、エレベーター、エスカレーター設備

ト、各種シユート、塵埃燒却器等の設備

以上三項を第二次に研究すること

上記調査研究に就ては委員會を毎月二三回開催し委員に於て大體調査研究を計り更に又專門的委員を囑託し其意見により大體の結論に達する様したし。

尙其結果は會誌又はパンフレツトにより發表するものとす。

地下室を設くる場合の掘方其他工事設備

掘方に對する設備と稱するも其地質、隣家關係及地下室の深さにより、各種臨機的の考慮を要する事勿論なり。故に一概に此く々々と定め難きにより普通最も多き場合即ち

大阪市中央部（大體粘土及砂交り地層常水位、地盤下七・八尺位）の處にて隣家に密接し地下室1階のものと2階以上のものとに標準を置き研究せり。

地下一階の場合

矢板　木製矢板を打殺しにするを以て良き方法とす、但親杭腹起等は成るべく取除くまのとす。

親杭はレールを用ひ之に腹起を仕合す事打込方は二本子を使用し分銅の落下によるものとす。

都合により鐵矢板を使用する事は打込方が非常にらくにて宜敷も之を抜取る場合（鐵矢板を打殺になせば最も宜敷も不經濟なるを以て）は隣家に損害を及す事多し。

運搬車昇降機　木骨又は鐵骨を以て組立て電動ウヰンチにて土の運搬車を載せたる臺枠を上下せしむる様設備するを良法とす。

掘　方　掘方は手掘とし運搬車に積込み敷地外に搬出するを普通とす。

河岸遠き場合はトラツク馬車等によりて運搬し河岸近き場合は手挽小車にて運ぶを最も便利とす。

水替ポンプ　常水位以下に掘方をするに從ひ又は降雨の場合に完全なる水替設備を要す、此場合は大體一般に電動用セントフユーガルポンプを使用するを便利とす。

尙掘方完了後も混凝土下の水替を要するを以て此ポンプの据付は最初より工事に差支なき適當の場所を選定して此處に根切底より相當の深さある井戸を造り置く事、且又根切底適當の位置に排水溝を設け之より湧水を其井戸に導く様設備する事其排水溝は普通割栗詰になすも時には土管代込又は其他の方法により排水路を閉塞せしめざる方法をとる事。

支保工　腹起の位置は普通地盤より三四尺下りたる處に支組み之に對し更に縱横に木材の大角物を組合せて互に突張る事、其位置は普通は柱の中間に於てするものなるも勿論現場の都合により取捨考慮を要す、尙地下1階の場合は大體一通りの支保工にて下方は矢板根入の深さの力によるべきものとす。

右の縱横に突張りたる切梁の支柱は木杭を打込みて支へ十分に方杖を仕込み横壓の爲に變形を防ぐものとす。

腹起切梁及支柱は木材を使用する事が最も經濟的なり。

前記水平切梁は其上にて各種作業をなし又は足場として便利なるも敷地の關係又は工事の都合により對向の水平切梁を使用せず、敷地内適當の位置に杭打をなし之より 45 度以内の切梁を以て腹起を突張る方法は前者に比し經濟的なり。

隣家養生　掘方に際し最も苦痛を感ずるは隣家養生なり。

普通隣家の柱及土臺が完全なる場合は1階の床下及2階の床のふところに當る處に適當なる大胴木を柱にボールト締めとなし、尙適當の筋違を入れ此胴木を矢板の頭繋木上より適當なる束にて突張て受方をなし置き地中工事完了後に隣家の基礎を復舊又は新設して此支保工を取去り更に隣家の一般修理をなすものとす。

近來は矢板外に井戸地形を施し此頭部に前記受方をなして好結果を得ること多し　此方法は隣家の基礎を調へ混凝土造の布地形等にして相當の基礎なることを知る場合には其下方へ直接に、然らざれば前記の如く床下に胴木を付け豫め隣の土臺及柱根纏等をなして丈夫になし置き其下方に間隔約2間（柱の位置により考慮を要す）に空井戸を掘り新工事の根切底より二、三尺下の處まで堀り下り、其處より1尺角乃至1尺5寸角の混凝土假枠を建て其中に混凝土を打込み以て直接隣家の基礎又は土臺を支持するものものとす。

隣家と掘方との距離　矢板外面と建物壁外面との間隔は大體1尺5寸位必要とす（最小限1尺2寸5分なり）故に丁度敷地一ぱいに矢板を打てば建物は民法上規定の1尺5寸を距る事になるも隣地と協定して建物を敷地一ぱいに建てんとするならば少くも隣家の壁面との間に1尺5寸の間隔があらざれば施工出來ぬ事にたる、尙此場合は二本子建入に隣家の傍軒切取等の困難を起すものとす。

地下二階以上の場合

矢　板　木製矢板を使用するは施工相當困難にして種々の故障を惹起するものなれば鐵矢板を使用するを良しとす。

此鐵矢板も理想としては打殺しを良しとするも經濟上不可能の場合多きを以て普通抜取る場合多し。

鐵矢板打込はスチームハンマーに依るを良しとす。

抜取の場合は打込の約2倍の手間を要すること多し。

尙壓縮空氣により矢板打及抜取をなす時は煤煙により近隣に迷惑を與ふることなし。

矢板打の代りにニューマチツクケーソンを利用してレテーニングウヲールを沈下せしむることが最近二三の建物に實行せられたるも經濟上且又其沈下方法につき研究を要し未だ試驗時代とす。

運搬車、昇降機、掘方、水替ポンプ等の設備は前記地下1階の場合と殆んど同樣なり。

掘上土の非常に大量なる場合はエキスカベーターの如き機械を使用するを可とす、水替工事用井戸の跡始末は前記地下1階の場合も同樣なるが相當に地下を深く掘り水壓大なる時は建物の周圍及底面を順次に防水し最後にポンプ設置部分の防水をなすを普通とし其排水用井戸を碎石、砂利、粘土等にて順次埋立十分た排水して水位を防水せんとする位置より下方にあらしめたる後防水急結混凝土にて埋塞するものとす、然らざればポンプの吸水用鐵管の捻切せるものを埋置き最後に此部分にキヤツプを捻込むか又はポンプ

の吸水管を鉛管として最後に之を叩き潰して埋込むかの方法を採るものとす。

支保工　地下2階の場合は最小2段切梁として施工し得るも尚安全を期する場合は3段切梁となすを可とす。但地下室の深さによる事勿論なり地下3階のものにありては更に特種の方法を考慮して安全を期する事。

水平切梁は往々鐵材を使用することにあるも結局は木材を使用する方經濟的なる場合多し支柱は矢張り木材を使用するを便利とす。

相當大なる面積の支保工は水平切梁にては自然其ゆるみが多くなり周圍の矢板の突張が不十分なるを以てなるべく最初に中央部の柱工事を先に施工し置き其柱に矢板の土壓を支持せしむる工法を採用せば好結果なりと思はる。

隣家の養生又は掘方の距離等　地下1階のものに比し益々困難となり到底井戸地形等にては其效なし、故に地下室だけ特に隣家との距離を相當多からしめて築造するか又はニューマチツクケーソンに據るレテーニングウヲールを利用することを可とするも其沈下方法に就ては尚十分研究を要するものとす。

附　記

本年一月設備委員會を開き第一次の會合に於て上記の通り研究すべき項目十一種を定め常務會に報告したる結果、兎も角其一項たるイ地下室を設くる場合の掘方其他設備の研究をなすべき旨命せられ爾來數次會合し上記の通り研究した。

ロ以下の諸項目については引續き研究する豫定である。　（小笠原）

正　誤

11月號、75頁14行目小黒隆太郎氏筆「滿洲に於ける建築請負界の現狀」中1錢8厘とあるは18錢の間違いに付き訂正す

住　宅　の　門　塀

住　宅　委　員　會

住宅委員會は關西に於ける住宅門塀の實例的調査をなし將來の門塀に對してその傾向を示すべき參考資料を蒐集したいといふ議が起り、今夏以來この事業に着手したのであるが、一口に門塀と云つても實に種類も多く程度の差もはげしいものであるので、今回はその一部を斷片的に發表し、その分類及び材料、品質、價格等の總合的研究は第二次第三次の時期に讓ることゝし、後載する所の實例短評は只單に調査途中にある材料の一部に過ぎないのである。

住宅の門塀は外觀整備の上に必要なばかりでなく、敷地の限界を明瞭にするためにも盜賊防衛のためにも程度の差こそあれ住宅にはなくてはならぬものである。門塀も亦住宅と同じく近代的傾向を帶びて明朗瀟洒の表現が愛され、高塀や廓壁的な隱遁隔離的のものが漸次減少する傾向である。

交通の頻繁なる處の住宅の塀又は敷地狹少にて隣家の窓入口に接近するものにありては目隱しの目的を達する必要あるも、郊外にて相當の敷地を有する住宅にありては、いたづらに高き頑丈なる門塀は住む人の心もいやしく感ぜられるばかりでなく却つて盜賊の目標となつて折角の防衛がこれを破るものゝ心情を挑發する樣なことになりはしないか。くづれ石を積んで土をもり貝塚いぶきを生垣とし大小の石の間に根じめのつゝじが覗いて居る樣な阪急沿線の邸宅は奥ゆかしい。

陽當りの良い場所の生垣にかなめの刈込を繞らした垣根が朝日夕日に若芽の鮮かな紅色も朗かなものである。かなめは陽當りの惡い所には不適當である。同じ生垣でも關東で用ふる根殼の生垣は盜賊除けには良いが餘り感じの良くないものである。又杉の生垣は鬱蒼と繁つたものなど氣持の良いものであるが中の一、二本が立ち枯れすることがあるので餘り喜ばれない。價格が安くて直ぐに繁茂する黒もちの生垣は絶へず手入を要することが厄介なばかりでなく下枝が枯れて見ばの惡いものである。これに良く似てゐるが馬べの生垣は刈込の手數は黒もち同樣であるが、下枝が枯れないのと根本の幹からも新芽が出るから生垣としては相當な良いものである。

以下實例を擧げて各種門塀の寫眞及び設計圖により短評す。

第1圖は海濱住宅の門塀でコンクリート白亞仕上の門柱に透し金組子を入れた扉を入れ、塀はクリンプ金網を三尺位の高さに繞らされたもので明朗簡潔な處が覗ひ處である。

第2圖もシーサイド・ヴヰラに適した門塀で細巾の板を縱透し張りとし、白色ペンキを施し明快單純な表現である。

第3圖中流住宅の門塀でコンクリートの表面を極めてラツフな仕上げとして大まかなこせつかない處に價値がある。門柱上の電燈の透金具でリツチな感を與へてゐる。

第4圖大谷石、切石積の門塀で餘り意匠を凝さない處に上品な處がある。これは石そのも

のゝ軟かさから來る感を主調としてゐるから住宅の門としても堅苦しくないのである。

第5圖コンクリートと木材の美の調和を計つた門塀であつてスパニツシユ風の意匠である屋根があつても餘り重苦しい感なく無難である。

第6圖高級住宅の門であつて門柱は可成り太く頑丈であるけれどもタイルと瓦で調子を軟らげ塀の玉石の亂積と板扉の意匠によつて懷古趣味を取扱つた處がリツチにも見せ落付きも出來てゐる。

第7圖郊外の大邸宅の門塀で外壕と正門から出來てゐる自然石の大石を土留めとし、くづれ積の上は生垣とし自然石の美を誇張し豪放な計劃である。生垣の後には松の並木として石積に負けぬ丈けの背景をとつてゐる。正門の方は第10圖に立面詳細が示してゐる。

第8圖も亦自然石の大石を積みあげ上部に植込をして人工的意匠をさけてゐる。門柱は扁平な自然石をコンクリート柱の上に張りつけて門扉を取付けてゐる。瓦と自然石を使つた塀は塀の厚さが 3—4 尺場合に依つては6尺もあるので敷地の相當大なる邸宅でないと不可能である。

第8圖第9圖は住宅の樣式が和洋何れにも調和のするものである。

第9圖は敷地の非常に高い邸宅の土留塀であつてコブ出仕上の切石積の目地違ひ目地として見るからに堅固に仕上げられてゐる　その上には芝を植え灌木の刈込を配し更らにコンクリートの塀を造りその笠木に丸瓦をスパニツシユ風に並べ塀面にタイルが張つてある。地震が來ても大丈夫に見へる樣な堅實な施工の上に尙優しみがある處に作者の苦心があると思はれる。

第10圖はコンクリート柱の表面を米松の板を以て被覆し門扉との材料的の統一を計り邸內の樹木との調和を計つたものであつて金具の意匠によつて單調なる意匠を複雜豪華にして大邸宅の威容をはかつたものである。

第11圖は高級住宅の門であつて和洋の樣式を融和せる豪華な手法である。木割の雄大な處に肚重味があり扉連子の繰ものと屋根瓦の曲線は諧調のある所である。この門は新興日本の建築の元氣な所である。

第12圖は一方門柱にタイルを張り瓦をのせ他方には板石を置いて鉢植を置き左右の對照を破り變化を與へてゐる。門扉の金具及び板の表仕上等は澁くクラシカルに取扱ひ塀は自然石の亂積を以て土壁を造り植込をしてゐる。

第13圖は第11圖と同一調子ではあるが簡潔に桁と棟を組んでスパニツシユ瓦を葺いてゐる誇張する點がなく穩かな設計である。

第14圖この門は全體として完美高尙な門である。門柱のタイルの張方．石の張り方には特に注意が拂はれ笠石の代りに平瓦を冠せたのも宜しい。門燈の照明は射光狀態が實際的である。門扉も實用上の見地から左右その巾を不同にしたのであるが意匠的にも成功してゐる。塀はくづれ石積に貝塚ヒバの植込み清純の氣が溢れてゐる。

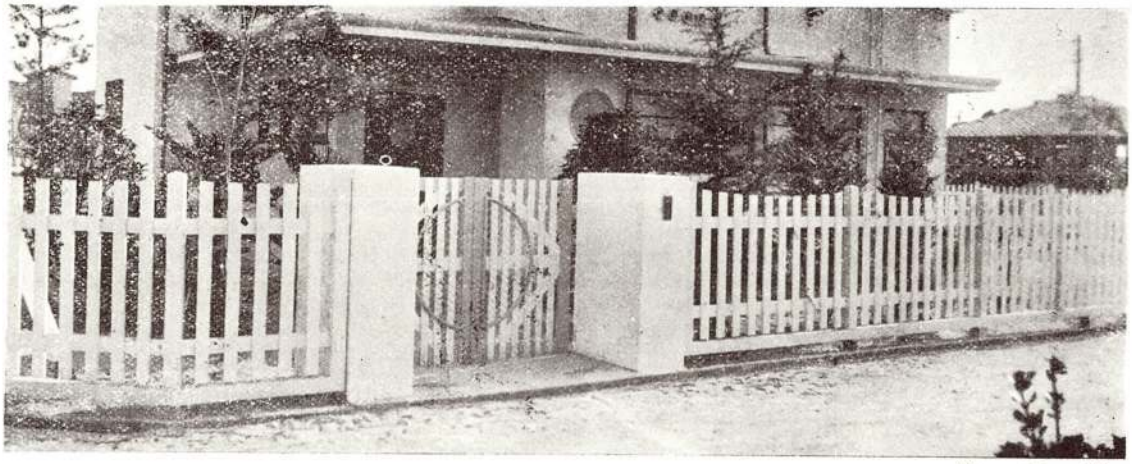
第15圖は海濱住宅又は田園都市的中流住宅向きの明朗な要領を得た門塀であつて門柱と袖は鐵筋コンクリート白亞塗りとし塀は木枠を組みクリンプ金網を張りペンキ仕上げとしてある。價格も餘りかけずスマートな施工である。

第16圖日本住宅の門塀

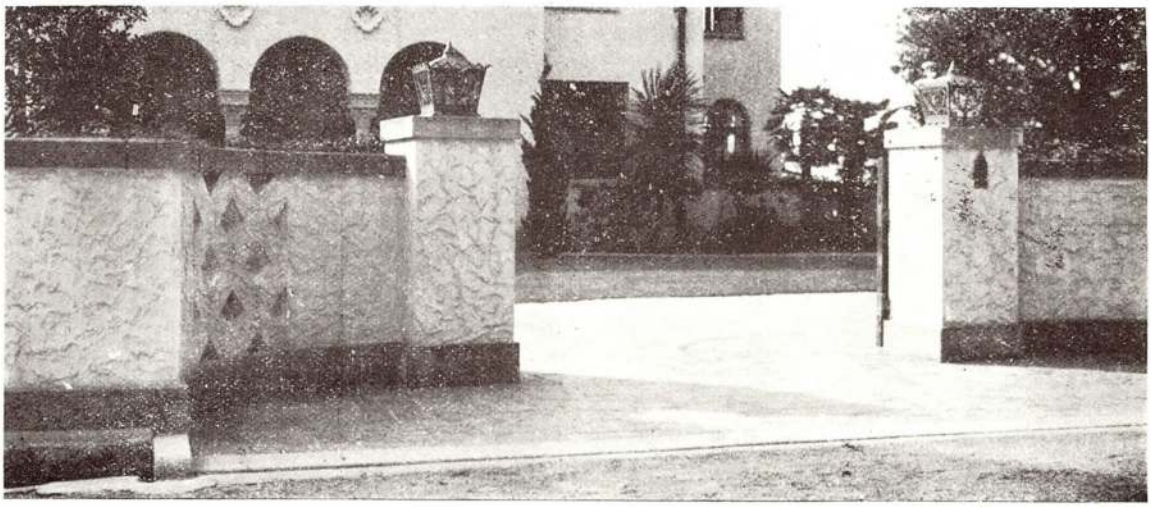
第17圖日本住宅の門塀



第　一　圖



第　二　圖



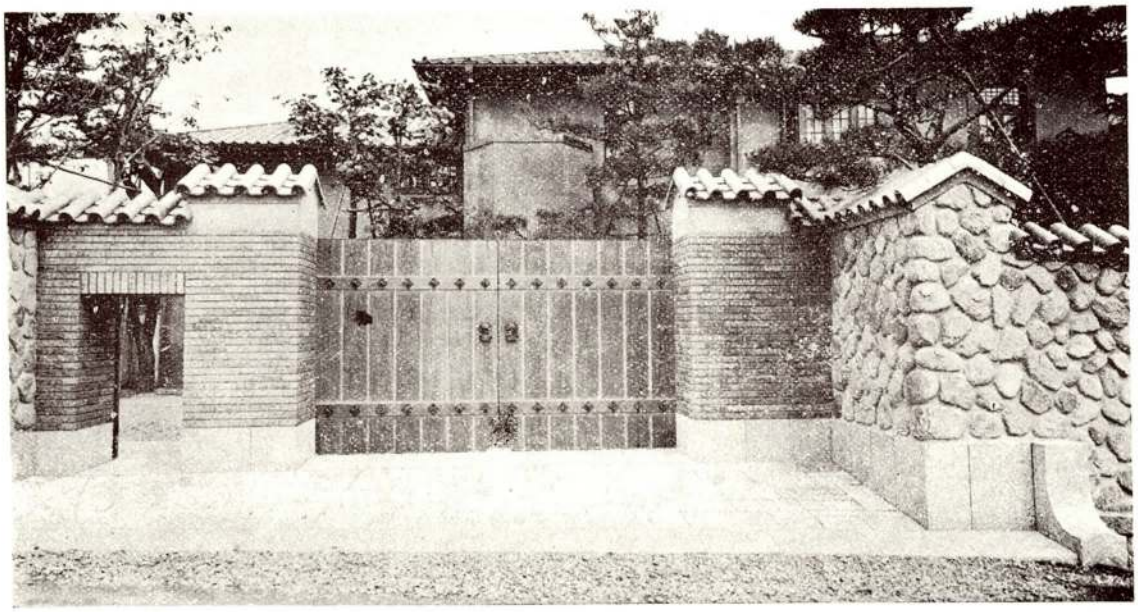
第　三　圖



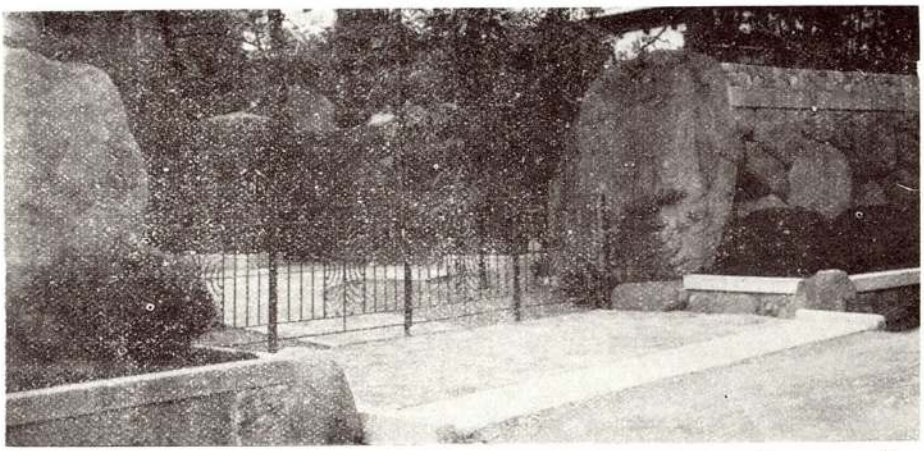
第　四　圖



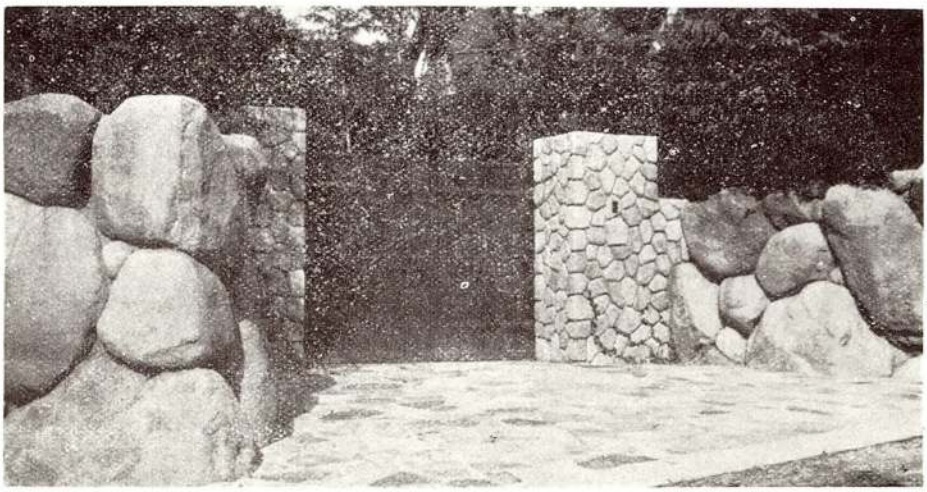
第　五　圖



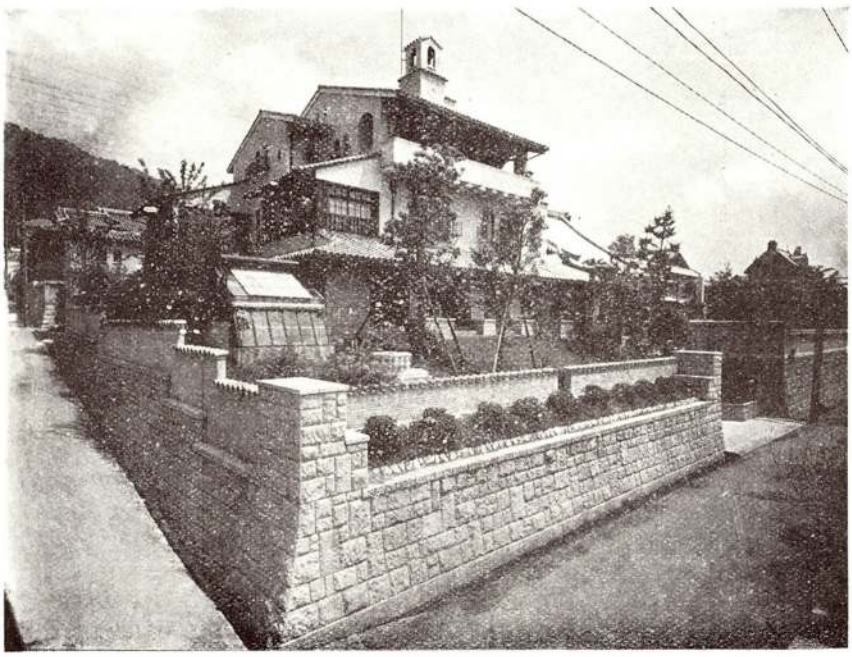
第　六　圖



第　七　圖

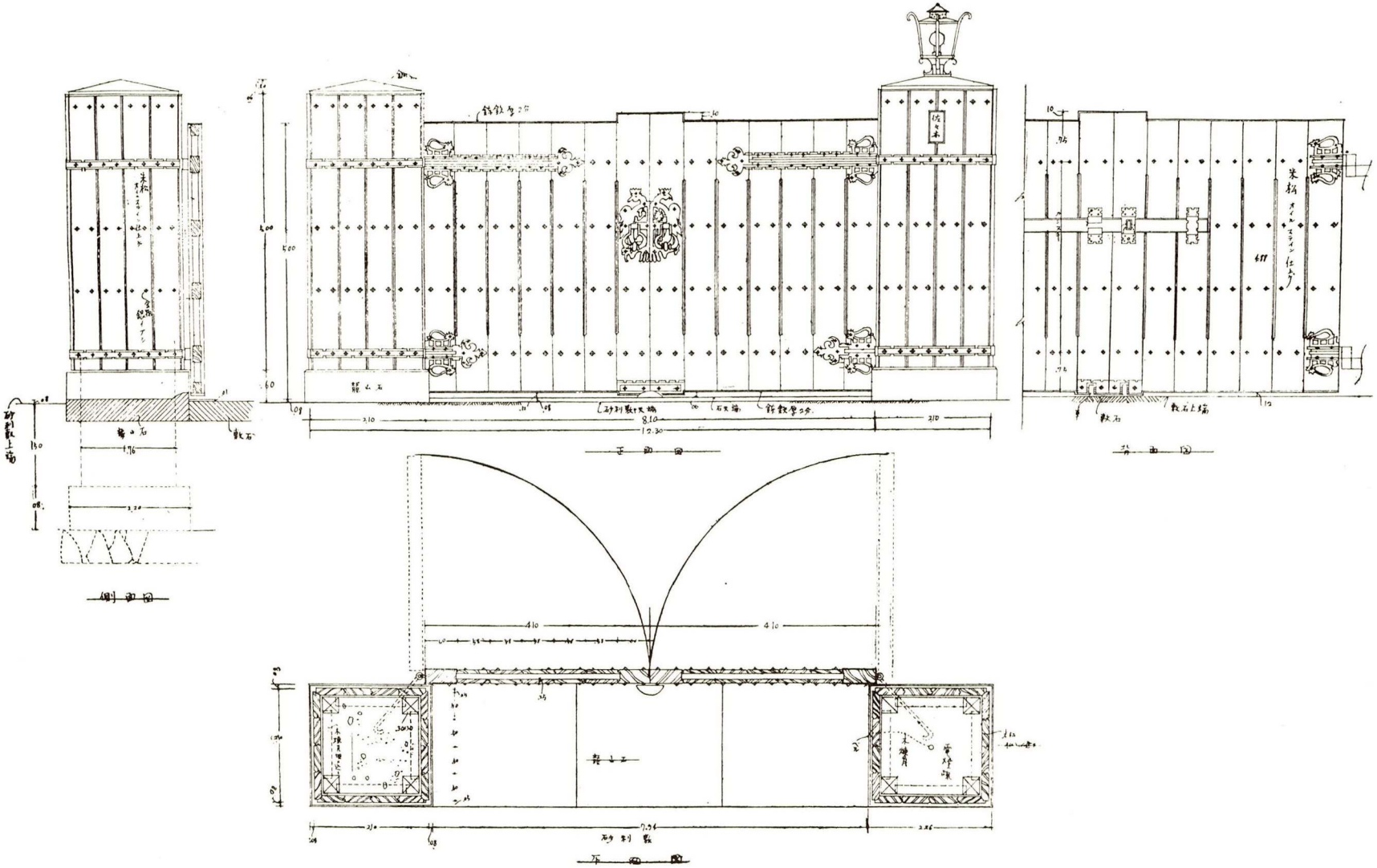


第　八　圖

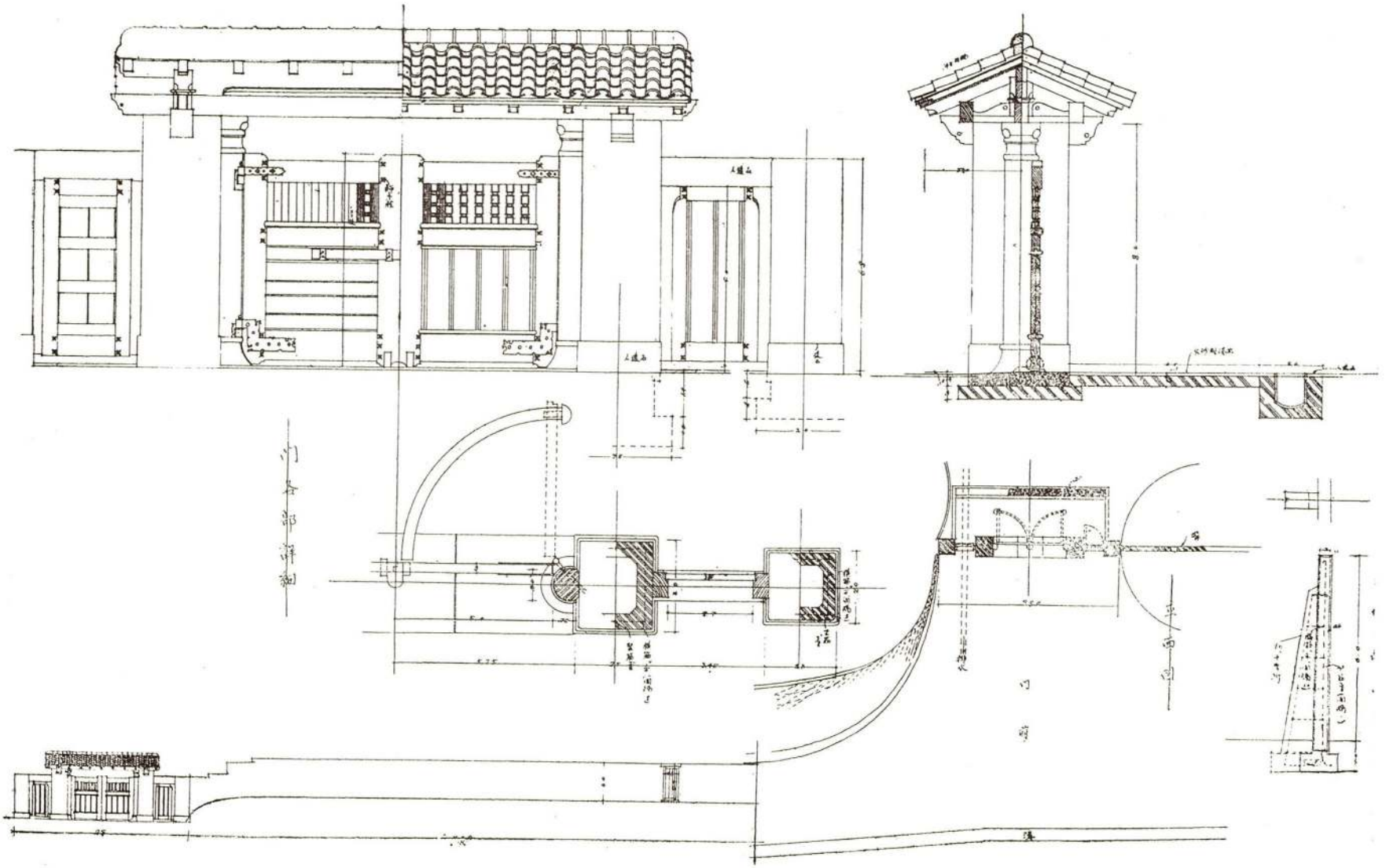


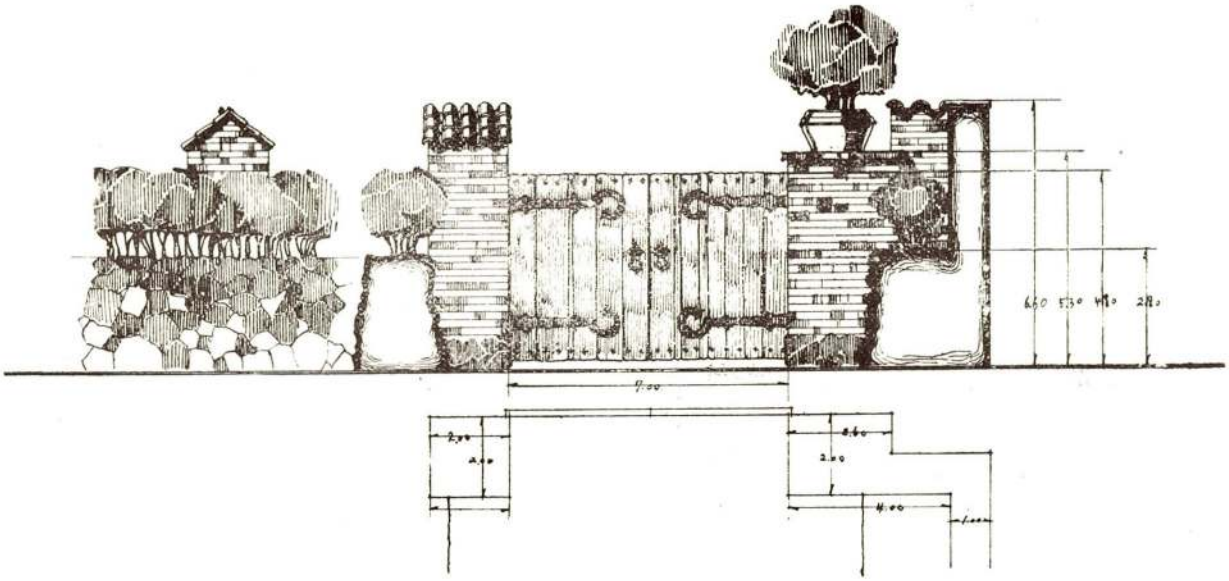
第　九　圖

第　十　圖

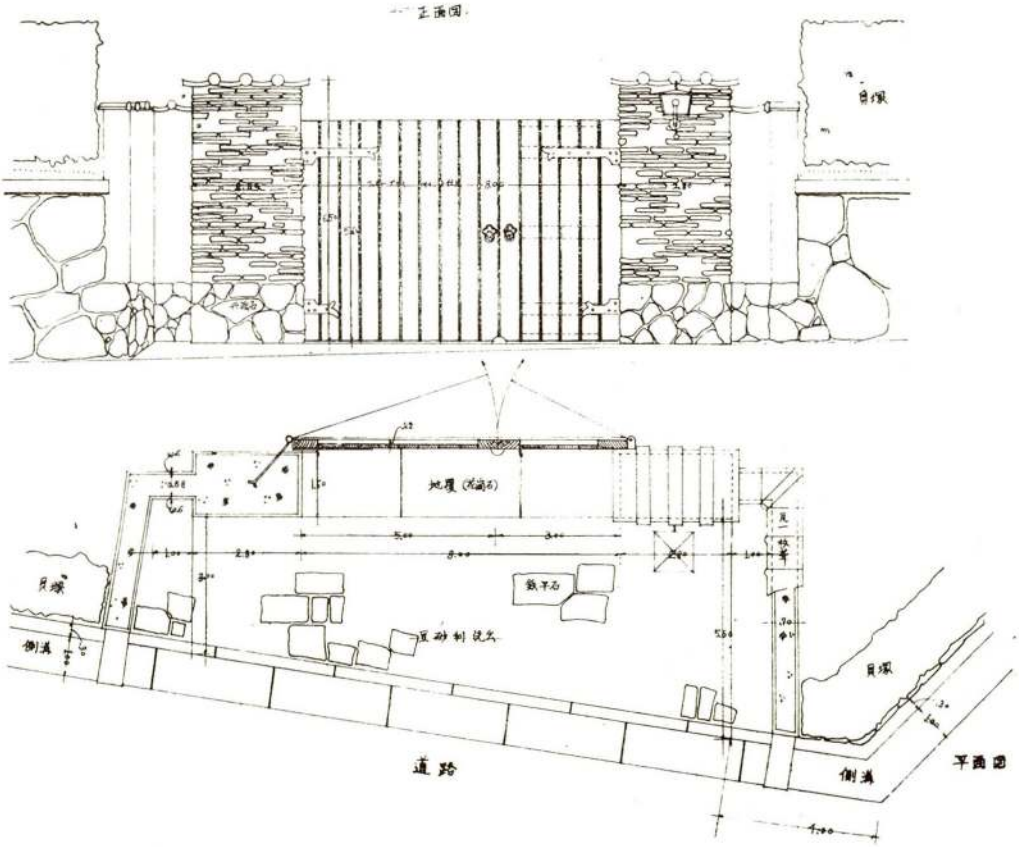


第十一圖

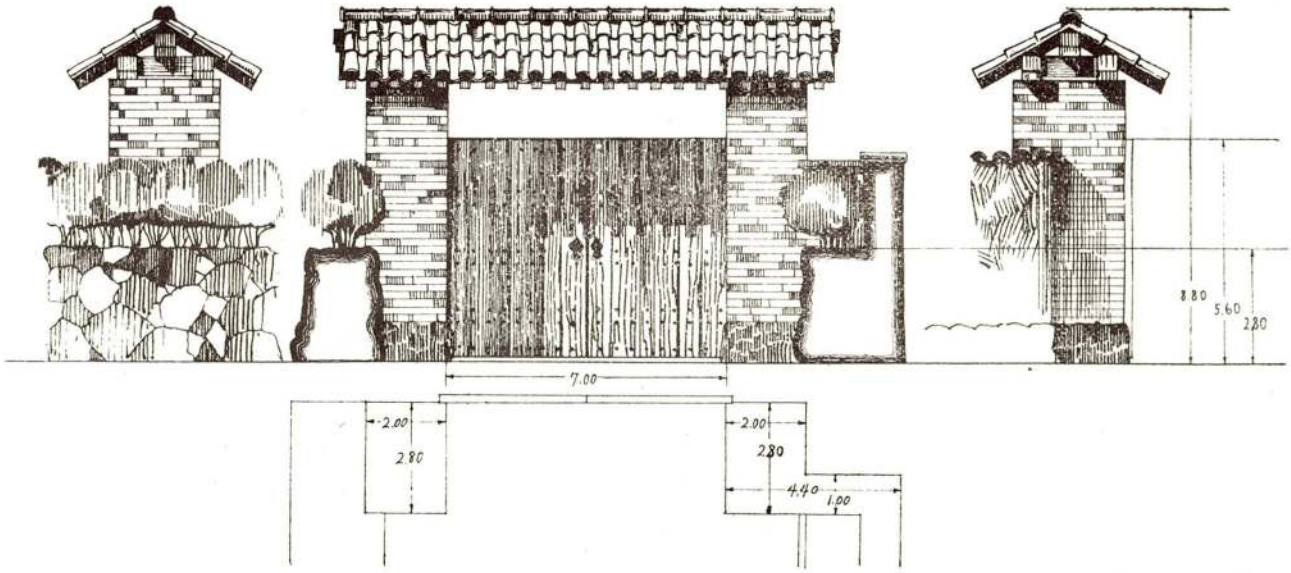




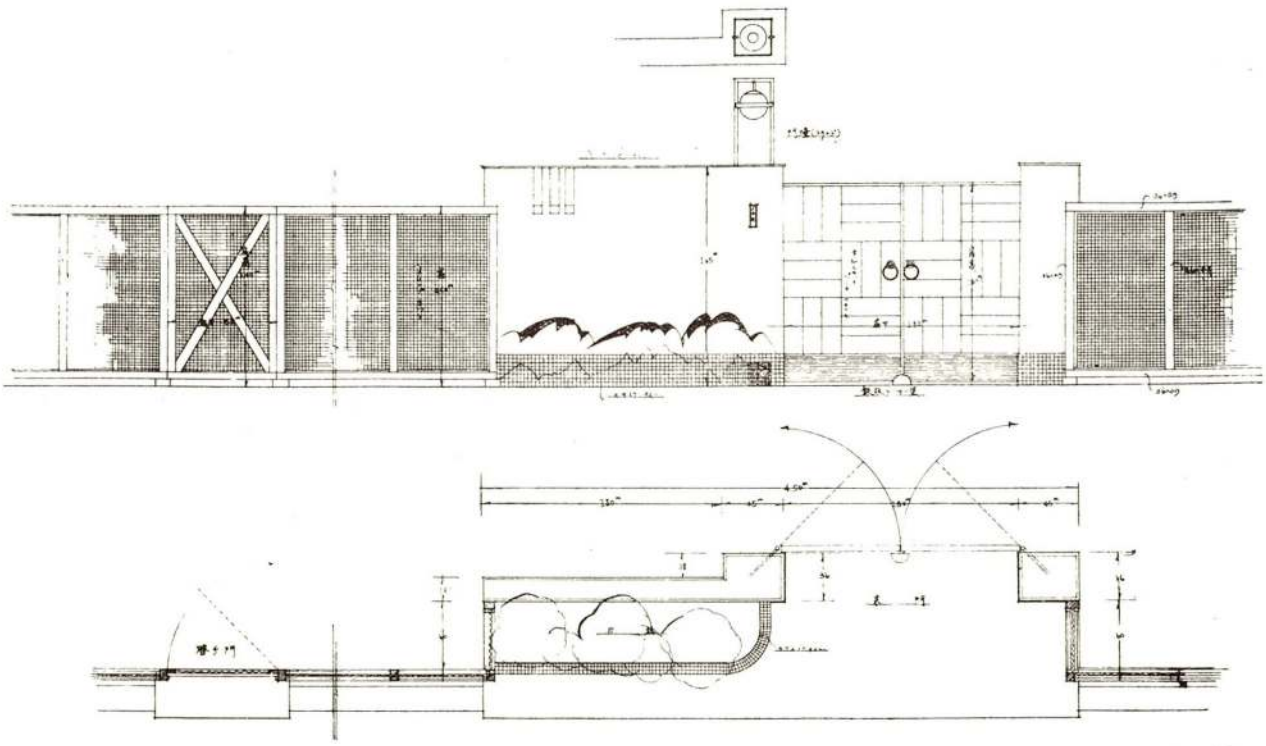
第 十 二 圖



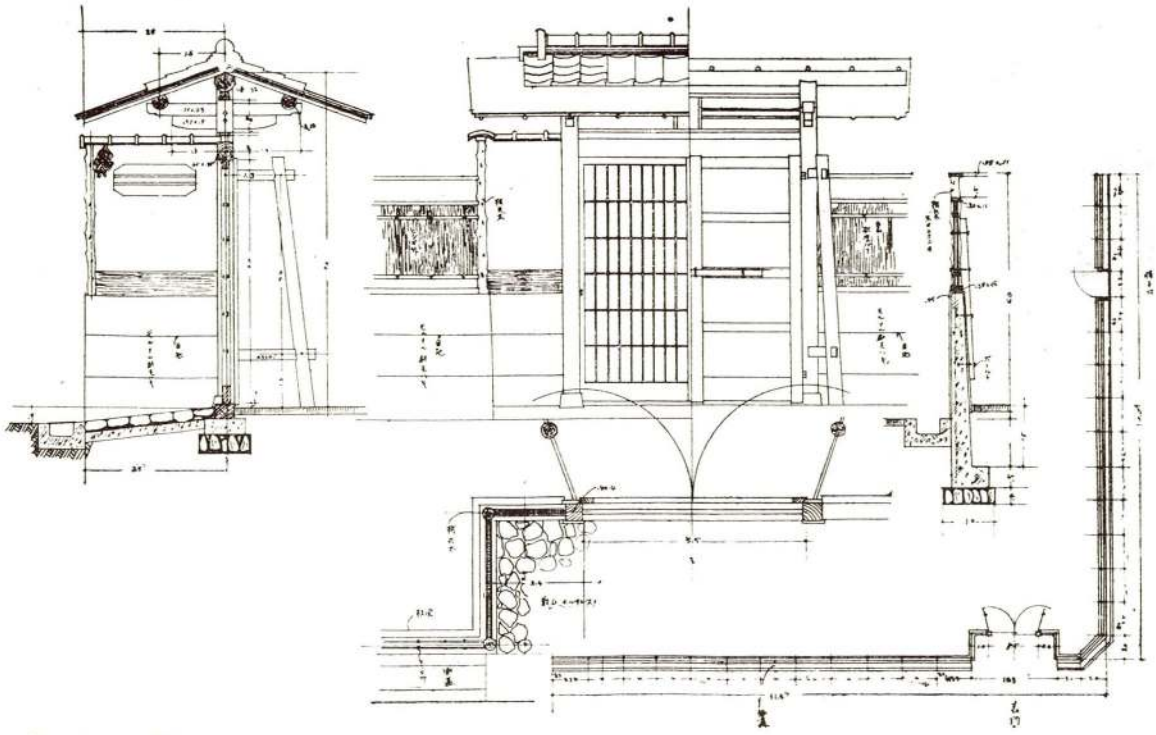
第 十 三 圖



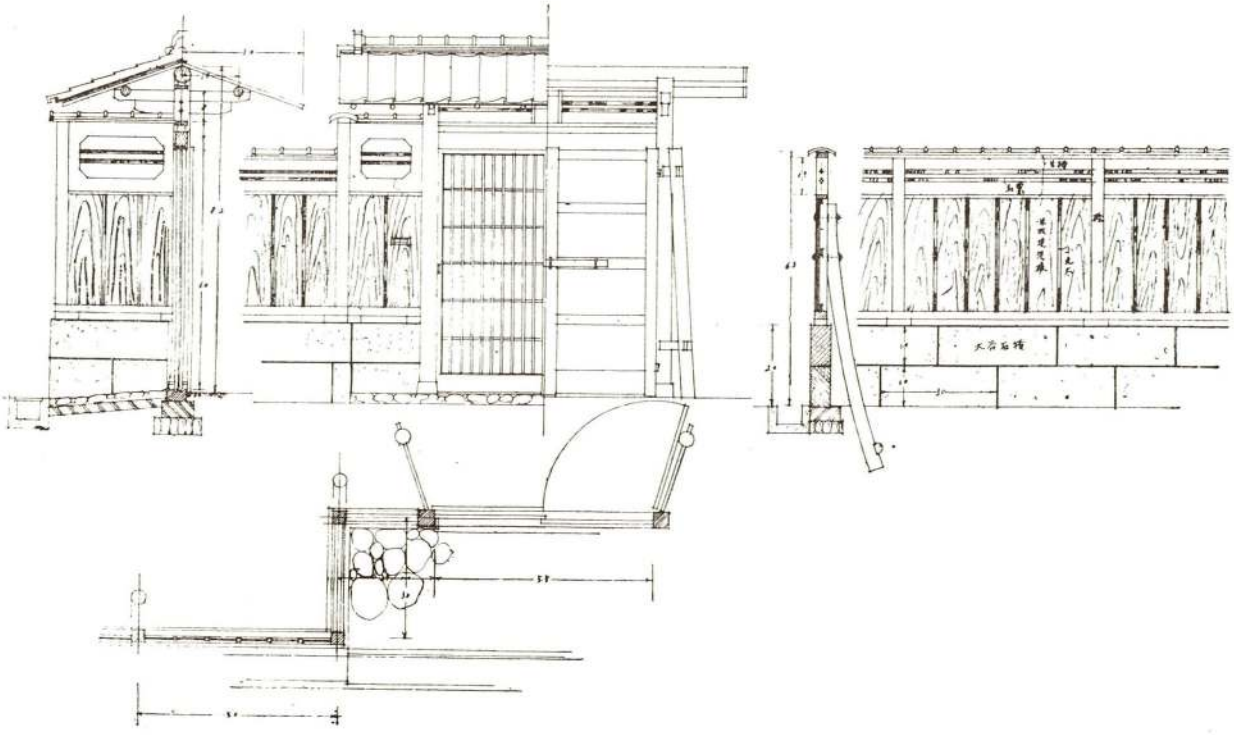
第十四圖



第十五圖



第十六圖



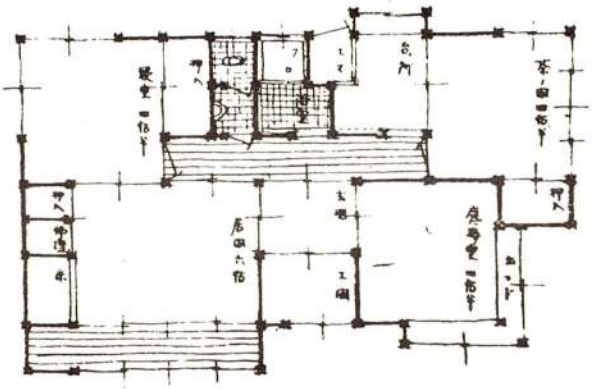
第十七圖

上野芝住宅博覽會場土地區劃圖



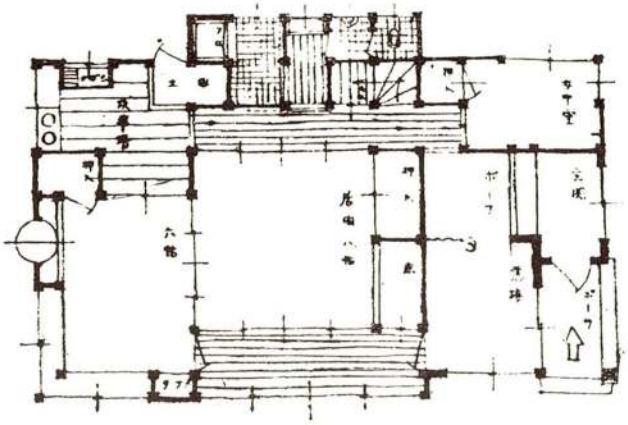


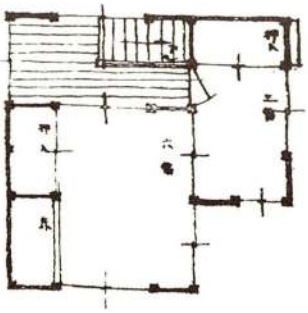
イ　神戸住宅株式會社　敷地 56坪　建坪數 19坪36

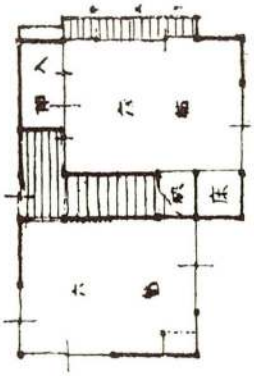




ロ　神戸住宅株式會社　敷地 86坪4　建坪數 延36坪025

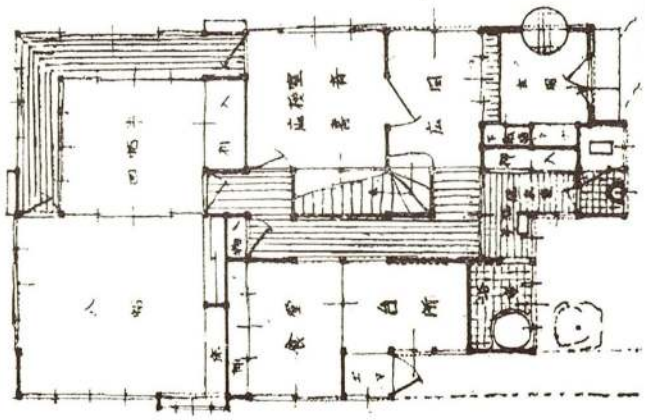


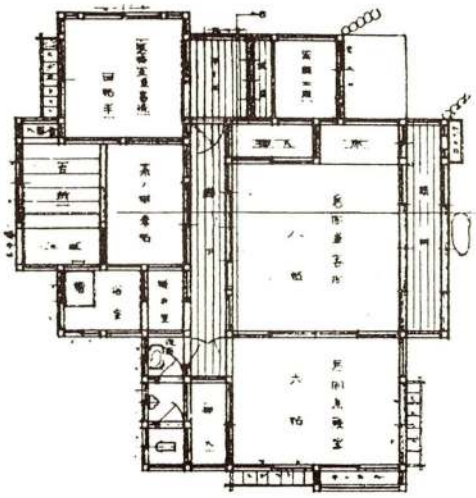






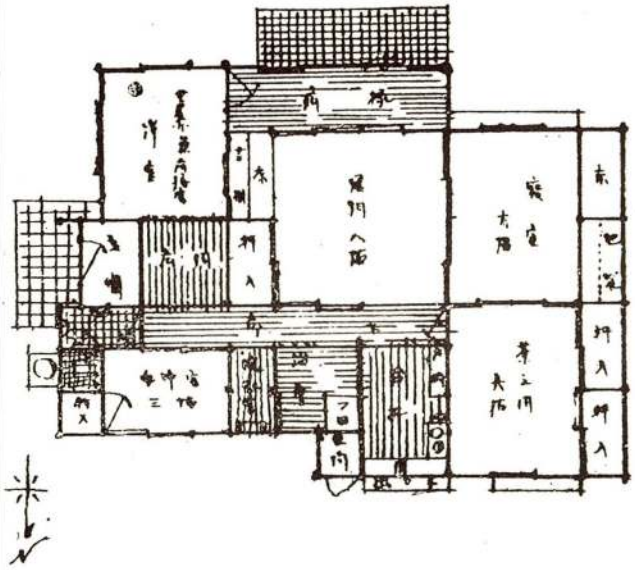
ハ　三宅工務所　敷地 86坪4　建坪數 延35坪07





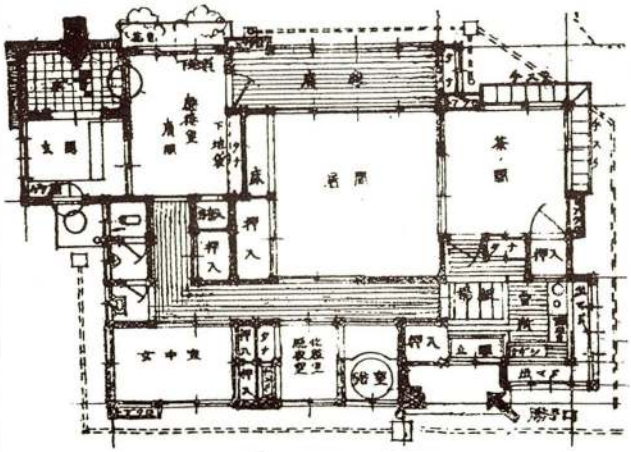


ニ　大阪近郊土地株式會社　敷地 76坪3　建坪數 21坪25





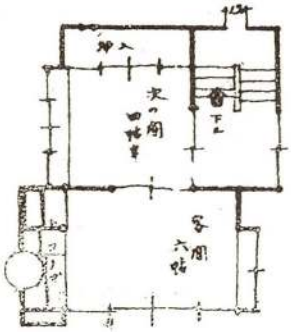
ホ　サカエ商會　敷地 86坪4　建坪數 27坪



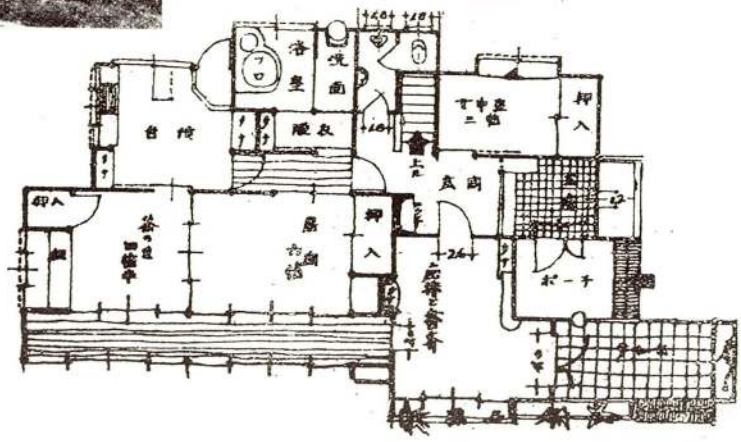


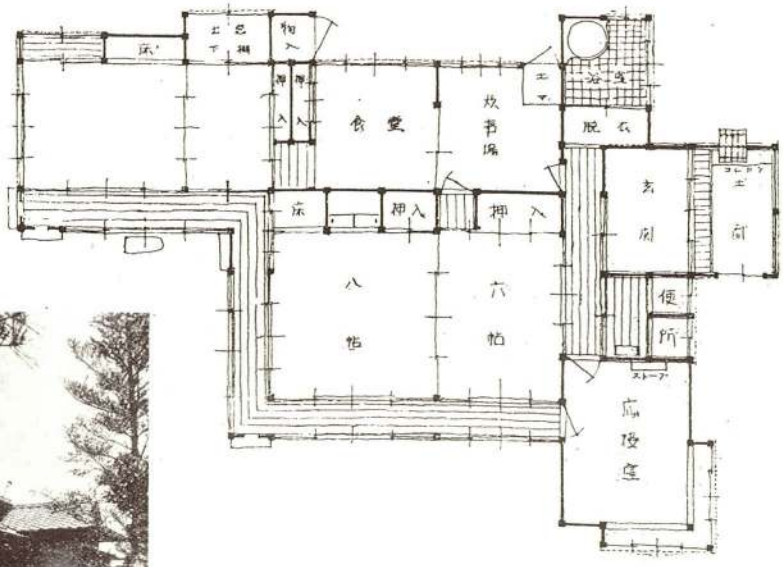
ヘ　大倉土木株式會社　敷地 86坪4　建坪數 24坪32

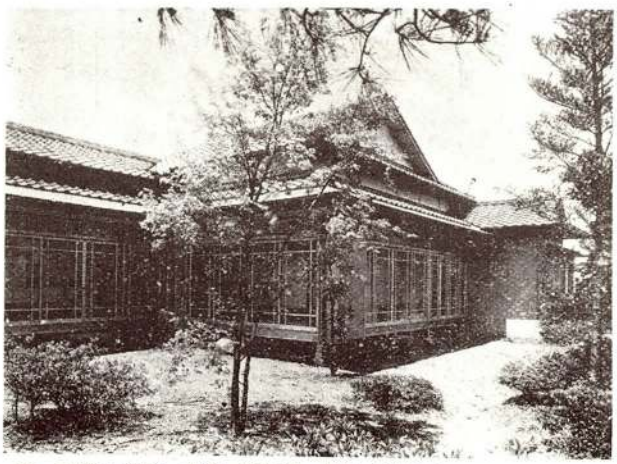




ト　鹿島組　敷地 94坪3　建坪數 延39坪14





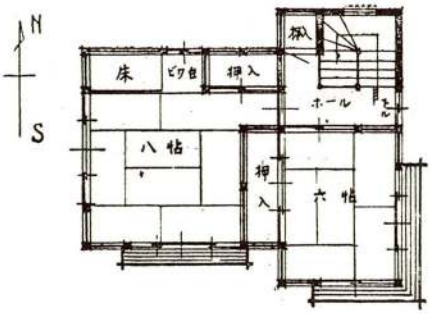


チ　三宅工務所　敷地 130坪5　坪數 39坪75



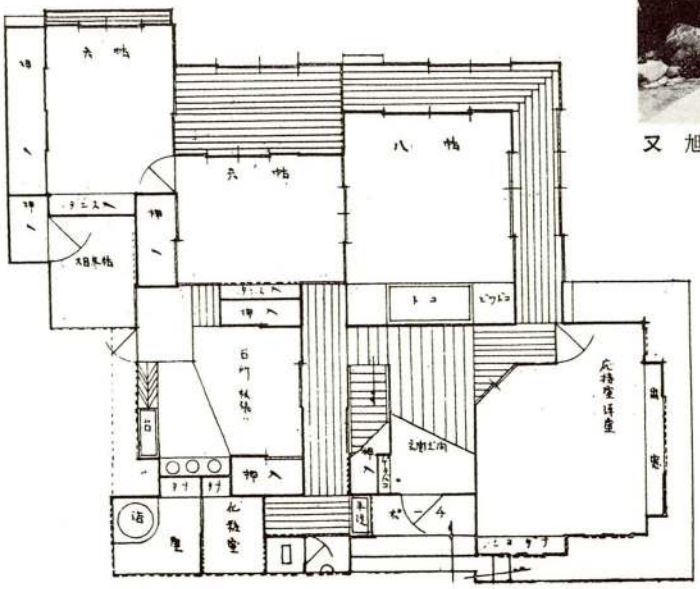


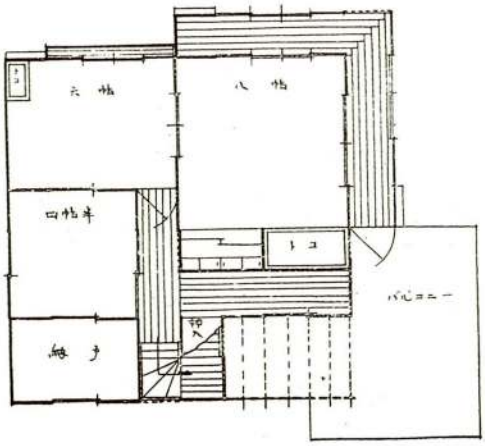
リ　岡本工務店　敷地 88坪85　建坪數 延32坪91





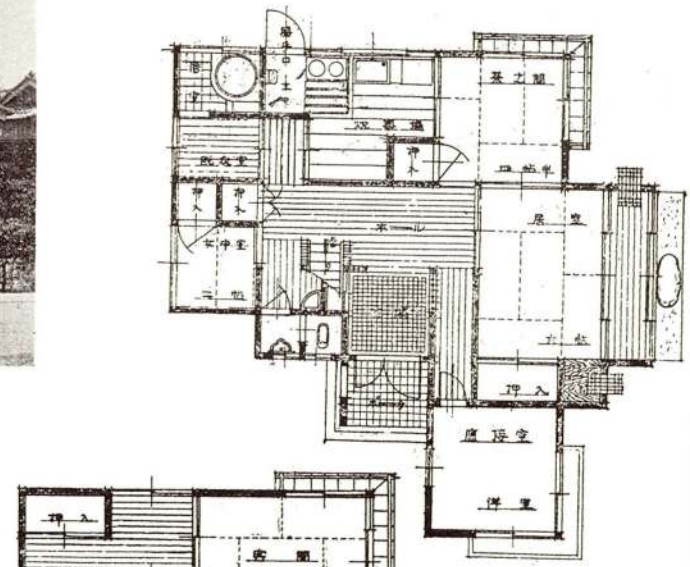
又　旭組　敷地 283坪74　建坪數 延58坪25

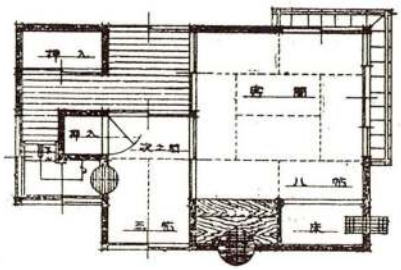


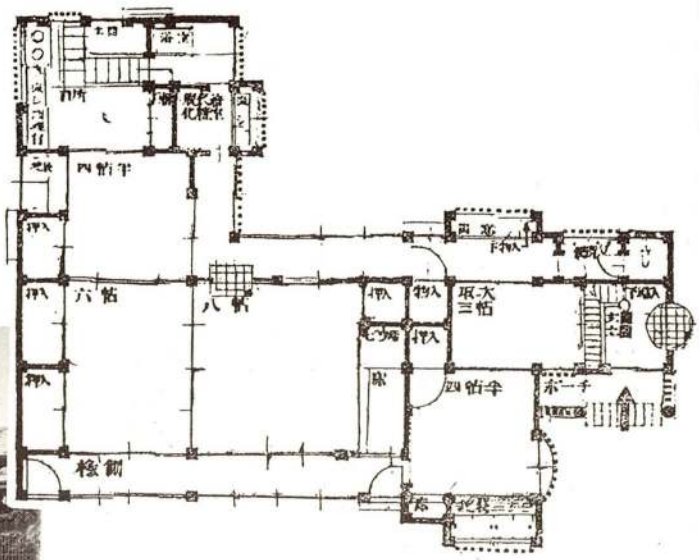




ル　東亞土地株式會社　敷地 126坪37　建坪數 延32坪40

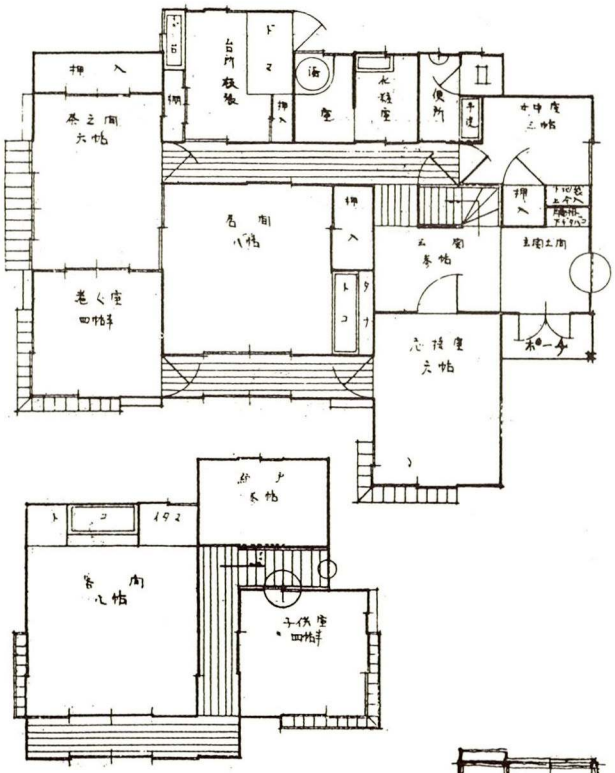


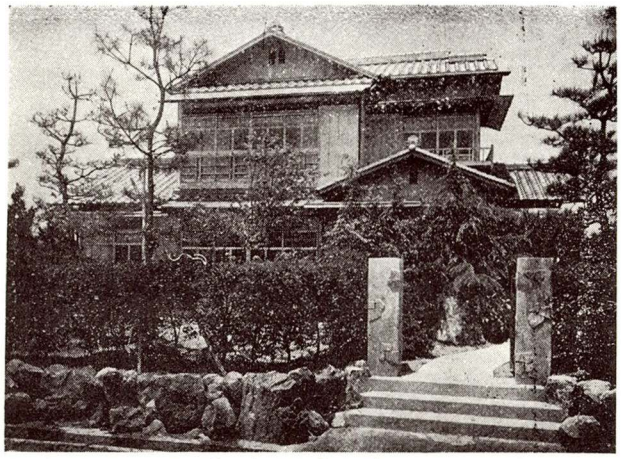




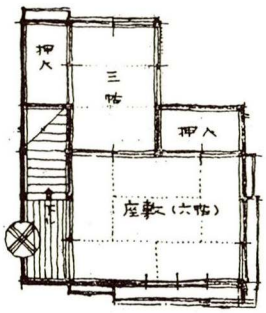


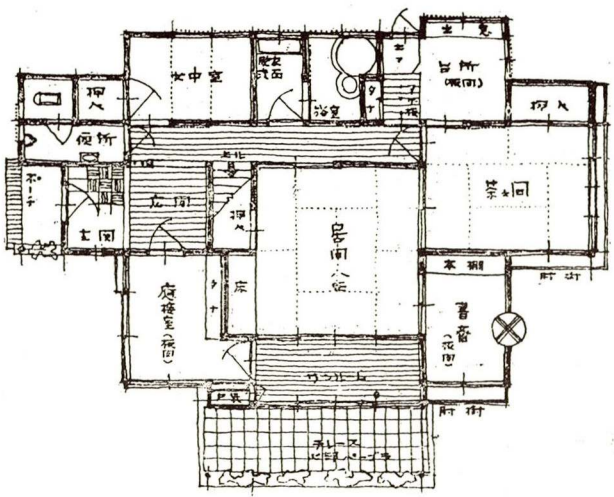
オ　關西土地株式會社　敷地 140坪　建坪數 33坪



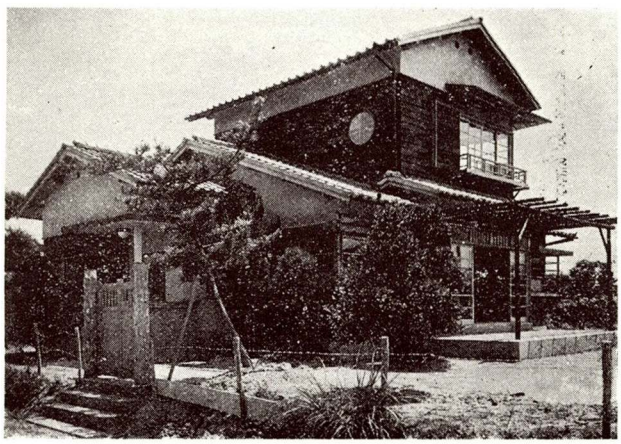


ワ　旭組　敷地 141坪3　建坪數 39坪25



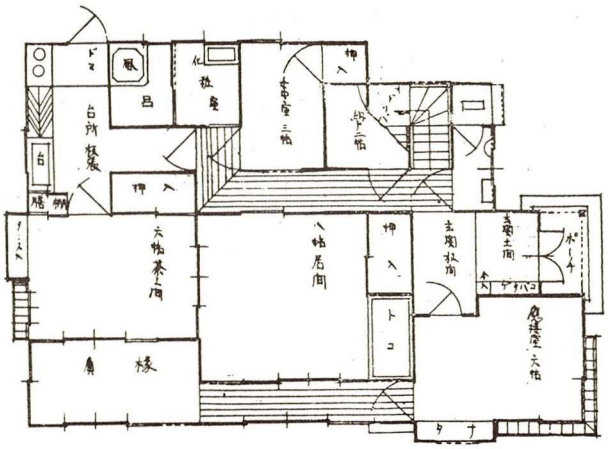


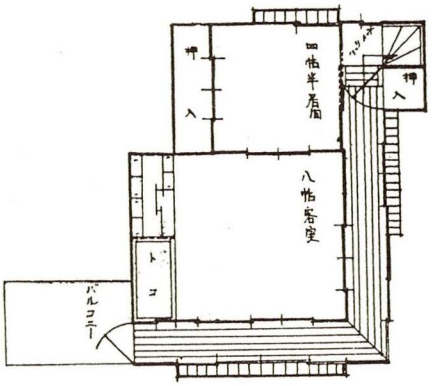
カ　竹中工務店　敷地 160坪53　建坪數 34坪5

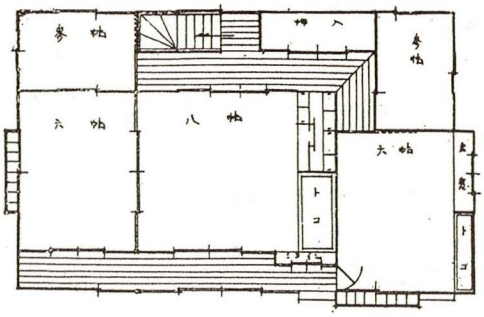


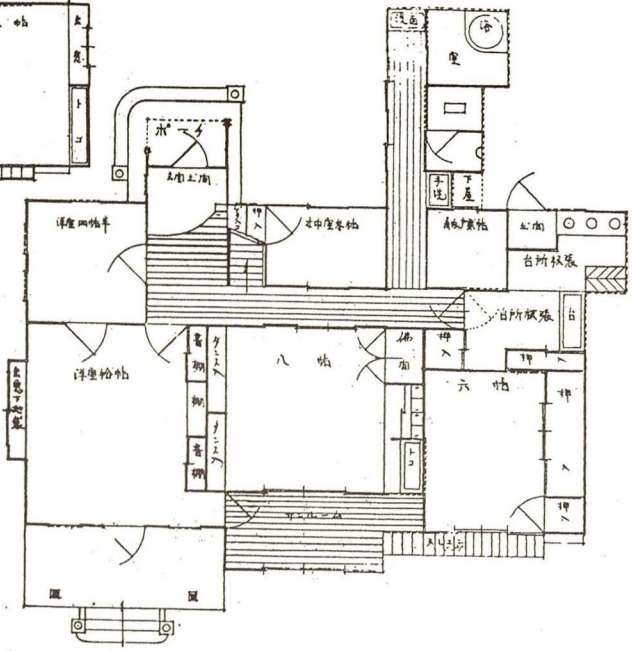


ヨ　旭組　敷地 133坪59　建坪數 延39坪25



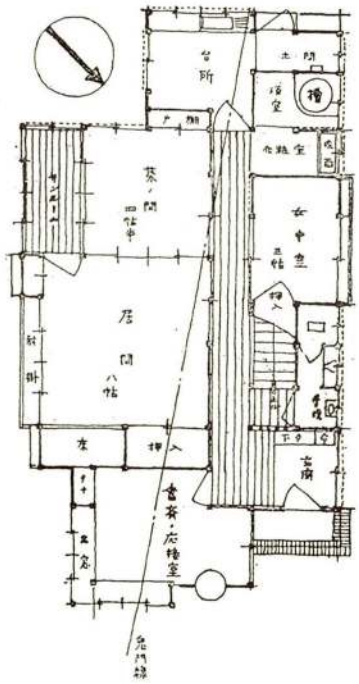


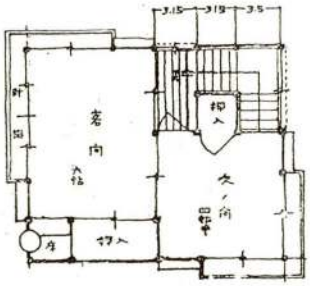






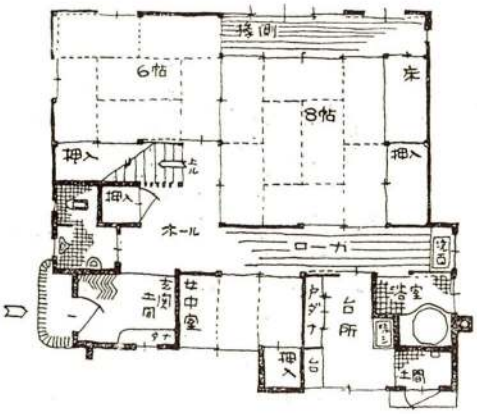
タ　旭組　敷地 237坪5　建坪數 延55坪75

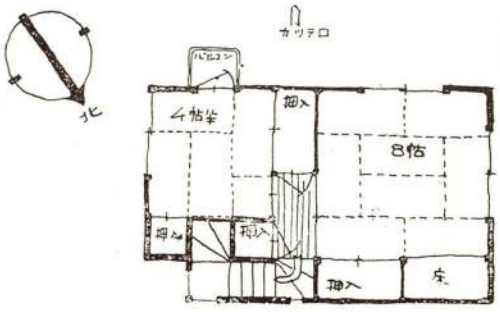


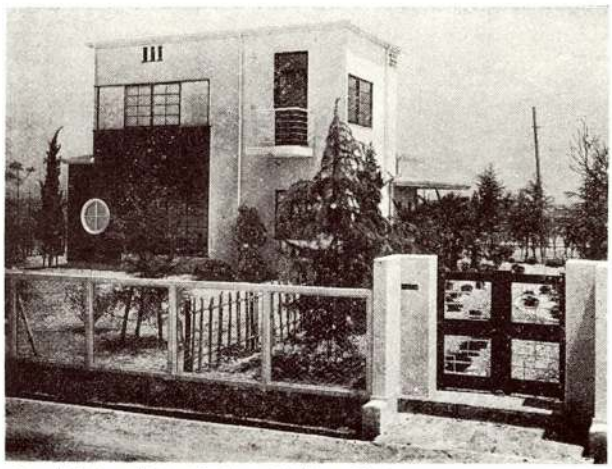




レ　竹中工務店　敷地 77坪3　建坪數 延32坪48



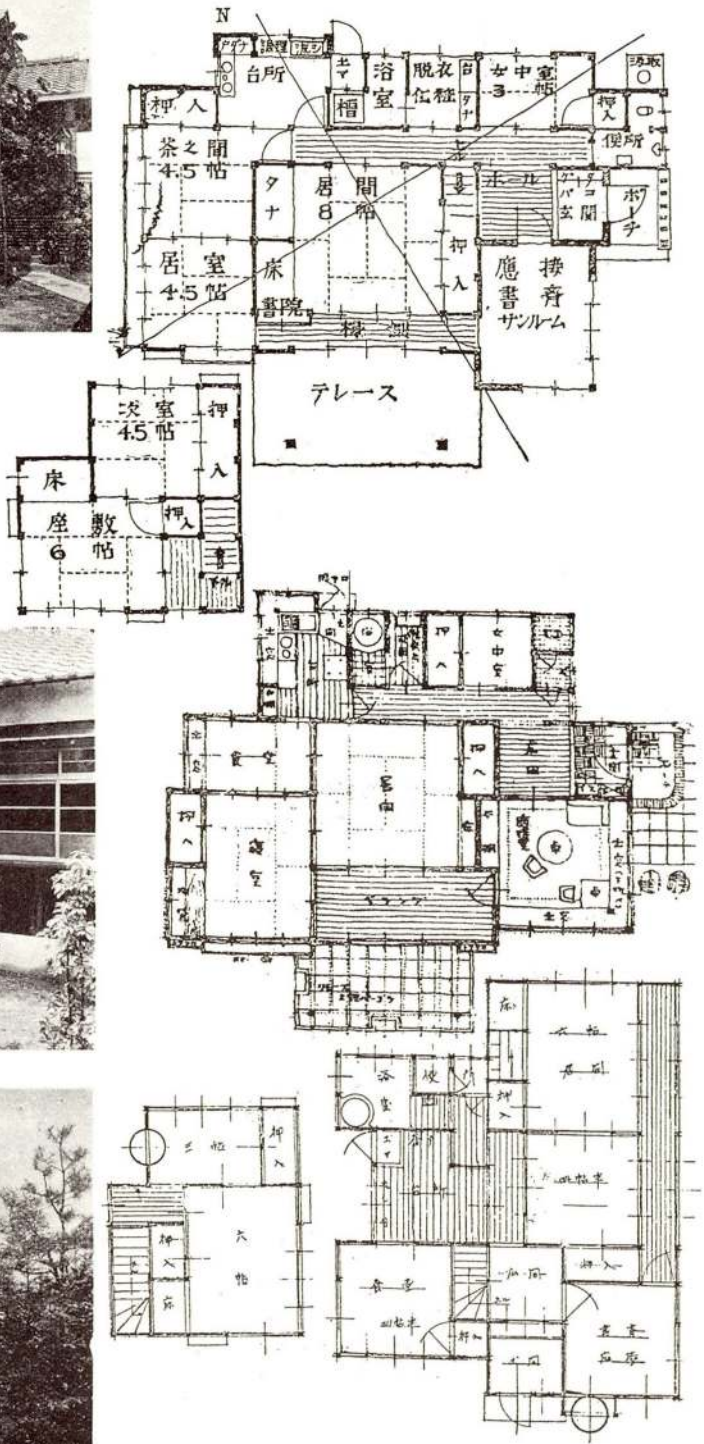




ソ　大林組　敷地 154坪　建坪數 延33坪1



ツ　森田工務店　敷地 130坪　建坪數 延39坪65



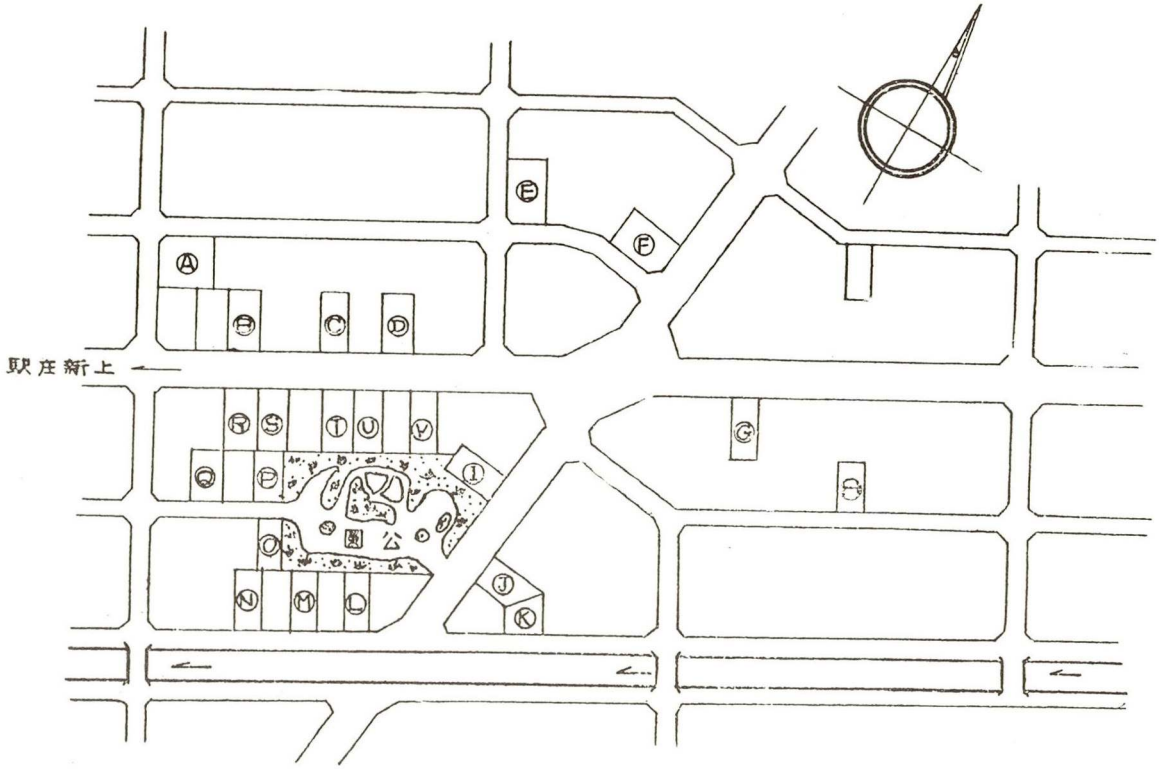


、日本建築協會　敷地 132坪5　建坪數 27坪



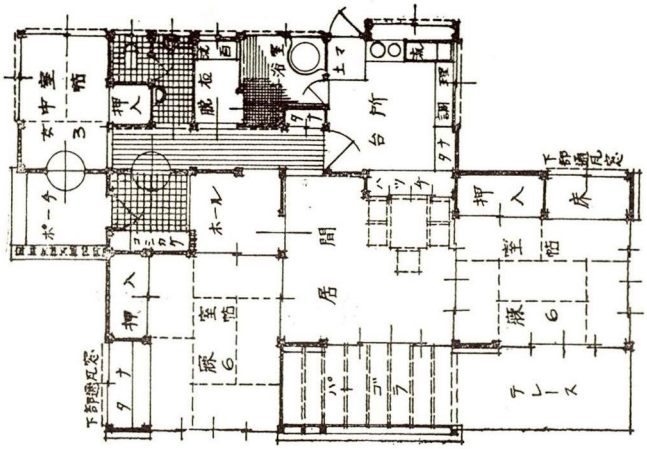
ネ 三宅工務所　敷地 108坪75　建坪數 延33坪9

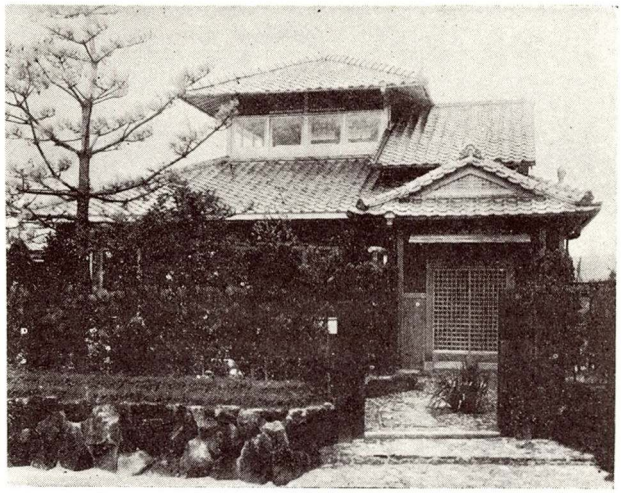
瑞光住宅博覽會場土地區劃圖



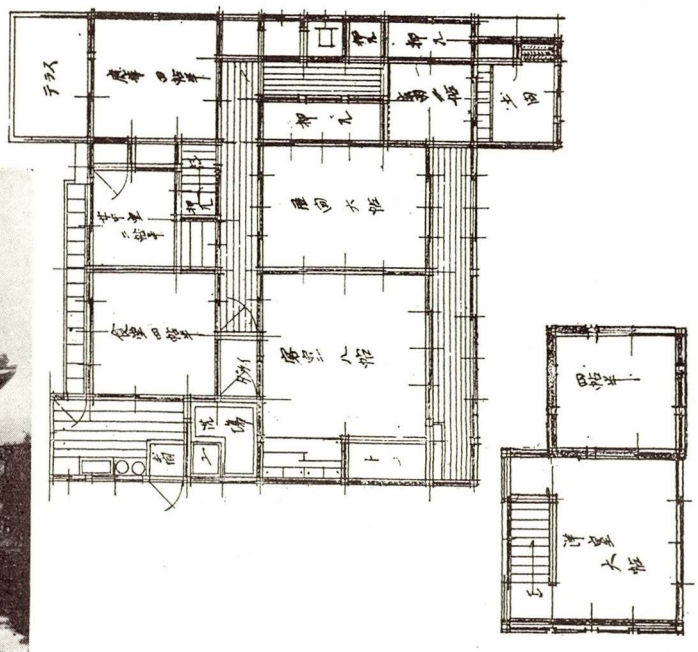


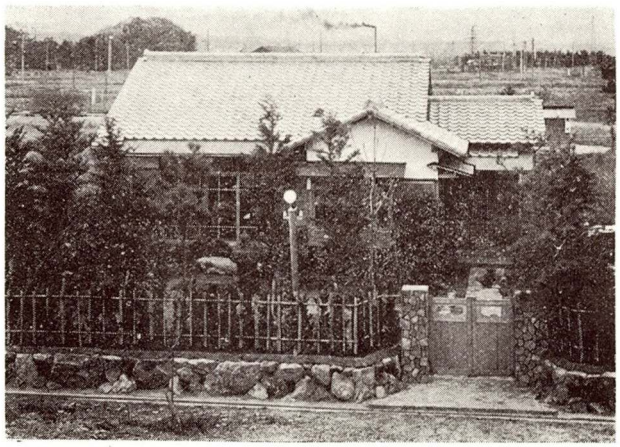
A　日本建築協會　敷地 130坪　建坪敷 26坪7



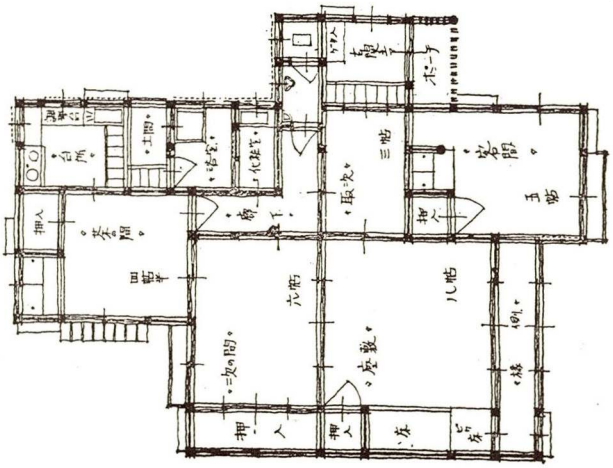


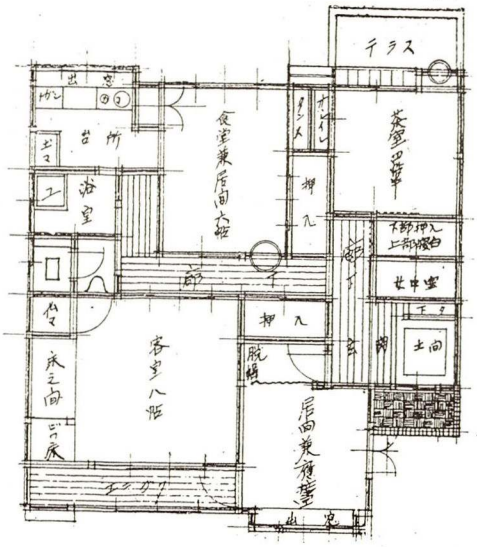
B　大畑義　敷地 86坪　建坪敷 {1階 36坪69 / 2階 7坪31}





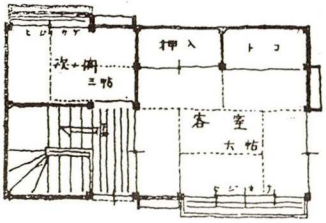
C　關西土地株式會社　敷地 86坪　建坪數 28坪

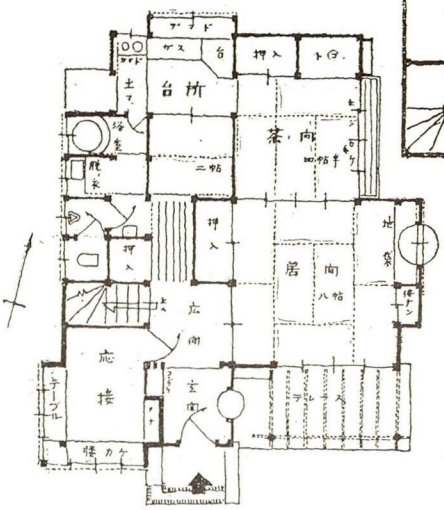


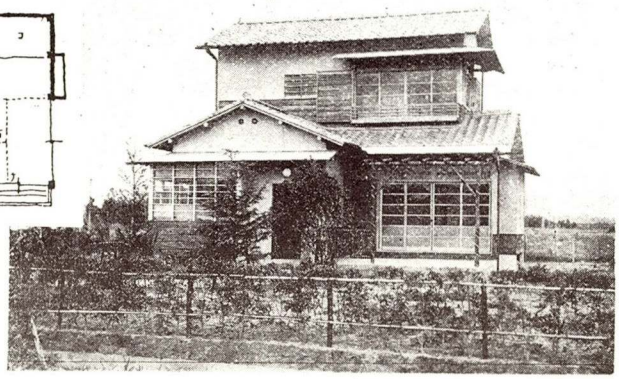




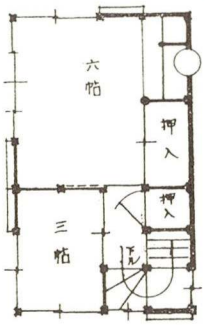
D　立道土地建物合名會社　敷地 86坪　建坪數 27坪43

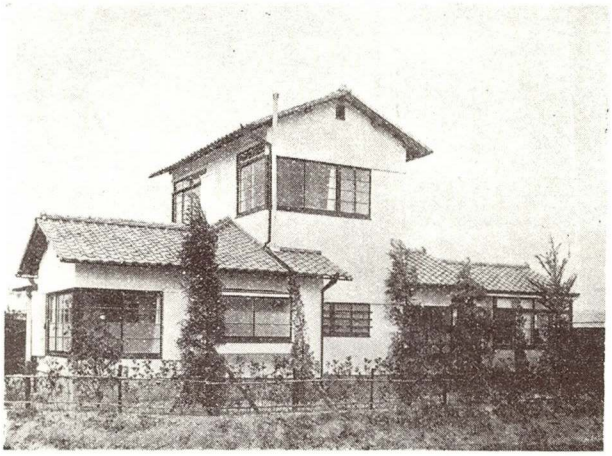




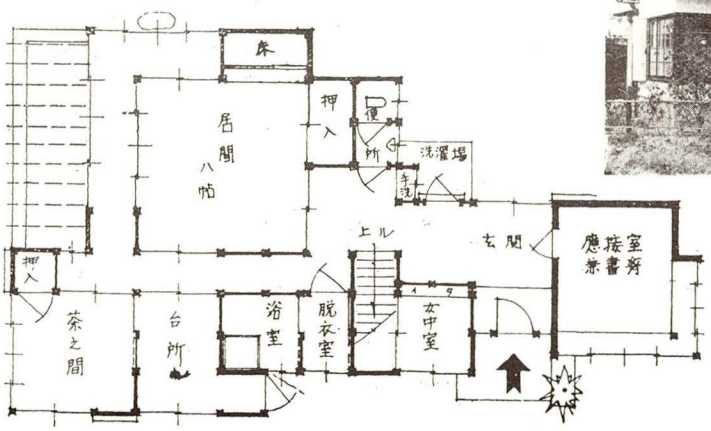


E　竹中工務店　敷地 91坪　建坪數 {1階 18坪96 / 2階 7坪96}



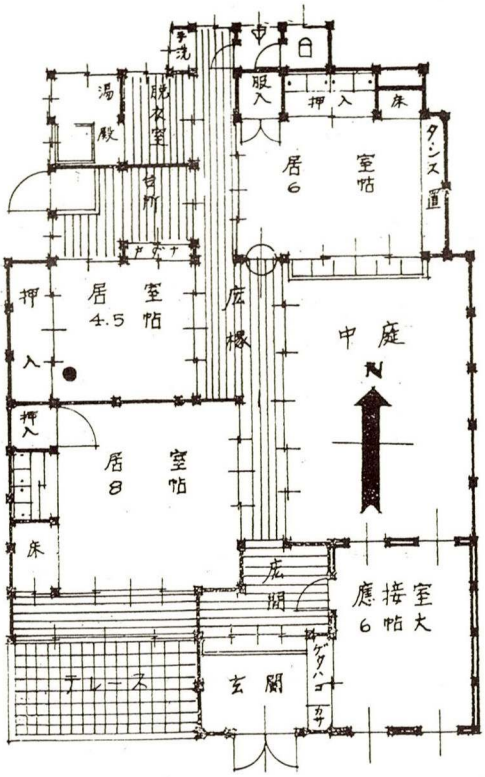


F　鴻池組　敷地 90坪　建坪數 {1階 24坪 60 / 2階 7坪95}



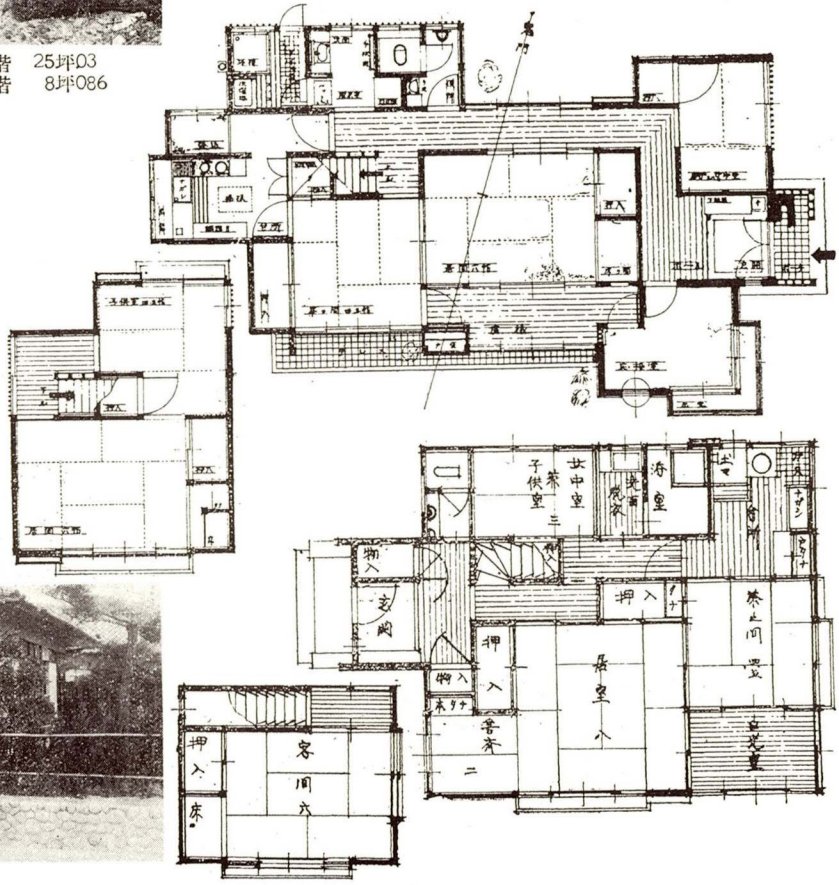


大阪土地電話住宅株式會社　敷地 66坪　建坪數 30坪35



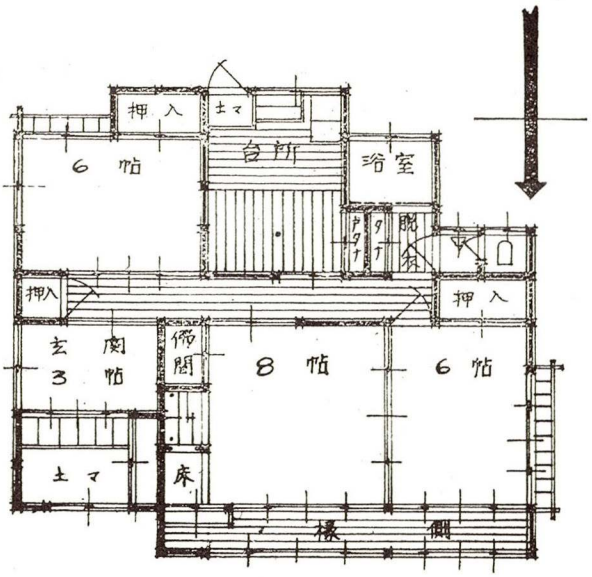


若林工業株式會社　敷数 81坪50　建坪數 {1階 25坪03 / 2階 8坪086}



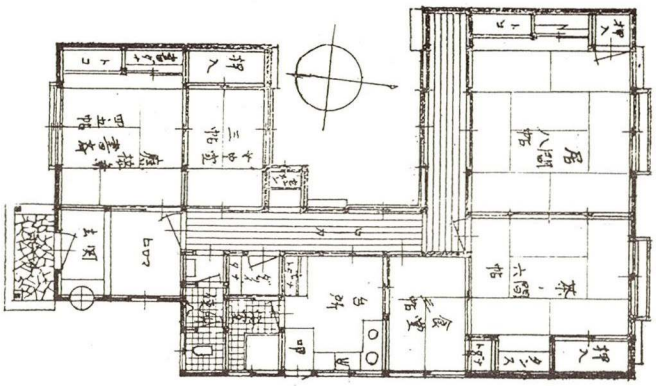


安達善藏　敷地 73坪　建坪數 {1階 25坪42 / 2階 5坪79}



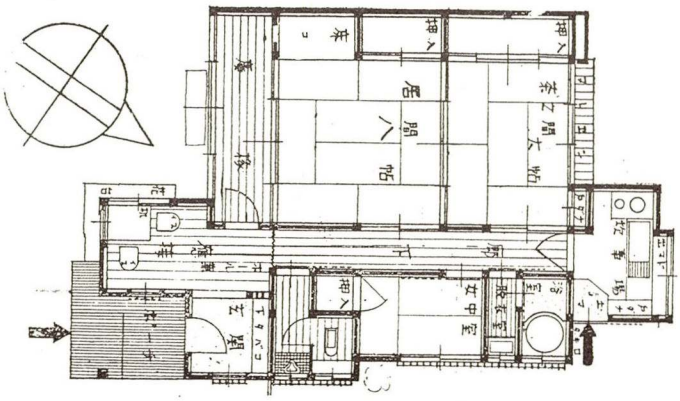


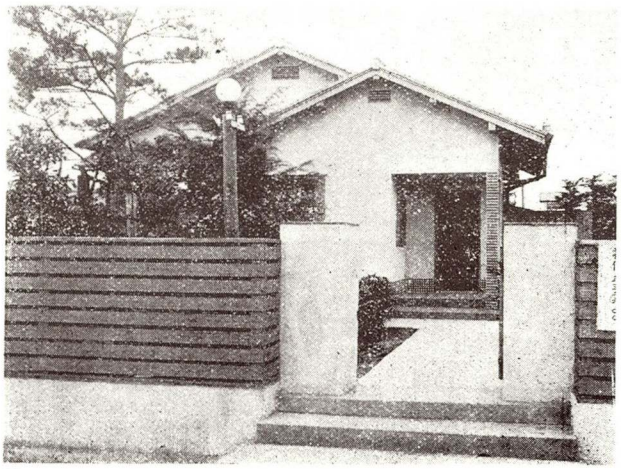
K 納谷富藏 敷地 69坪29 建坪數 26坪67



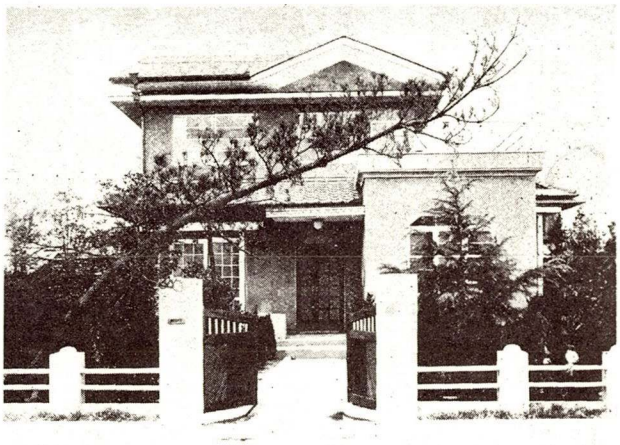


L 今中組 敷地 75坪 建坪數 28坪25

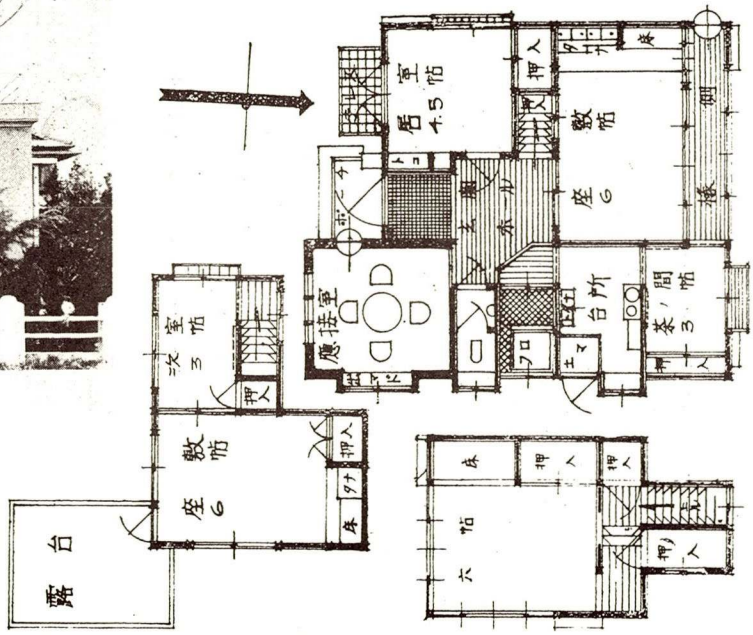




M 藤木工務店 敷地 75坪 建坪數 23坪183

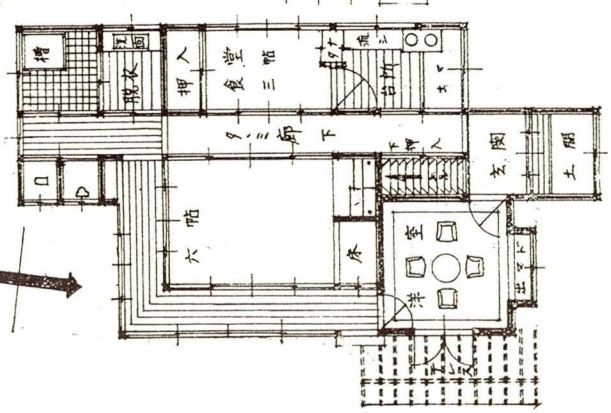


N 中道猪三郎 敷地 75坪 建坪數{1階 2坪31 / 2階 7坪05



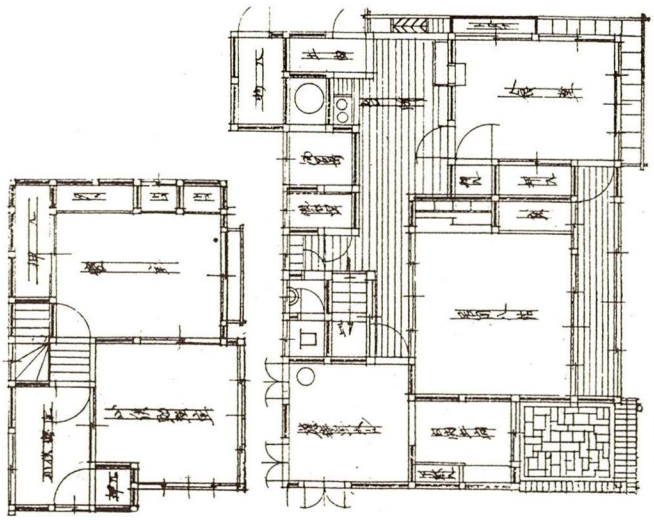


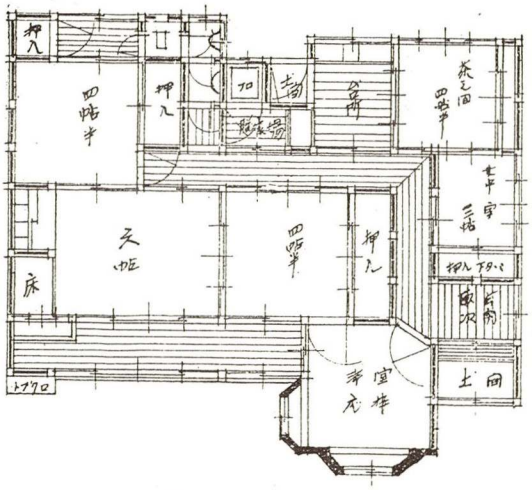
O 淺井三郎工務店 敷地 59坪 建坪數{1階 21坪 / 2階 6坪6

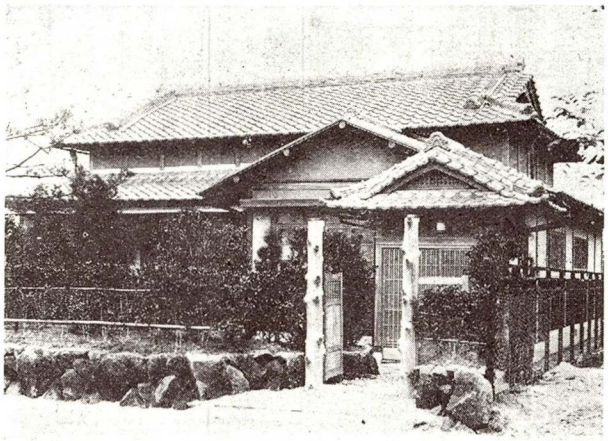




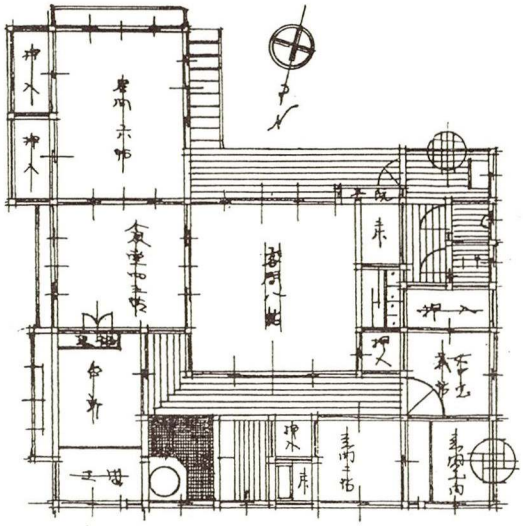
P 船橋秀吉 敷地 70坪 建坪數{1階 23坪67 / 2階 10坪07

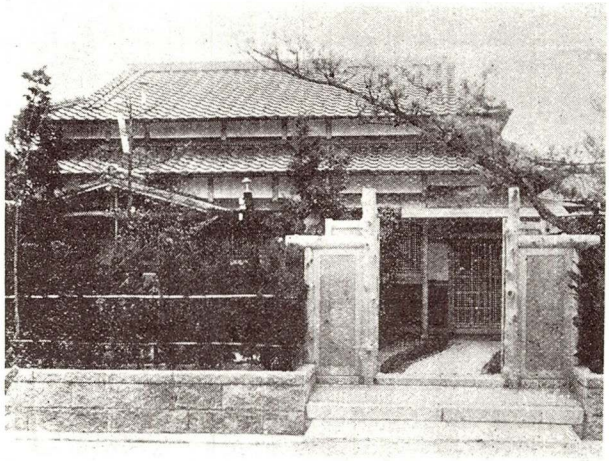




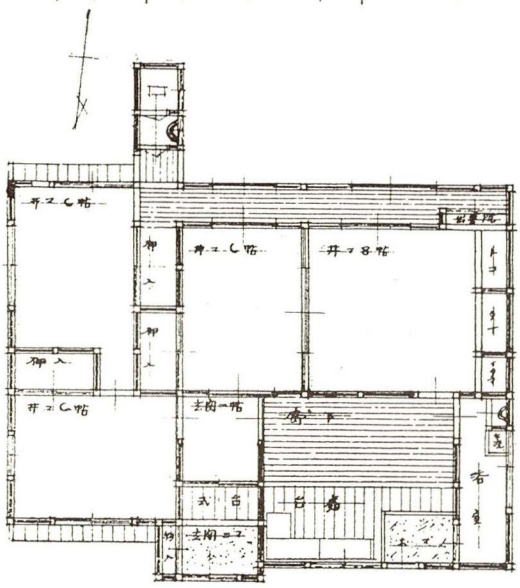


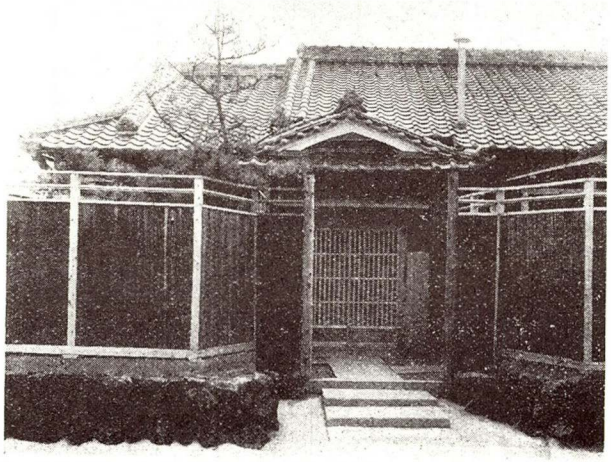
Q 山寅組　敷地 79坪　建坪數 35坪4





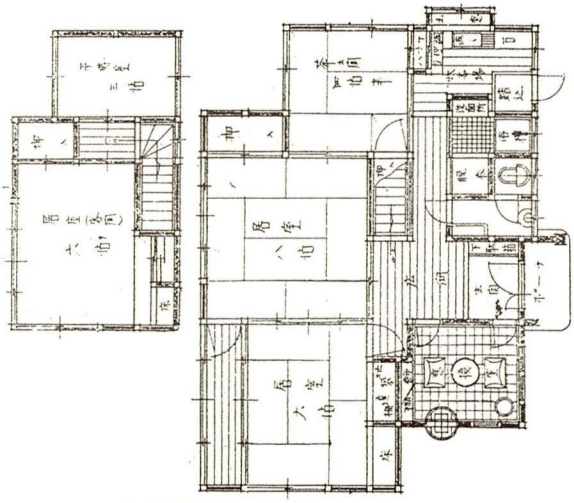
R 竹井工務店　敷地 91坪　建坪數 23坪75



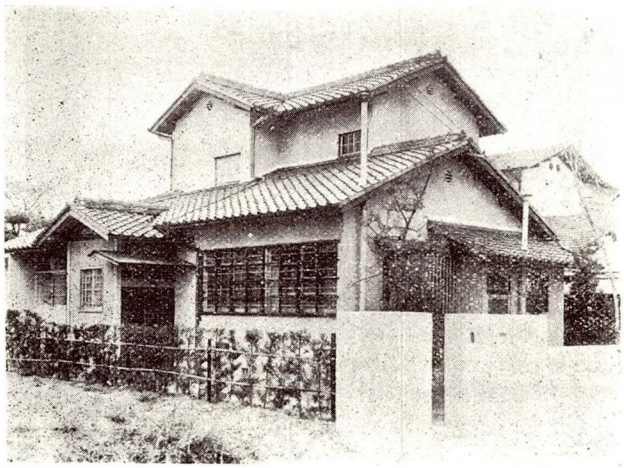


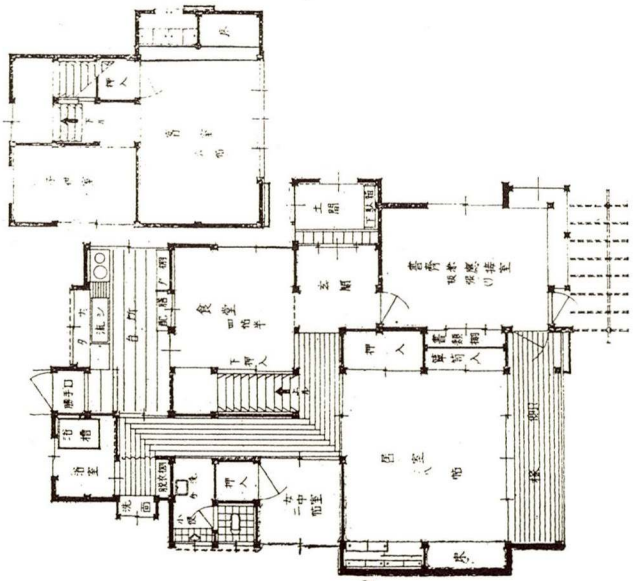
S 由上鶴藏　敷地 91坪　建坪數 30坪71





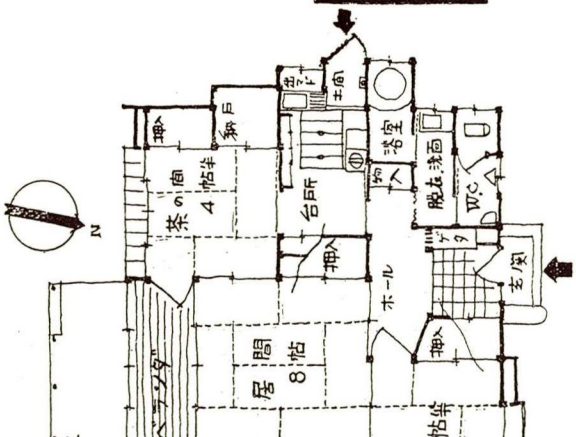
T 大昭組　敷地 91坪　建坪數 {1階 22坪65 / 2階 7坪61}



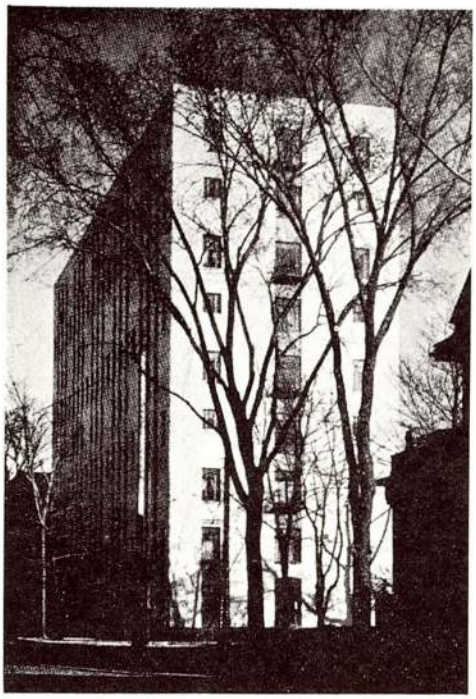


U 有山組　敷地 78坪　建坪數 {1階 26坪51 / 2階 7坪97}





Λ 大林組住宅部　敷地 91坪　建坪數 22坪67



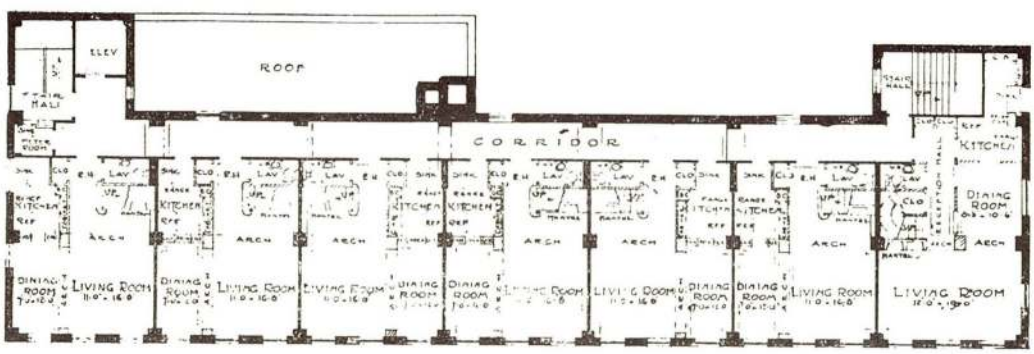
全　景

採算の取れた新形式のアパートメント

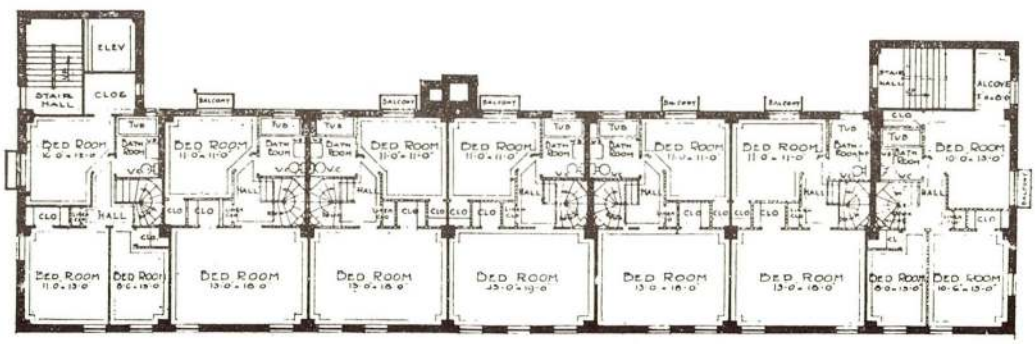
1932 年度の合衆國建築請負契約高は 1931 年の契約高より 56% を減じた未曾有の不況時代ミルウオーキー市のアパートメントの平均空室實に 40% を算する中に、この Herbert W. Tullgren 氏により計畫されたミルウオーキー市の The Viking Apartments は 1931 年開館以來空室僅かに 8% の記錄を示して來た。

それは競爭の結果、冷藏庫、中央洗濯場等を設備しても成績の好いものはつかの間で、他が眞似をすれば直ぐ成績惡化するので氏は利用面積とプライベシーの增加、維持費の減少等を苦心考慮の結果プランのパテントを取つたのである 1 世帶當り約30坪、家賃の報告のないのが遺憾です。

(Buildings and Building Management 誌より
内藤亮一)



2・4・6・8 の各階平面圖



3・5・7・9 の各階平面圖

ロスアンゼルスの 335,000 弗海濱遊園地



海濱の全景── 建築物、棧橋、防波堤其他の設備及びボート、ヨット等を示す



海水浴中心建築とドライブウエイの一部

我が國では都會地に近き海岸、海水の汚染が漸くに問題されて來た折柄、ロスアンゼルス港に近きカブリロビーチ（Cabrillo Beach）と稱せられる會ては陋屋點々とし、岩と砂洲との入れ交つたる不毛且つ危險であつた海岸も、ロスアンジエルス市の公園部による六年計畫の開發の結果として今日では米國に於て最も美しく完全な公衆の海濱慰安地となつた。

この海濱はその一半は防波堤の內側の穩かな水面に面し他半は大海に面してゐる港に近接したものであり、1927 年當時海草群り他の目的に使用するには比較的無價値の爲め僅か 31,833 弗で市の公園委員會の手で買取られたのである。

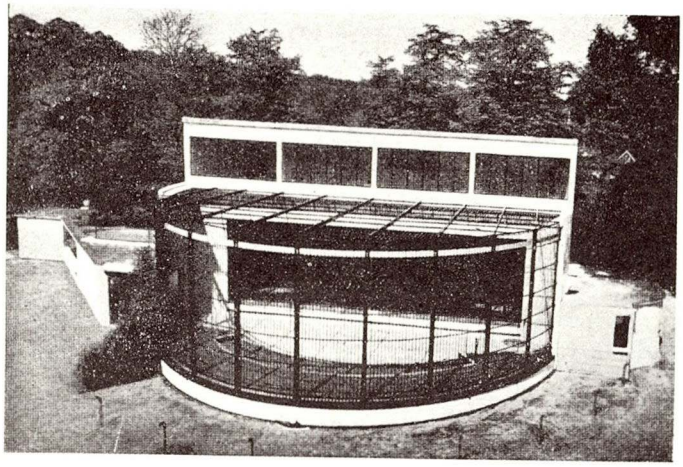
先づ約百萬立方呎の砂で岩と砂洲とが埋られて約 3,0000坪の美しい砂の海岸が出來た、この經費 142.800 弗餘。次に防波堤の內側にスパニツシユタイプのボートハウス及び棧橋を建設して、ヨット及びボートの設備を公衆の使用にまかせる市設ヨットクラブを設立した、又大海に面する海濱の海水浴者の保護の設備も行はれこれ等は經費 70,000 弗を僅かに超過した。

以上の開發の第一段を終つて多數の人々の行樂を惹きつけたが更に市民の要望により 1931 年に市は失業救濟公債 1,000,000 弗の中より 90,000 弗を支出して海水浴場中心建築物　2階建に塔を有するスパニツシユタイプで、娛樂室、オーデイトリアム、料理店、アーケード、日光浴室、海水浴場管理事務室等を設けたるもの ── を建築し、又海濱の美化と防風林のためシーパルム（Sea Palm）の木が植えられ更にピクニックのためにパーゴラの下にピクニックテーブルを置き、野天料理の出來る設備も具へられた。開發の完成は 1932 年末であり、總經費は 334,950 弗であつた。

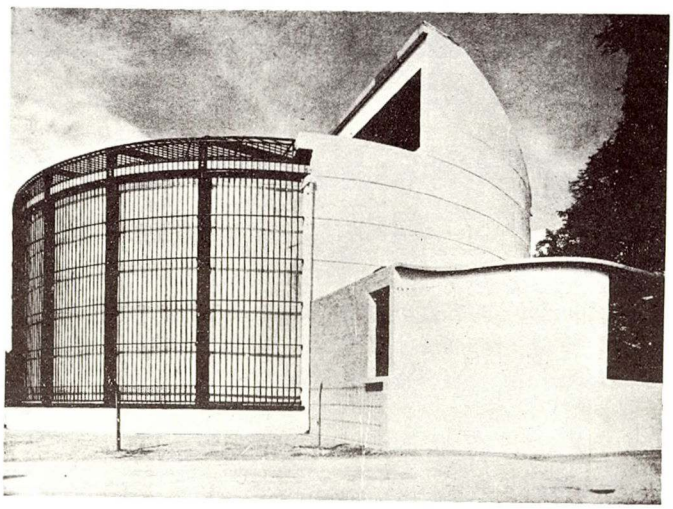
（The American City 誌より　內藤亮一）

ロンドン動物園のゴリラ館

建築家　テクトン



全　景

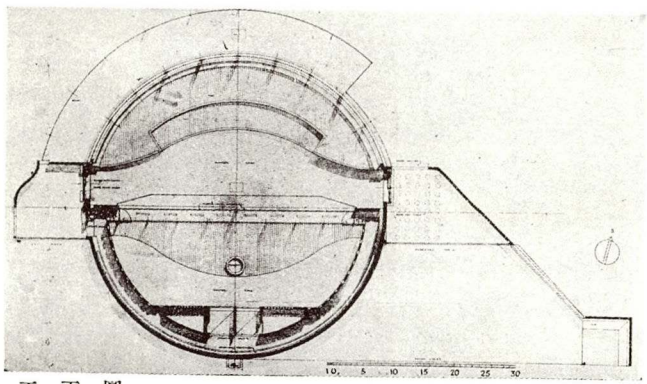


側　面

夏は出來るだけ動物を戸外の空氣にさらし、冬は寒氣を完全に防ぐ一方、空な檻を人目にさらさないやうにするのがゴリラ館に必要な條件であつた。そこで考案されたのが寫眞のやうな圓形のプランであつて、半圓形の檻の部分は冬期之を廻轉構造物によつて完全に覆ふてその中に觀衆を入れる事が出來、暖くなれば之を他の半圓形の鐵筋コンクリート構造の中に收めてしまふ事が出來る。

ゴリラは人間の病氣に感染しやすいため、冬期は觀衆とゴリラの部屋の間をガラス戸を以てさへぎり、夏期は檻から八尺を隔てゝ手摺が設けられる。外部は濃クリーム色、內壁と檻は青、通路と內部の寢小屋は黃で、從來の動物舍が兎角獄舍のやうな感をあたへるに比して著しく明い調子をもつてゐる。

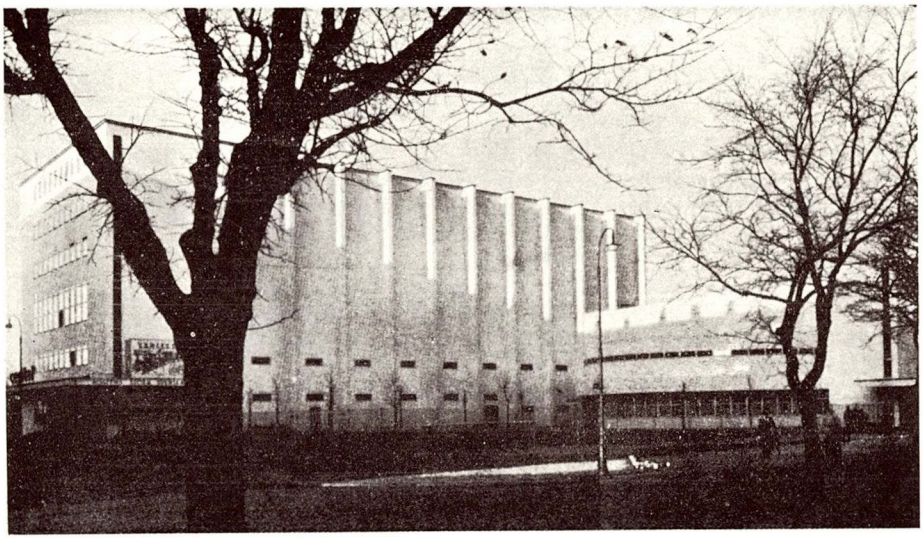
建物の主體は鐵筋コンクリート、內部はセルコンクリートと云ふ保溫材を以て2インチ半厚に仕上げ、床は前部チークブロツク張、後部テラゾ仕上である。ゴリラは木床の部を好んで前部に出たがるので觀衆が見るのに非常に好都合である。廻轉構造は輕金屬と木骨で組まれ、ベニヤ板張の保溫ボードを內部に張り、外部は金屬板張ベニヤ板屋根はビチユミナススエルト、ゴリラは腕力が强いので戸窓はすべてスチールガラスは4分1インチ厚を用ひてある。



平　面　圖

（Architectural Review 誌より 本多正道）

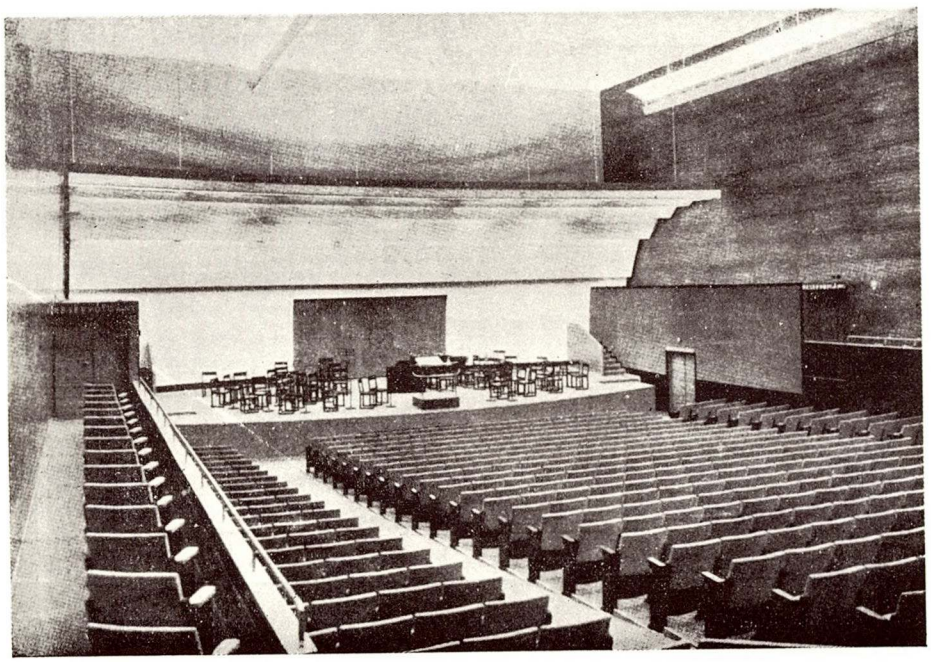
スエデン・ヘルシングボルグの音樂堂　建樂家　スウエン・マルケリウス



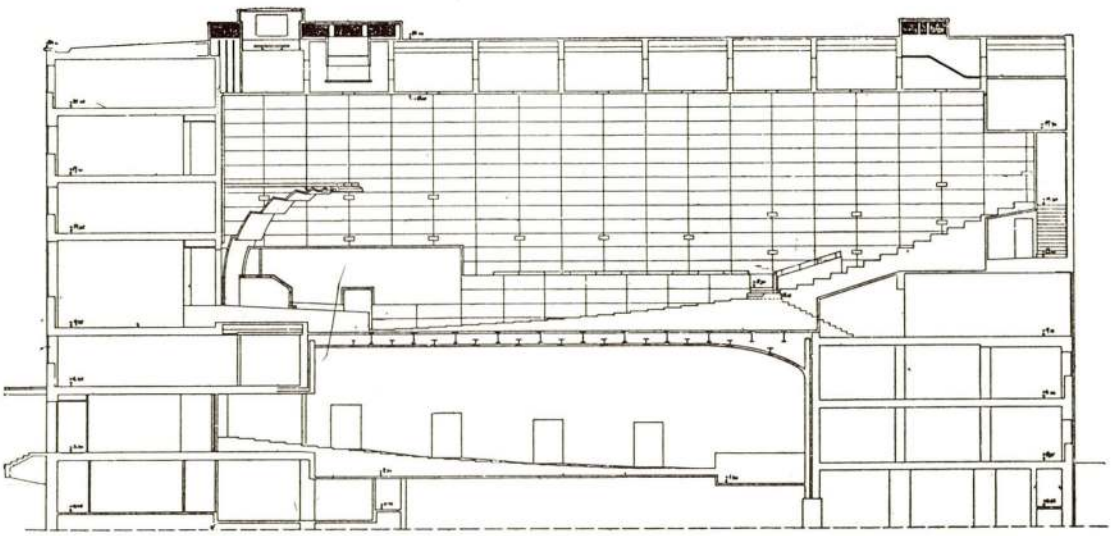
外　　觀

人口４萬９千の北國の小都市に建つた此の美しいモダンな音樂堂は１階に525の座席を有する小音樂室とその上に1,000の座席を有する大音樂室とからなり、小音樂室は專ら室內樂、講演、時には映畵に用ひ、大音樂室は時に饗宴場として用ひる其他には１階に外套室、玄關があり、建物の南側は６階になつてゐて外套室、樂士室、支配人室、獨奏者室、指揮者室、練習室、事務、道具方等の宿舍等がある。１階の一段低い所にはレストラン兼ダンスホールがあり、その調理場は２階にある。大宴會用の調理場は別に南側にとつてある。又大ホールを宴會に用ひる場合には２時間半で座席を片づける事が出來る。音響には特に留意し、壇の上には七つに折れた反射體をつけてある。此の音響の計算はパリーのプレーエル音樂堂を設計したギエスタブ・リョン氏によつて居る。又小音樂室は構造を全然離してしまつて、音の傳達を防止してある。

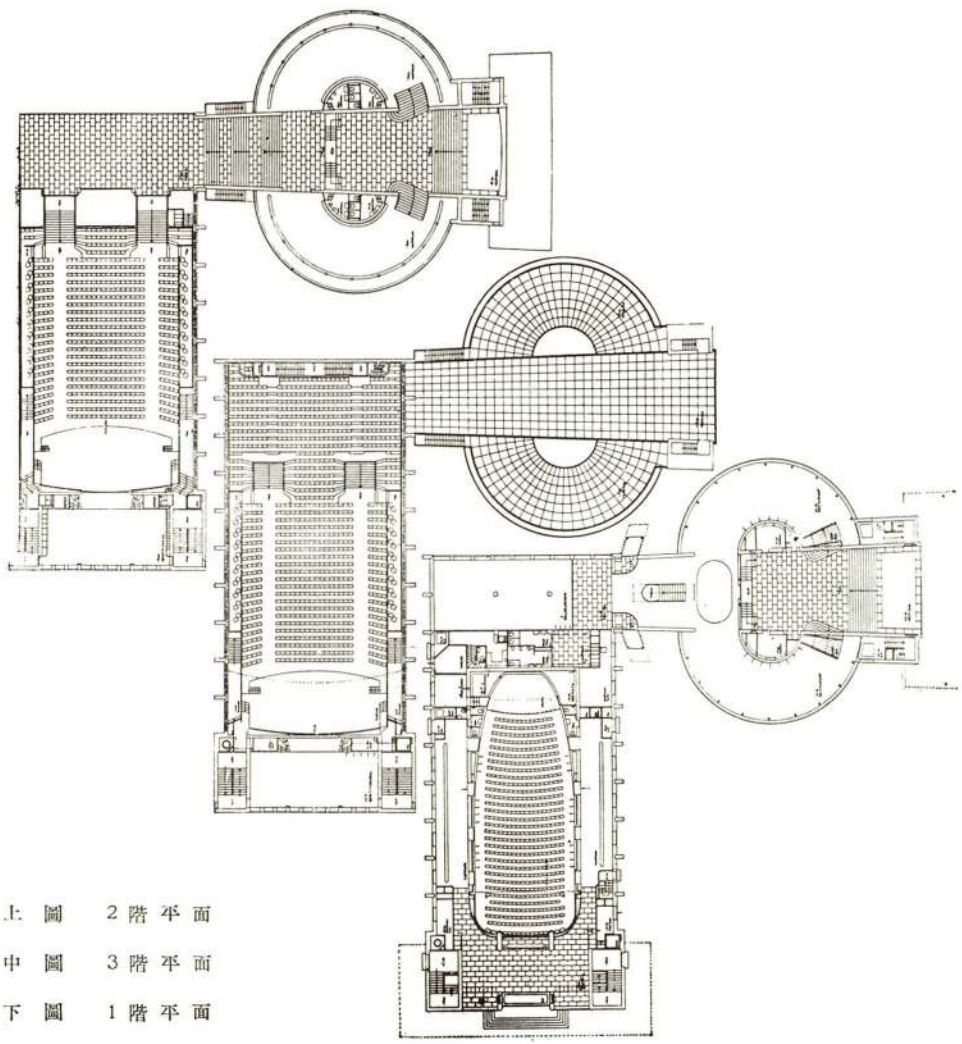
（Architectural Review 誌より　本多正道）



大音樂室內部



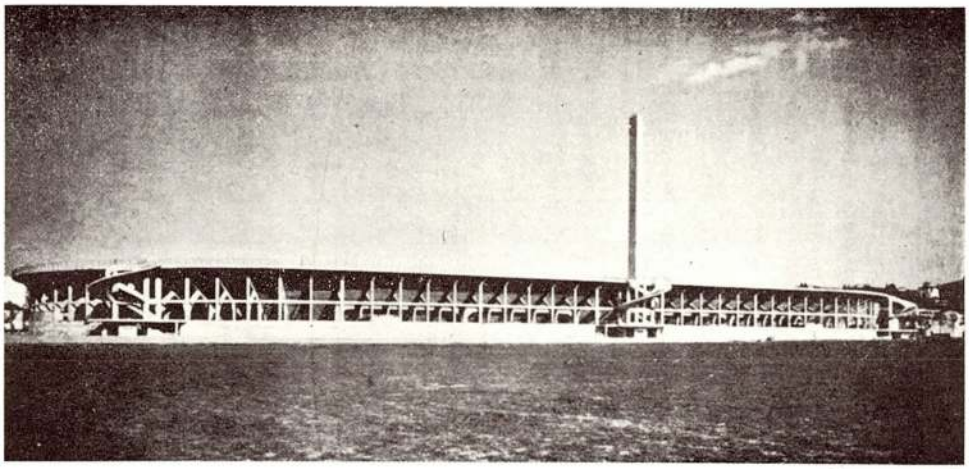
斷 面 圖



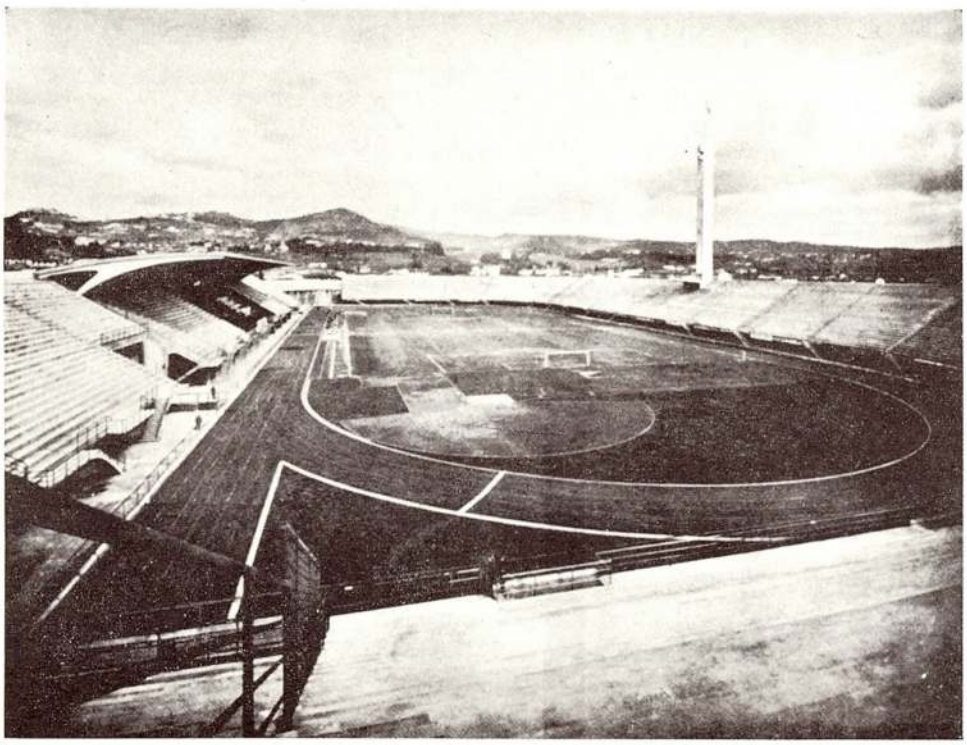
上 圖　2階平面

中 圖　3階平面

下 圖　1階平面



外　　觀



競技場內全景

伊太利フロレンスの競技場

健康と運動と共同精神とは新興伊太利の標語であり、最近伊太利の建築界は、こうした精神の勃興から非常な影響を受けて居る。

競技場、日當りをよくする爲の大廣場、養生を目的の療養所、宣傳の爲の塔及展覽場、竝に愛國心鼓吹の爲の國家的記念碑等の建設が最近伊太利建築界の主題になつて居る。

フロレンスのこの GIOVANNI BERTA 競技場もそうした傾向の一つの表はれである。

鐵筋混凝土造を大膽に驅使した點が注目に値する。

塲内に聳え立つマラソン塔は、競技塲の塔として競技の際に普通の役目を果す以外に、斧とファッショの國家觀念を宣揚する目的を持つて居るものである。

スタンドから出路として、鐵筋混凝土造の螺旋狀階段が設けられてあるが、垂直な混凝土の支柱と對照してそれは面白い形體美を現出して居る。

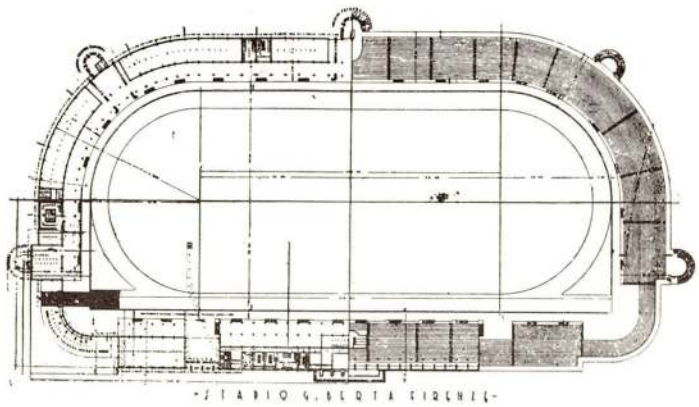
メイン・スタンドの日除け屋根も鐵筋混凝土造であるが、鐵骨構造亞鉛引鐵板の屋根の塲合にさへ相當な大さのメムバーとなるのを、かくも輕快にやつてのけたのは全く設計者の手腕である。

設計者はファシスト建築家の LUIGI NERVI である。新しいファシスト建築の持つ重大な社會的意味がこの競技塲の設計には明瞭に表現されて居ると言はれる。

スポーツに對する諸設備は勿論、食堂、應接用廣間、廣い廊下、階段等も充分なる設備が完備して居ると言ふ。

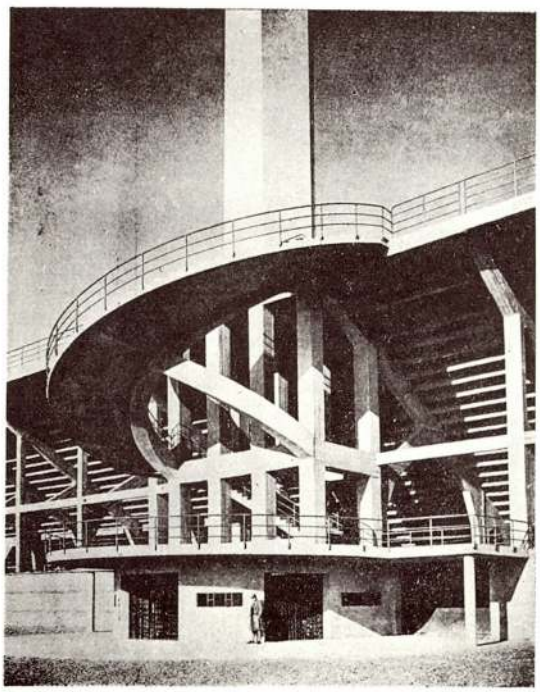
全體で35,000人、屋根のある部分だけで6,000人の觀衆を收容し得られる。

(Architectural Record 誌及 Architectural Forum 誌より　新名種夫)

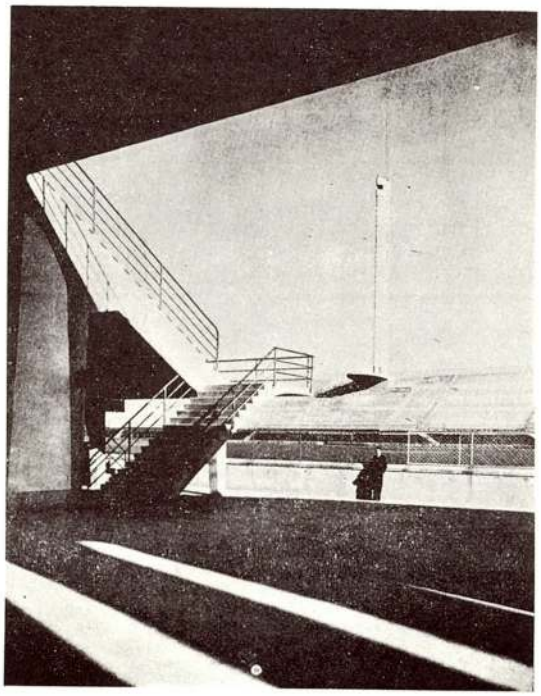


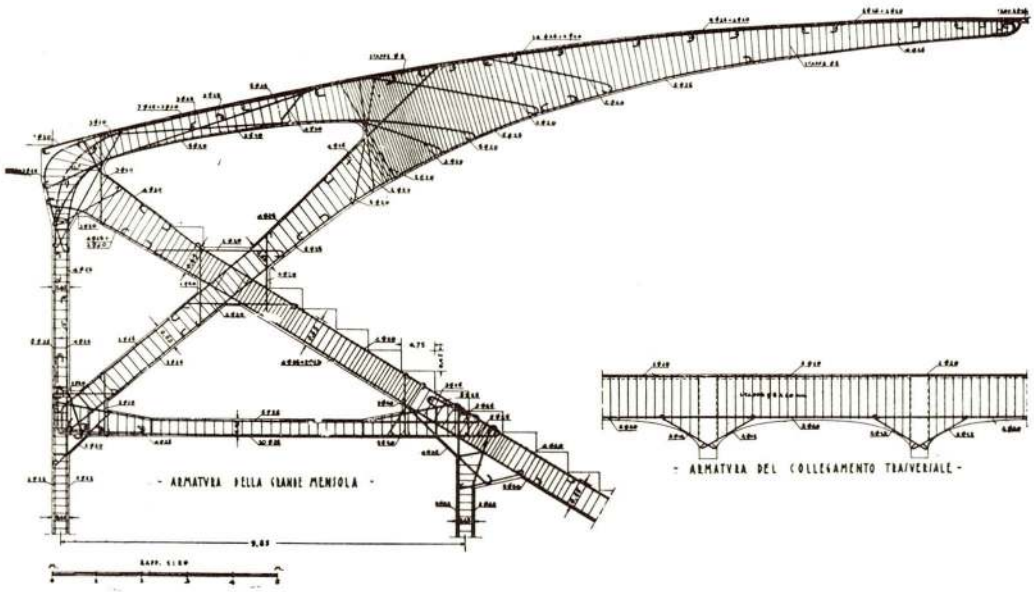
平面圖

廻り階段

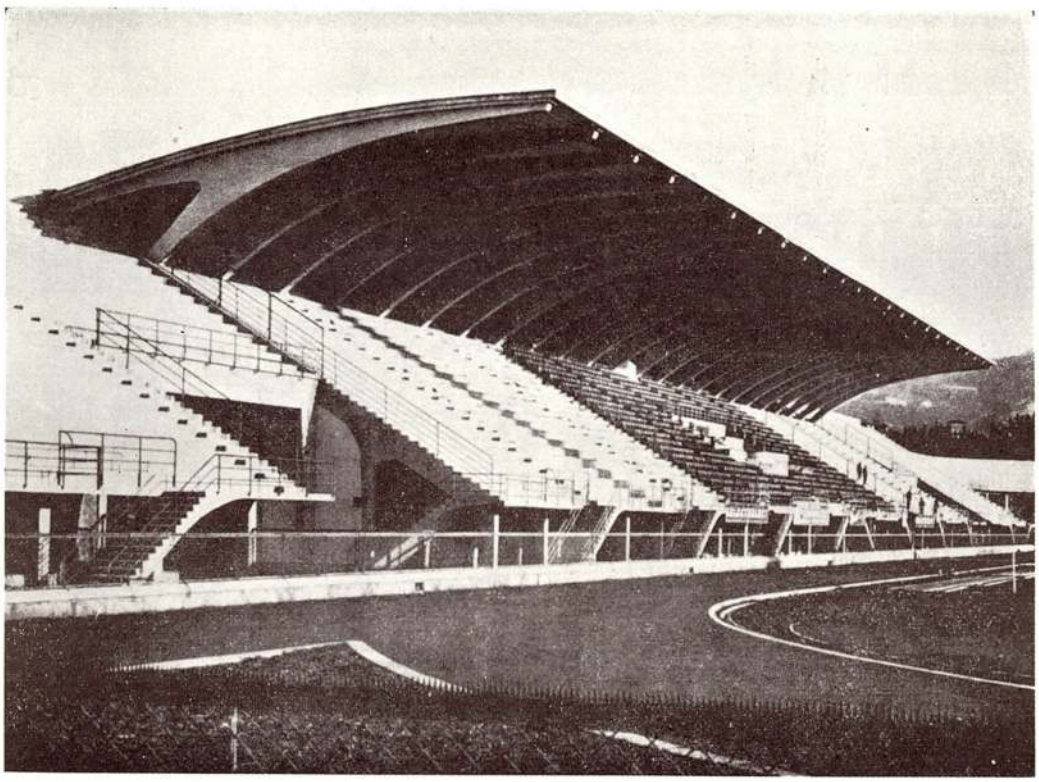


マラソン塔





観覧席屋根構造図



観覧席の屋根のある部分

林産試驗所

ウイスコンシンのマデイソン街にあり、建築家ホラバード及ルートの設計。横平たいマッスと縦の取扱ひとを併用した簡明直截なデザインである木材製品の價値を保持し市價を高めるのを目的とするこの建物内の研究をよく表明したデザインであると言はれて居る。

外觀を特徴附ける窓外部の縦の線はプロペラ狀に作られた杉杉の柾であり、それが鐵と硝子との構造に於ける一つの新しい裝飾法を提示して居る

其他建物全般に捗つて、防火の點から評される限多種多樣の木材が使用されて居る。特に床、窓枠、障子組子等に。

事務室の部分並に物理及化學實驗室として豫定された室以外の部分は、實驗用のペーパー・ミルや乾燥室や濕室や挽材機其他各種の作業室等に宛てられて居る。

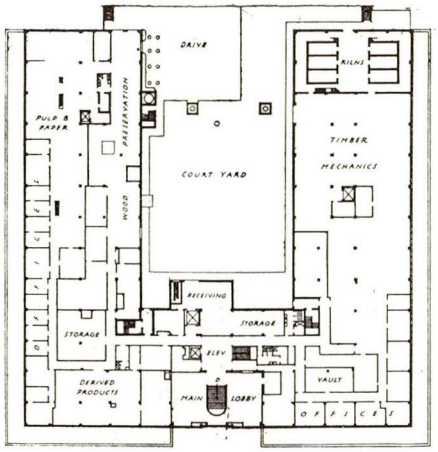
以上の如き特殊な施設に對しては膨大な機械設備が必要である。尙其上 10 個の定溫室及定濕室化學實驗室や特殊な各室に對する夫々の換氣、並に全般の換氣に對するセパレイト・システム等の設備が必要である。

建物の容積は 2,400,000 立方呎、床面積 175,000 平方呎、工費總額 750,000 弗である。

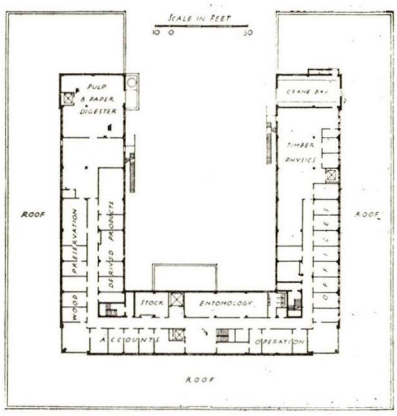
（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



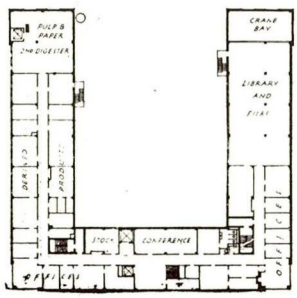
外　　觀

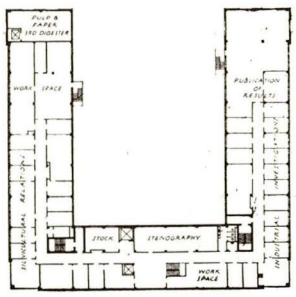


FIRST FLOOR PLAN

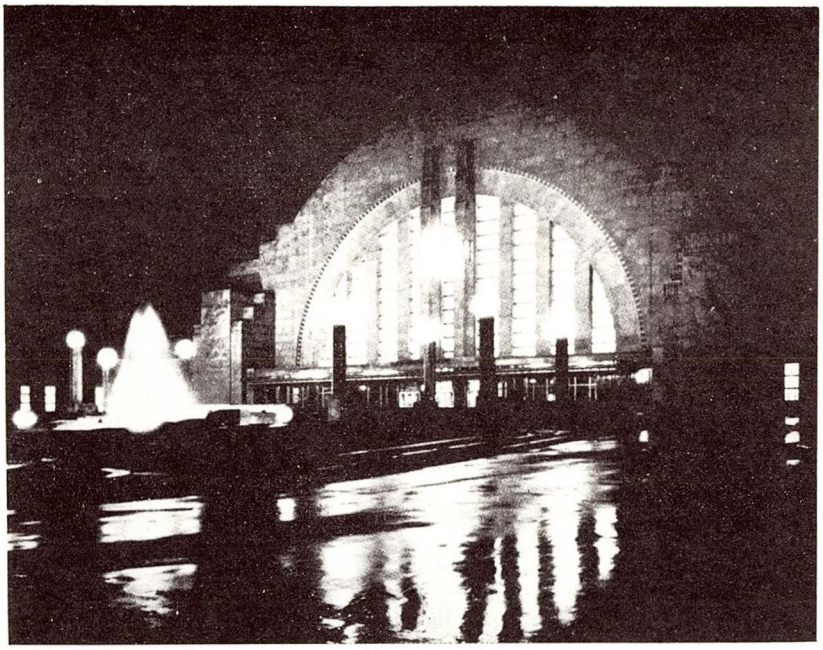


SECOND FLOOR PLAN





1・2・3・4 階平面



東側乘降口外觀

シンシナテイのユニオン停車場

専用車道のスロープの取扱ひが非常によく考へられて居ることがこの停車場の一大特長である。

外部は石灰石仕上で、東側乘客乘降口の外觀は半圓形の偉大なるマツスである。

専用車道の壁は黃褐色テラコツタ仕上、天井は壁と調和する色調のスタツコである

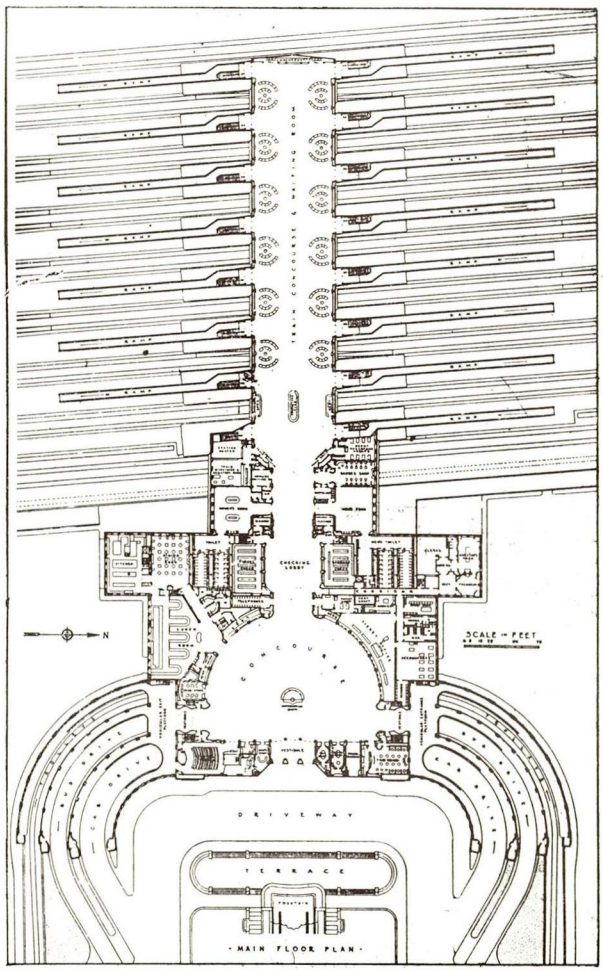
車道のスロープには鋪裝煉瓦が貼られ、雁皮色のセメントで道に沿ふて模様が附けられてある。

歩行者のプラツトフオーム床も同樣に赤及黑のセメントが使用されて居る。

車道と歩道との境、アルミニユームの手摺が取附けられた邊石は、壁のテラコツタと調和したテラツツオ仕上である。アルミニユームは手摺以外にも照明函、サツシユ、換氣用グリル等に使用されて居る。

中央大廣間の上部天井は正味高さ106呎のアーチになつて居り、正面半圓形窓の片蓋柱と共に、黃色及橙色の吸音性のプラスターで塗られ、ルミノールペイントで仕上

平　面　圖



げられて居る。

大廣間の腰は、レツド・ベロナ、テネツセ・フルーリ、バーヂニヤ・ブラツク等の種々なる大理石で貼られて居る。

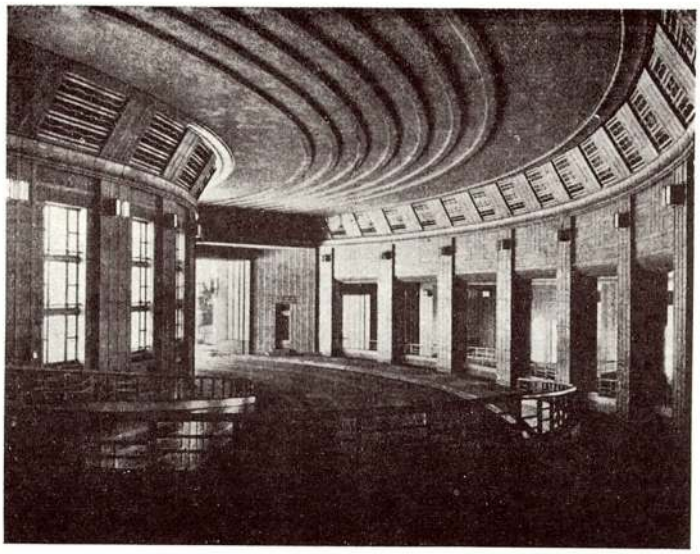
大廣間壁上部には交通の歴史及シンシナテイの歴史の畵像がモザイツクにて表はされて居る。モザイツクの設計はウイノルド・ライス氏、施工はラベナ・モザイツク商會である。夜間はモザイツク下部の照明函から光が當る様になつて居る。

大廣間全體に對する照明も同様に更に上部に設けられた照明函からの間接照明である。

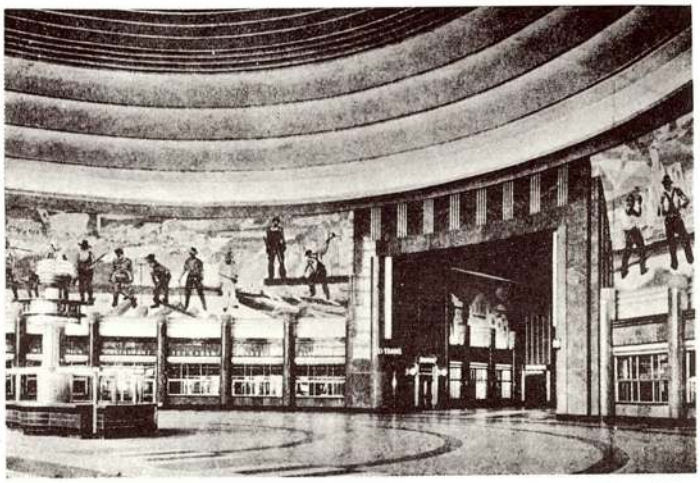
廣間床は灰色、黃褐色及赤色のテラツツオ仕上で、半圓形に沿ふて模様が描かれて居る。

待合室の椅子は他の停車場の如く木製の固いものではなく、アルミニユームの骨格に赤及黃褐色のレザーをしつらへた座り心地のよいものである。

待合室の室も大廣間と同様にテラツツオであり、天井は吸音性のプラスターである。壁面の地圖及壁畵は何れもモザイツクである。

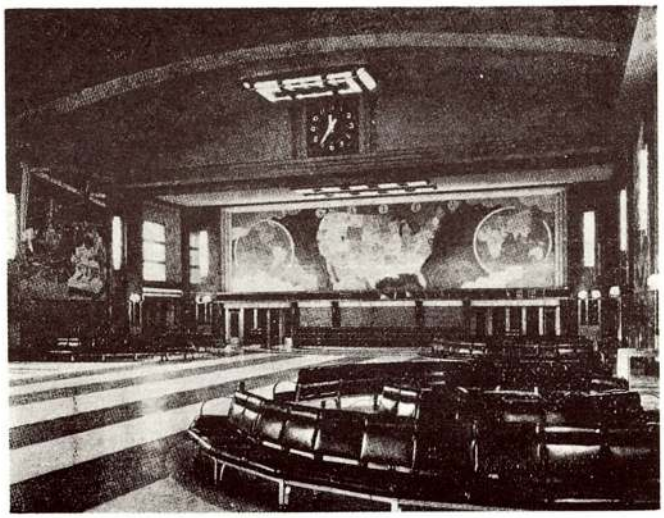


専用車道スロープ下り口



大　廣　間

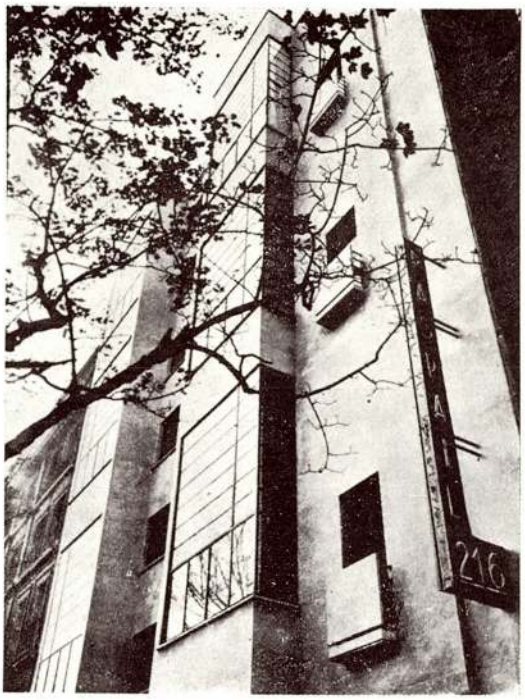
待　合　室



冬季の温氣及夏季の涼氣の送入は硝子とアルミニユームとで作られた換氣を兼ねた照明器具から行はれる。

下を通る列車から來る煙烟を防ぐ爲に待合室窓サツシユは嵌め殺しである待合室も腰は大理石（レツド・ベロナ）貼である。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



外　　観

映畵劇場「RASPAIL 216」

パリの藝術家達の爲に建てられた「スダヂイオ・アパートメント」内に設けられた小さな映畵劇場である。

278 の觀覽席があり、その 70 はバルコニーに取られて居る。

平面は敷地の都合から梯形になつて居る。

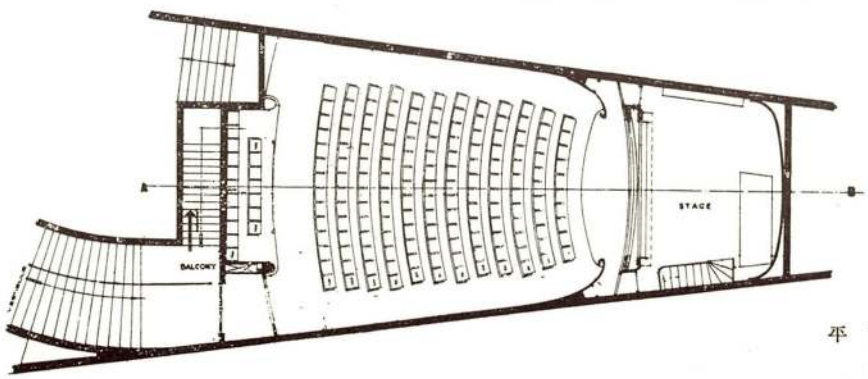
壁はスタツコ仕上、觀覽席の椅子はアイボリー調のレザーで被覆され、照明は大部分蛇腹の中に仕込まれた間接照明である。

劇場への入口の所に切符賣場と兼て酒場が設けられてある。

（Architectural Record 誌より　新名種夫）



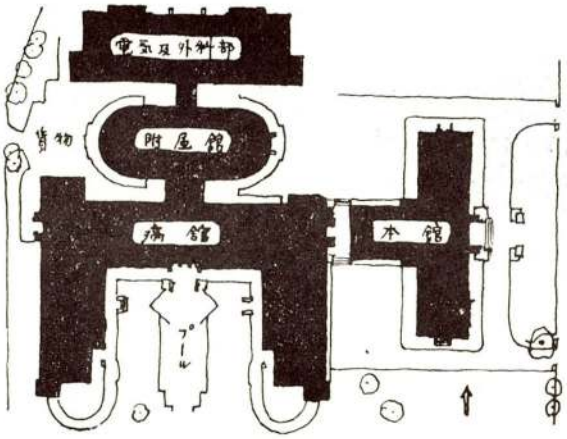
觀　覽　席



平　面　圖

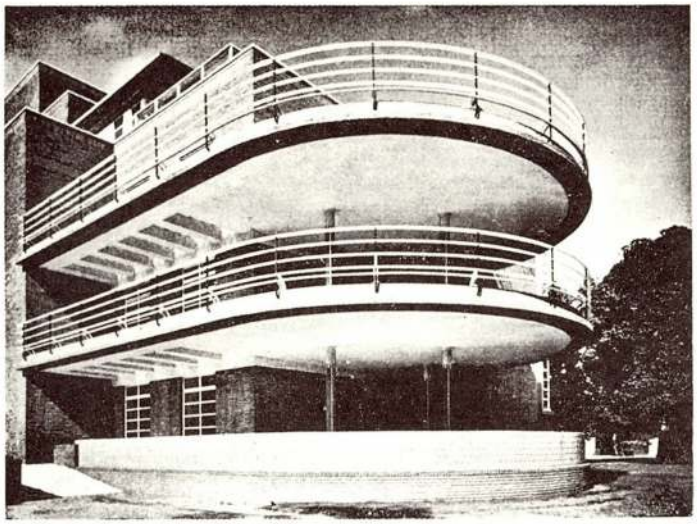
英國共濟組合病院

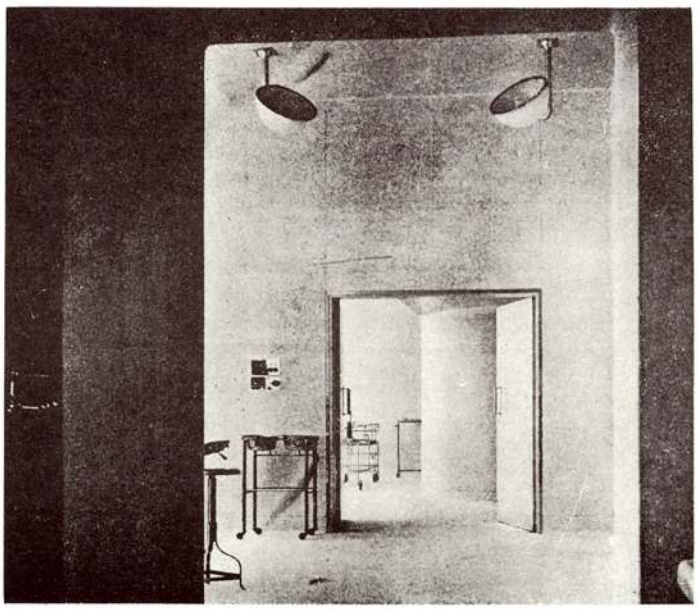
此の病院は從來の歐洲の病院の傳統を破つた新しい型のもので、世界でもあまり數多くないモダーンな病院だとほこつてゐる。即ち從來の大衆室を廢して一病室一床又は二床、多くて四床とし、各室に洗面器があつて冷水と温水を配し、窓は内部からは見えるが外部からは見えぬ特殊のガラスを用ひ病室のロッカーは特別の設計によつて病人にも樂に使用出來るやうにし、ベッドの高さは窓外を望み得る範圍に於て出來るだけ低くして看病に便にしてある、又各室は防音裝置、間接照明を施し、看護婦呼出にはベルを用ひず電燈により、又暖房も病氣の急變其他に應じて自由に調節し得る裝置を施してある。其他快復期の病人に對して廣い氣持のよいロンヂが備へられ、小兒病室は之に適しい裝飾を施し、且つ看護婦室との境をガラスとして間接に見張りをする事の出來るやうに設計されてゐる。其他消毒法、レントゲン、其他にも最新の設備が施されてゐる。



配置圖

サンバルコニー




消毒室から手術室を望む

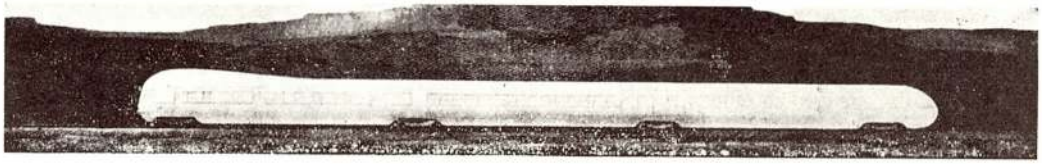
敷地4エーカー、建物は本館、病館、手術及放射施術館、附屬館の四つの建物からなり、本館は4階T形平面、病館は5階建U形平面で多くの病室は内庭に面し出來るだけ靜けさを保ち、日射を多くする樣に工夫されてゐる。1階から3階までは病室及其附屬館、4階南側は小兒病室、5階は病院の主要調理場である。手術及放射施術館は3階建で1階は看護婦、附添人の食堂、2階電氣、3階は手術室とレントゲン室である。手術室は全部で4室あり經濟的の意味から2室づゝ對をなして配置してあり、之に外科醫、麻醉施術者、看護婦等の諸室が附屬してゐる。附屬館は5階。

構造は何れも鐵骨、床コンクリート、外壁煉瓦、内壁中空テラコッタで、設備備品を加へ全建築費 335,000 ポンド。

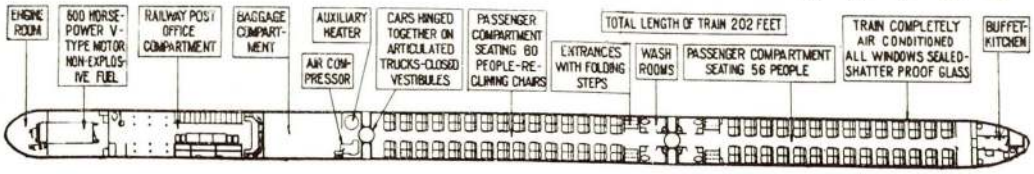
(Architectural Review 誌より 本多正道)

2 つ の 流 線 形

流線形客車外観



同上平面圖

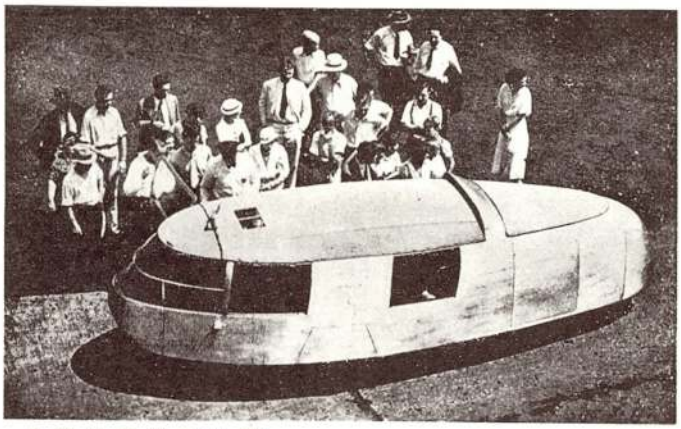


1. 流 線 形 客 車

1 時間 110 哩の速度を出し得ると言ふ流線形の客車が、ユニオン・パシフイック・ラインに於て試運轉されやうとして居る。

三輛分を完全に固定連結したもので、輕量なジユラルミン製、重量は全部で 80 噸に達しないと稱せられる。

若しこの試運轉が成功すれば、我々は旅行に對する我々の考へ方を再吟味しなければならないことになるかも知れない。建築の合理的計畫に對する一つの標柱として掲げる。



流線形自動車外觀

2. 流 線 形 自 動 車

完全に流線形の 3 輪自動車が、シカゴの萬國博覽會に出品されるに先だつて、7 月 21 日にブリッヂポートの 4D 會社の實驗場で公開宣傳せられた。

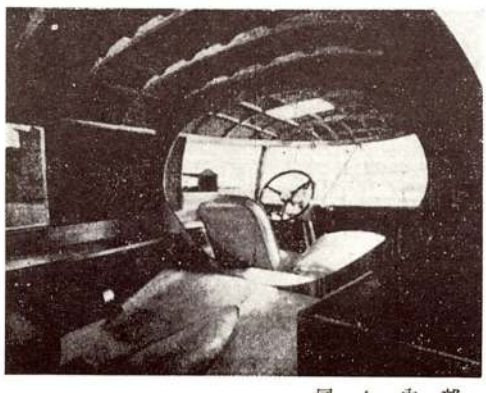
間もなく商品として製作せられダイマクション・ハウスから賣出される筈である。

この自動車は三つの部分から成つて居る先端部には運轉手と助手との乘る席があり中央部には客席及遠距離旅行の際には裏返して寢臺になる様な船室様の床架が設けられてある。後部は防音耐火の間仕切で仕切られ機械室となつて居る。

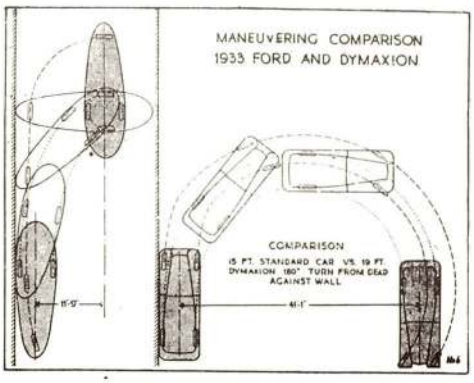
車は前の二つの車輪にて推進され、後部の 1 個は舵の役目をする。この様な車輪の配置は車體が完全な流動形たることを可能ならしめ、且車體の運動を非常に自由ならしめるに役立つて居る。

この形に於て空氣の抵抗は普通セダン標準型の約¼であり、全動力の 80% を使用しながら、風に向つて 60 哩の時速を出す事が出來ると言ふ。ガソリン消費量は40哩につき 1 ガロン程度だと豫測されて居る

(Architectural Record 誌より　新名種夫)



同上內部



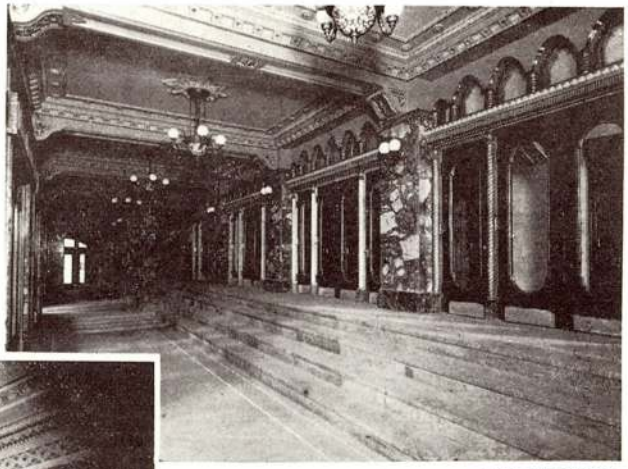
流線形自動車と1933年型フオードとの動線の比較



北西角より見たる外觀

建築様式は近世復興式

外壁2階胴蛇腹迄は水磨き萬成石張り、上部は全部「テラカッタ」張り、背面は色タイル張仕上。各庇は全部銅板張り、手摺其他化粧金物は凡て「ブロンズ」製。

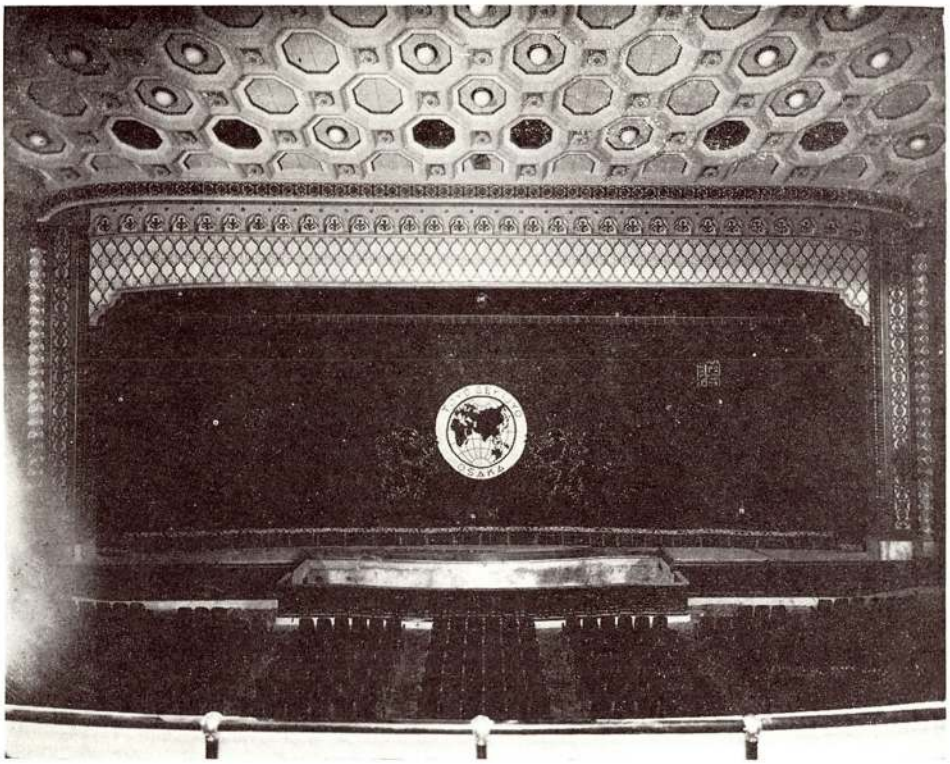


正面玄關内部

左右特等玄關内部



正面及左右特等玄關は床「モザイックタイル」張り、壁は黄華大理石を張り、天井は「プラスター」彫刻類は石膏製の上にペンキ極彩色仕上とす。



舞臺正面

觀覽席通路床は「ゴムタイル」敷、腰壁は「コルク」粒吹附「ペンキ」塗、上部壁は「コルク」板模様張り「ペンキ」彩色仕上、天井は彫刻類は石膏製其他は「プラスター」塗の上「ペンキ」極彩色仕上。



觀覽席及天井の一部

廊　　下

廊下の仕上、床は「ゴムタイル」敷　壁は「プラスター」「ペンキ」叩き凹凸塗、天井「プラスター」「ペンキ」塗。





2階休憩室

2階休憩室仕上次の如し。床「フロアリング・ブロック」張り、壁「コルク」粒吹附け「ペンキ」彩色模様仕上、天井は「プラスター」「ペンキ」仕上。

貴賓室

貴賓室は床寄木張り、壁　壁紙貼り、天井「プラスター」「ペンキ」塗。





4 階 食 堂

食堂及喫茶室は床「フロアリング・ブロック」張り、壁「プラスター」「ペンキ」叩き凹凸塗、天井仕上は「プラスター」「ペンキ」塗。

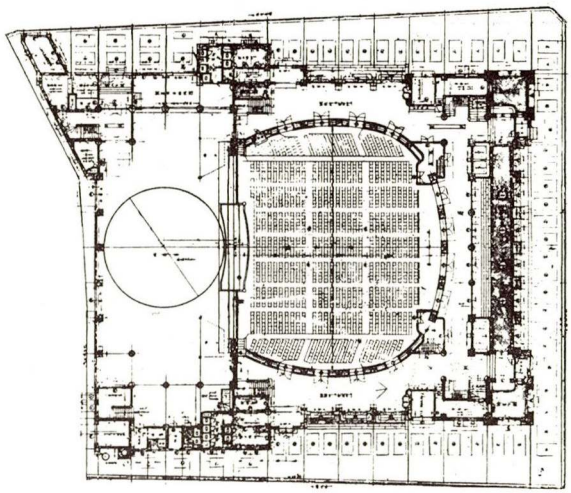
3 階 食 堂



2 階 喫 茶 室

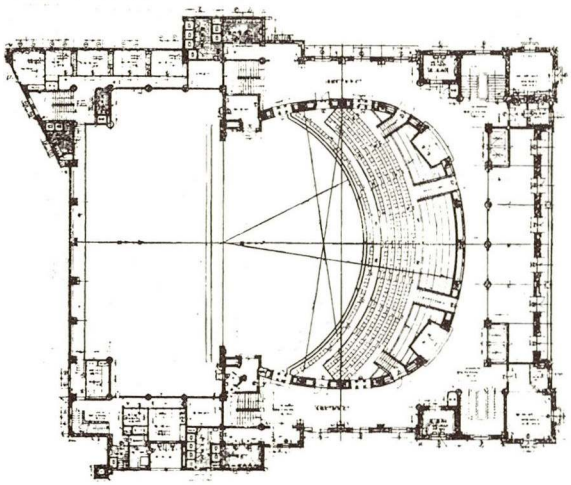


1階平面圖



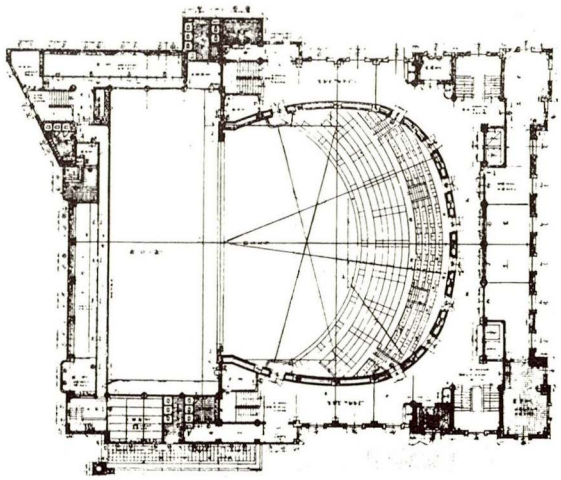
上階は活動寫眞の映寫を主とし、隨時演劇、歌劇、音樂の上演に供し地階は理想的「スポーツ・ヤード」として子供の遊び場に使用す。

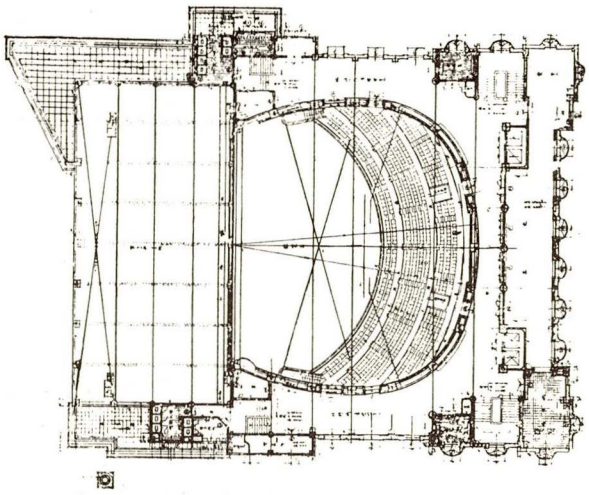
2階平面圖



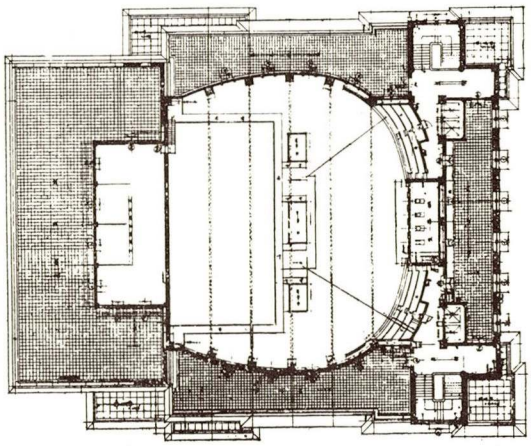
敷地面積	1,137坪28
建　坪	781坪10
延　坪	3,301坪28
地　階	1,168坪34
中地階	11坪30
第1階	781坪23
第2階	442坪15
第3階	441坪76
第4階	388坪75
第5階	127坪87

3階平面圖

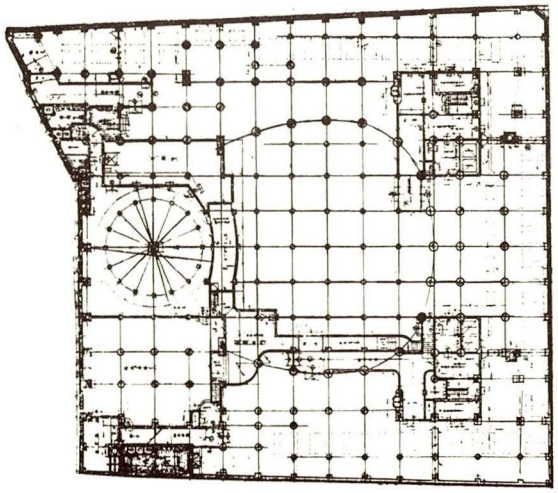




4階平面圖

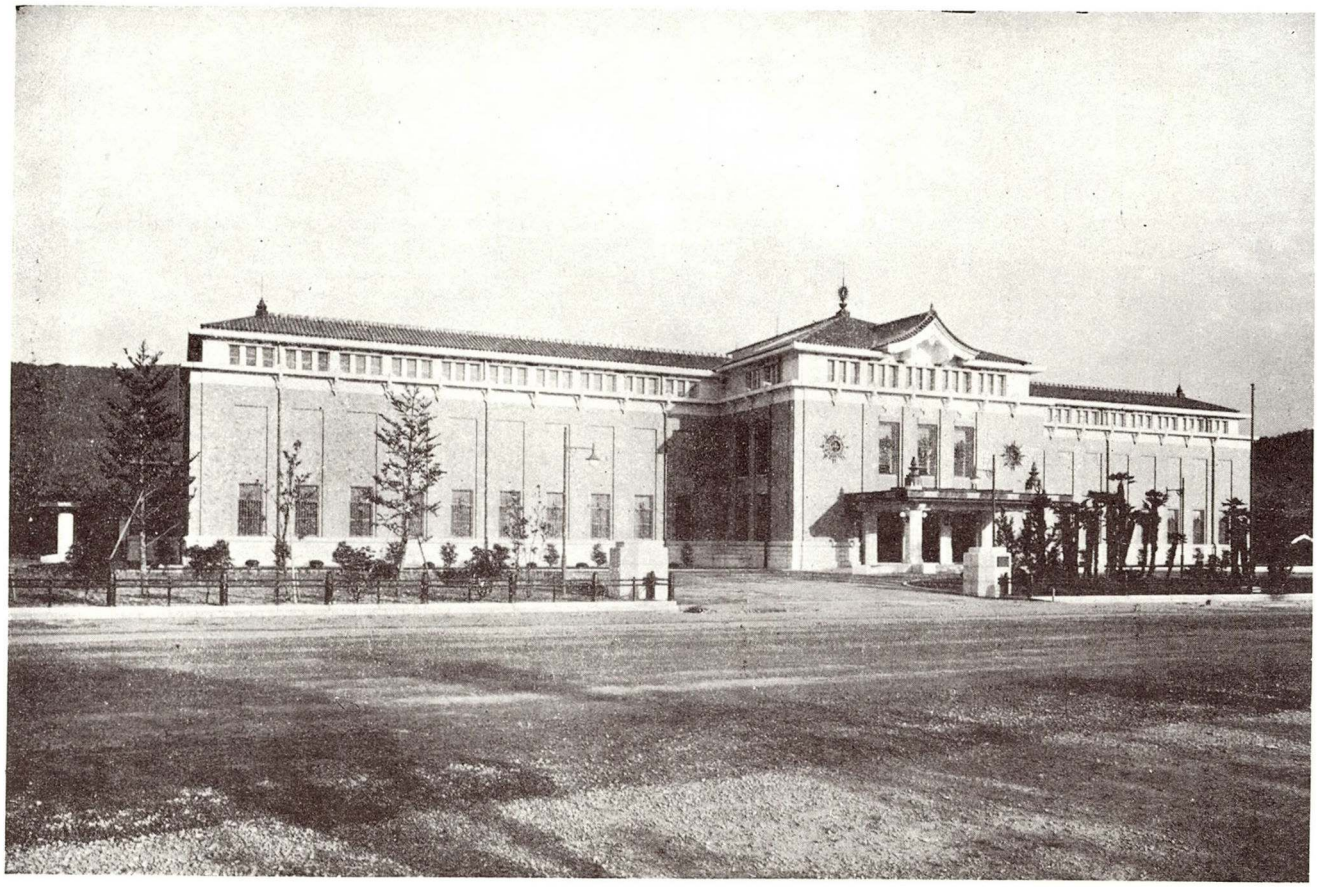


5階平面圖



地階平面圖

設計　八木工務所
施工　合資會社 矢島組



全　　景

今上陛下御大禮の記念として建設せられたるもの、設計圖案は公募懸賞の當選案である。昭和6年11月に起工、昭和8年10月に竣工。

一は御大禮記念の意味にふさわしからしめるため、一は京都の風光に調和せしむる爲に、外觀は特に日本風を基調とし內部は美術舘としての近代的設備を十分に取入れたものである。



⬆ **西 玄 關**　車寄は花崗岩、軒飾り金物及面格子はブロンズ製

➡

東 廣 間



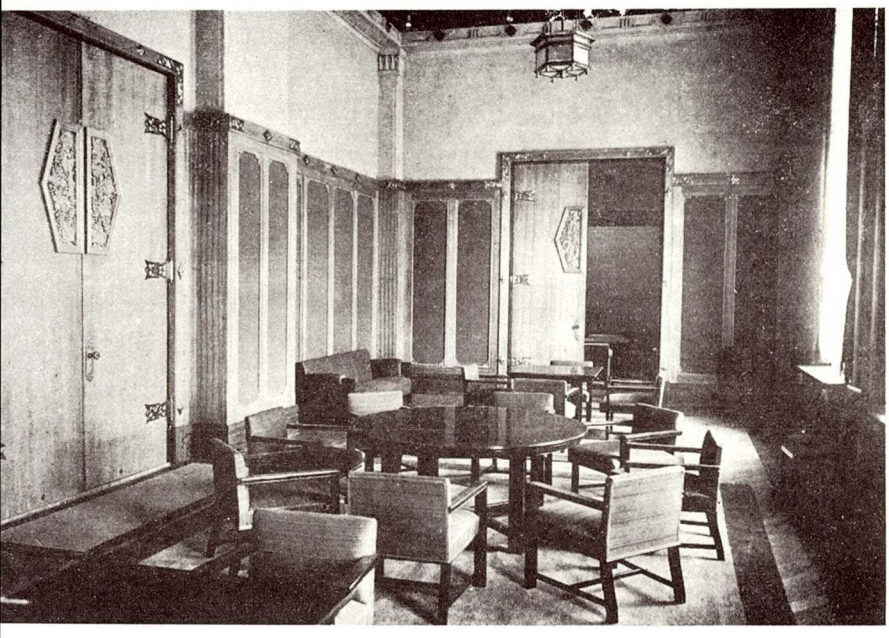
西 廣 間 ➡

各玄關及廣間共仕上、壁は概ね大理石張、床は大理石及タイル敷。西階上の天井は一部「ステンドグラス」張



⬇ **西 玄 關**



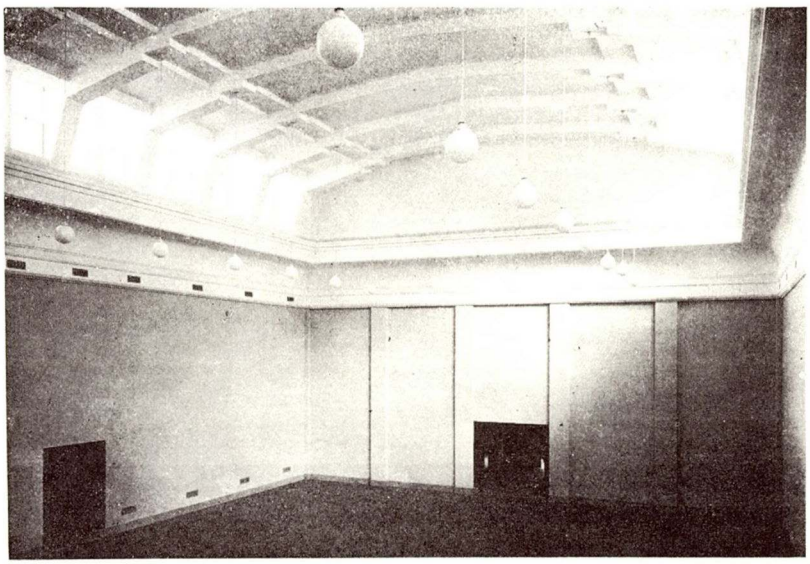


應接室

應接室壁は「ラフ　ウオール」仕上、腰羽目は緞子張、床は寄木張、天井は折上格天井、格緣漆塗、格間絹張り金粉散らし、金具金鍍金

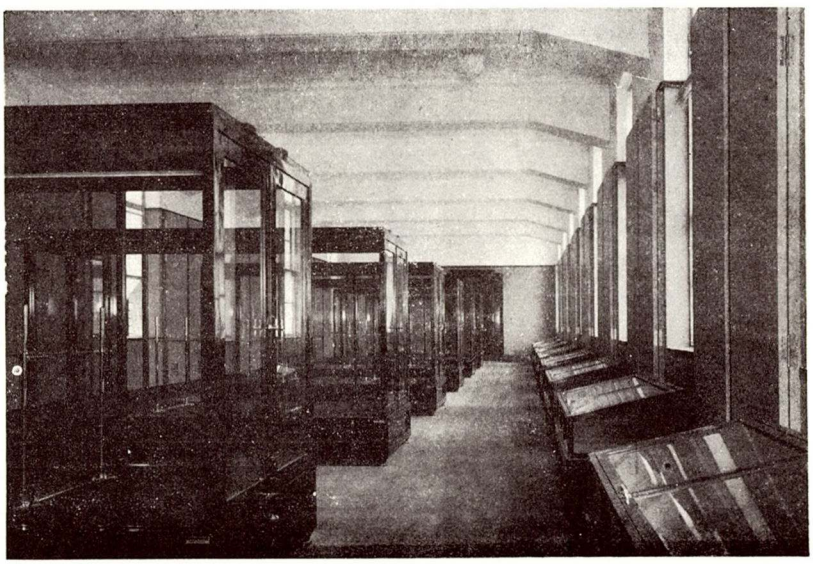
大陳列室

中央大陳列室の壁及び天井は「プラスター」塗の上一部ペンキ仕上、床は「チーク」材の「フロアリング・ブロツク」張付



陳列室

一般陳列室の壁は「プラスター」塗及び板張の上に麻布張床は板張、天井は「プラスター」塗



位　置

京都市左京區岡崎公園

建築面積

4,656.70平方米（1,406坪）

延床面積

9,364.20平方米（2,828坪）

内

地階　1,257.40平方米

1階　4,656.70平方米

2階　3,450.10平方米

高　さ

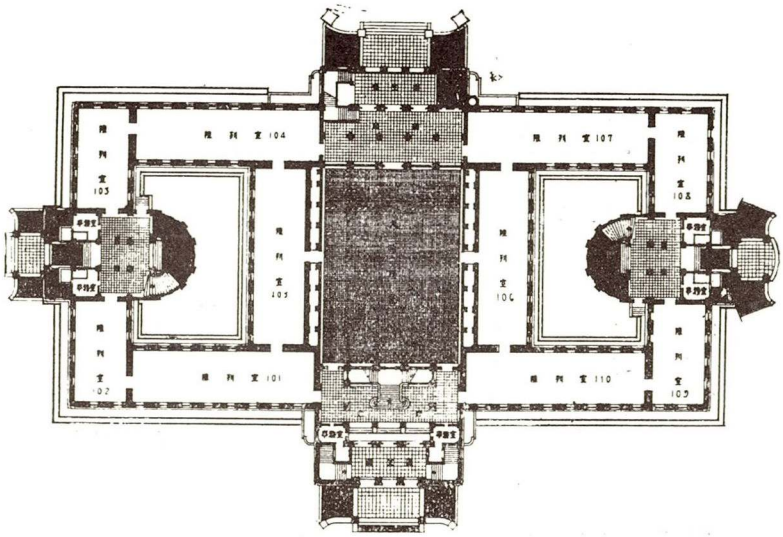
軒まで15.90米、棟まで21.87米

様　式

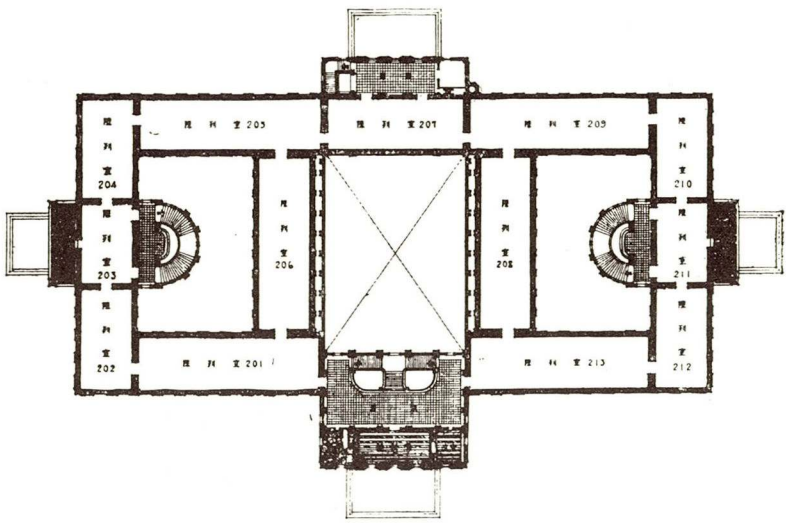
日本趣味を基調としたる近世式

構　造

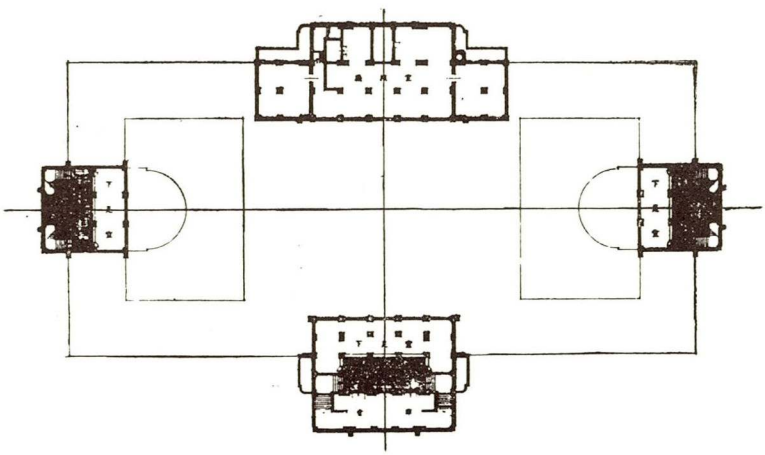
中央大陳列室は鐵骨混凝土造其他は鐵筋混凝土造屋根小屋組を鐵骨造とし床板、壁體、階段等主要部は鐵筋混凝土造とす



第一階



第二階



地階

會員のこゑ

普贊　山本常次郎

1 古建築、歷訪見學、機會を多く作られん事を望む
2 建築と社會の雜誌に日本建築の寫眞並に其れに就いて詳細なる說明をも附記せられたし
3 建築協會々員の集ひの機を尙一層多く成し現代建築と云ふものに對しての意見の交換を望む

會員　岡部　巖

見學其他の催物は事業の都合上一日及十五日に休日の人々も之有候へば時々は以上の日に開催を御願申候

普贊　中宮勝二

各種の講演會見學は誠に結構と存じ候へども地方會員は取り分け勤人は自由にならず依りて知事宛か內務部長宛代表者を參列方通知致された方が幾分效果有之かと存候

普贊　川村淺一

未だ充分內容を知り得ませんが、會誌が「建築と社會」であるなれば協會の活動の全面は此れに發表あつて然かるべしと存じますが

會員　長谷川俊弘

1 此の意見の處置如何先づ之れを御聞申候
1 會費の減額を計るか若しくは會員本意の有益なる事業を多くする事
1 嘗て本紙で私し述べたるが權威ある建築學全集の刊行
1 役員選擧法の改正

普贊　山本一善

1 會費の値下よりも雜誌「建築と社會」の內容豐富充實を希望
1 編輯に就ての希望……職員各位の御盡力により內容共に充實しつゝあれども尙一部雜然たる感あり廣告等は別冊としては如何（尙商店等の希望により査定したるカタログ類のも共通しても可）

會　報

常務會

時　昭和8年11月6日午後6時—同9時
所　本協會別室
出席者　理事　竹腰　監事　德政　松室
主記　鳥井　富士岡　主計　浦　清水
八木　編輯　今林　高橋　中村　新名
議事
1 11月例會に關する件
1 昭和9年度收支豫算の件
1 評議員會及通常總會開會に關する件
1 會費、贊助費滯納者處置に關する件
1 建築材料陳列場に關する件
1 大美野住宅博に關し關西土地株式會社より代金殘額不拂に付出品者より申越に係る件
1 會員詮衡
1 其他
報告
1 9•10月分會計報告
1 秋季大會及東部見學決算報告
1 記念事業決算中間報告
1 建築學會主催鐵筋混凝土講習會の件
1 常設各委員會年度末研究報告

常務會

時　昭和8年11月20日午後6時—同9時10分
所　本協會別室
出席者　理事　池田　竹腰　監事　德政　松室
主記　阪口　鳥井　丹藤　伴野
主計　浦　清水　編輯　高橋　新名
議事
1 追加豫算に關し評議員會及臨時總會開會の件
1 混凝土骨材試驗用標準篩に關する意見回答の件
1 建築材料陳列場收支豫算の件
1 雜誌廣告募集其他に關する件
1 出版部創設の件
1 編輯及主計各常務連絡の件
1 會員詮衡
報告
1 滿洲建築協會より報告に係る聯合大會決議に依る滿洲國政府に建議の件

建築倶樂部室

倶樂部案內

開館時間　午前9時より午後9時迄、但特別の場合には延長致します。

娯樂設備　圍碁、將棋、麻雀、コリント・ゲーム等

圖　書　各新聞官報類約二十種、雜誌類六十種其他の圖書も多數備へてあります

撞　球　5階の朝日クラブの玉臺が簡單に使用されます。御希望の方は受付より入場券を持參され度し。

理　髮　5階の阪井理髮店と特約して本クラブのマーク佩用者には特別割引があります。

諸研究會

圍　碁
木本二段　毎週土曜午後より9時まで

南　畫
太田先生　毎月第1第3火曜午後6時

俳　句
月斗先生　毎月第1第3木曜午後6時

骨　相
砂川先生　近日開始

謠　曲
觀世流松下先生　毎月五と十の日夜（稽古場は會根崎演舞場）

長　唄
杵屋和津次師　毎週2回、近く開始の豫定（稽古場選定中）

十二月カレンダー

2日　土　圍碁研究會
5日　火　南畫、謠曲
7日　木　俳句
9日　土　圍碁競技會
14日　木　俳句研究會
15日　金　謠曲研究會
16日　土　圍碁研究會
19日　火　南畫研究會
20日　水　謠曲研究會
23日　土　圍碁研究會

雜　報

南畫研究會員を募る

南畫の稽古は一寸入り難い樣に思われ勝です。併し始めて見ますとそんなものではなく氣樂に出來るものです。

此際初心の方の御入門を歡迎します。

骨相研究會員を募る

近日第二回講習會を開始いたします。人の相を見ると云ふよりは人を採用する場合の適不適、妻や嫁の幸不幸自己の修養に、其他世事人情萬端を知る事が僅一年にして而も低廉なる會費で修得する事が出來ます。御希望の方は此際至急御申出下さい。

クラブ擴張の事

愈々近日着手の事になりました完成の日をお待ち下さい。

維持會費に就て御願

曩に御願申上げましたクラブ擴張に伴ふ維持會費の件は其後漸次申込みを受けて居りますがまだ豫期の額に達しません、御賛成の方にて御忘れの向もあらば此際至急御申込み賜ります樣希望いたします。

圍碁競技會開催お知らせ

本年最終の圍碁競技會を下の通り催します、何卒多數御參加願ひます。

時　十二月九日(土)午後一時より
所　クラブ室
會費金五十錢　當日御持參の事
賞　第一等より第五等迄

本クラブ員はどなたでも(圍碁研究會員以外も)御參加歡迎します。

俳　句　會

十一月の定例句會の選句を列記します。

月斗師稿(十一月二日)

初時雨片はづれせし古簾
親について走る子馬や初時雨
水鄉や夕日の中の初時雨
稻積みし馬と渡舟や初時雨
就中菊をぬらしつ初時雨
雲ふかふか月を藏しつ初しぐれ

月　斗　選

還曆の園遊會や小六月　顯　水
神苑の焚火に紅葉ちりにけり　同
散紅葉徽醺の面あげにけり　北　柿
樂燒の窓とぢにけり散紅葉　同
散紅葉踏んで下り行く湯壺哉　麻　姑
耳病んで耳を塞げり初時雨　同
初時雨堂島川に燈とぼりぬ　猪山士

月　村　選　(十一月十九日)

枯萩や簾目さむき詩仙堂　靜　所
枯萩を椽に干したり山の寺　奮
萩枯れて庭廣々と月寒し　顯　水
枯萩を束ぬる僧の若き哉　奮
枯萩に賣地の標立ちにけり　猪山士
滿月蕭條東光院萩枯るゝ　北　柿
手爐堂右冬の心となりにけり　麻　姑
寒月一秋枯萩骨となりにけり　同
つくばいもあらはに萩の枯れ伏せる　北　柿

社團法人 日本建築協會役員及委員（昭和八年）

役員

會長　安實造
會長　吾光郎
會長　信雄
事務　三一
議員　助二二
同　郎夫治
同　雄治藏
同　三郎實
同　郎助知
同　男則郎
同　吉二郎
同　郎安良
同　郎生夫
同　二次尾
同　造吉治
同　郎信郎
同　雄郎一
同　雄三一
同　二郎
同　忠助清
同　二正
同　之盛
同　野清
同　井田
同　木子
同　牧松增
同　八呼

「建築と社會」編輯部員

夫三一道武
種謙亮正信
名畑藤多田
新東內本吉
編輯部員
同同同同

「建築學研究」編輯會

治治造弓諒二助武
恒榮健眞厚之信
東橋腰澤橋井清
伊高竹瀧棚藤八吉
委員
同同同同同同

委員

都市計畫委員會

光吉介夫人生夫郎助武信
重善之和眞出種三之信
室藤熊日武松井
垣藤本間名浦田
松加北伊岩作新城松吉
長事事員
委幹幹委同同同同同
擔當常務　鳥

法制委員會

雄郎一治三澈郎一吾一郎
敏次誠代寬治經金亮彥太
豐誠喜寬榮經金亮彥
置井田川瀨榮林
津玉坪秋石楠工武德內
長事事員
委幹幹委同同同同同
擔當常務　今

教化委員會

實郎
長事　三
委員　田
幹　勇
宇井
古酒

材料委員會

郎良郎一吉郎勉三郎一郎
太一太雄三太一廣三
廉川與平本敬治
川西玉川岡松保泰茂芳三郎
須小兒白高高橋田中口
松道山久田阪
長事員
委幹委同同同同同同
擔當常務

災害强度委員會

郎吉世茂三郎夫三夫喜史雄藏吾
一藤貞俊太隆捨悌智尙芳鐵圭
誠藤柳田野原井江島浦田田部
澤藤柳田野原井江島浦田田部
中落靑黑佐篠谷鳥波中三山矢渡
長事員
委幹委同同同同同同同同同

設備委員會

銅則助郎吉男郎弘信一助
原顯之太
笠部清宗陽孝
井東川田榮太
小岡松伊小岡俊
中山川
長谷
塙村田小
長事事員
委幹幹委同同同同同同同
擔當常務　浦英之

住宅委員會

郎
一
壯
野
葛
長員
委員

建築會館委員會

委員長　安井武雄
委員　吾妻藏
幹事　德政金吾
幹事　谷民夫郎
幹事　飯高達吉
委員　大林賢尾
同　阪井米造
同　鈴木末夫
同　竹波健光
同　松室悌吉
同　森本重藏郎
同　山脇友三郎
擔當常務　阪口芳一
同　富士岡重

住宅博殘務整理委員會

委員長　武田五一郎
委員長　葛野壯一郎
委員長　安井武雄
委員　今林彥太郎
同　小川安一郎
同　芝田知重
同　坪井誠一
同　德政金吾
同　古村正治
同　增山藤平

住宅博評價委員會

委員　笠原銅介
委員　小野壯一郎
委員　北垣熊之介
委員　篠崎衆二
委員　須川廉一
委員　藤木正太郎

阪和上野芝住宅博殘務整理委員會

委員長　池田實
委員長　安井武雄
委員　浦英之助
同　北垣熊之介
同　佐藤松太郎
同　增山新平

阪和上野芝住宅博評價委員會

委員　笠原銅
同　小野壯一郎介
同　北篠熊之介二郎
同　篠須川廉太郎
同　須增山新平
同　增井安武雄
同　安井武雄
同　富士岡重一
擔當常務　阪口芳三郎
同　山脇友三郎
同　木末健吾
同　竹腰健吾
同　松室重光
同　森本藤吉郎
同　飯高達四郎
同　林賢尾造
同　井米吉
擔當常務　安井武雄
委員長　德政金吾
幹事　谷民夫
幹事　飯高達四
委員　大林賢尾
同　阪井米吉
同　鈴木末藏
同　竹波健悌
同　松室重藤
同　森本藤吉郎
同　山脇友三郎
擔當常務　阪口芳一
同　富士岡重

住宅博殘務整理委員會

委員長　武田五一郎
委員長　葛野壯一郎
委員長　安井武彥太郎
委員　今林彥一郎
同　小川安一郎
同　芝田知誠一
同　坪井誠吾
同　德政金正治
同　古村正藤吾
同　增山新平

住宅博評價委員會

委員　笠原銅
委員　小野壯一郎介
委員　葛北垣熊之介二郎
委員　北篠崎衆一
委員　篠須川廉太郎
委員　須藤木正
委員　藤

阪和上野芝住宅博殘務整理委員會

委員長　池田實
委員長　安井武雄
委員　浦英之助
同　北垣熊之介
同　佐藤松太郎
同　增山新平

阪和上野芝住宅博評價委員會

委員　笠原銅
同　小野壯一郎介
同　北篠熊之介二郎
同　篠須川廉太郎
同　須增山新平
同　增井安武雄
同　安井武雄
同　富士岡重一
擔當常務　阪口芳三郎
同　山脇友三郎
同　木末健吾
同　竹腰健悌
同　松室重光
同　森本藤吉郎
同　飯高達四郎
同　林賢尾造
同　井米吉
擔當常務　安井武雄
委員長　德政金吾
幹事　谷民夫
幹事　飯高達四
委員　大林賢尾
同　阪井米造
同　鈴木末藏
同　竹波健悌
同　松室重藤
同　森本藤吉郎
同　山脇友三郎
擔當常務　阪口芳一
同　富士岡重

住宅博殘務整理委員會

委員長　武田五一郎
委員長　葛野壯一郎
委員長　安井武彥太郎
委員　今林彥一郎
同　小川安一郎
同　芝田知誠一
同　坪井誠吾
同　德政金正治
同　古村正藤吾
同　增山新平

住宅博評價委員會

委員　笠原銅介
委員　小野壯一郎
委員　葛北垣熊之介二郎
委員　北篠崎衆一
委員　篠須川廉太郎
委員　須藤木正

編　輯　後　記

□早いもので和和８年も早12月號を出すまでに押詰つてしまつた。

□本年も昨年から引續いて、協會創立滿15年記念事業の爲に、協會全體としては非常に多忙な１年であつた。

□「建築と社會」も記念事業の出版やその跡始末等を合間に挾みつつ、非常に忙しい間に編輯されたが、會員各位の鞭達に依り、內容に於ても體裁に於ても、少くとも１年の經過するだけの進步は示し得たものと信じて居る。先年來取つて來た特輯號式の編輯方法は、特に平年に於てその特徵を示し得たと思ふ。

□12月號は各常設委員會の報告號であるが都市計畫委員會の事業は既に８月及９月に特輯號として報告濟だし、災害强度委員會の報告は相當に期待されて居るものであるが、研究題目の重要なる關係上來年まで持越すことになり、結局、材料、設備、敎化、住宅の各委員會の報告を中心として、それに上の芝及瑞光の各住宅博覽會出品住宅の寫眞を加へて色彩を添へることにした。

□別項會告の通「市街地建築物法令」第三版「續學校建築圖集」及「續住宅圖案集」の新刊が出た、別紙の申込書を以てどしどし注文を乞ふ。

□本年一杯、御多忙中を御盡力願つた編輯部員並に執筆者の各位に謝意を表して年を送る。（新名）

建　築　と　社　會

第 16 輯第 12 號

每月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅２錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和８年11月25日印刷　昭和８年 12 月１日發行

發行・編輯　印刷人　鷹取陽　西宮市今津町大字浦風56番地

印刷所　大阪活版所　大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人　日本建築協會　大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル　電話長本局(23)4500番(6)　振替口座大阪39.975番

特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　電話土佐堀 2440番　振替口座大阪 2084番

禁　轉　載

本誌に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

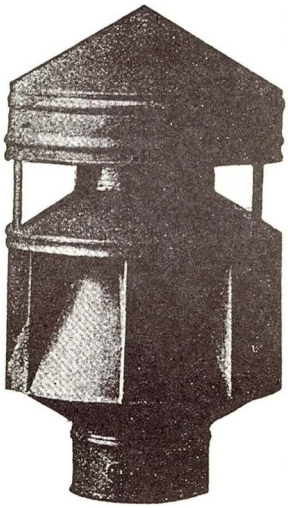
廣　告　揭　載　料　金

普　通	1 頁	1 回	15.00
普　通	½ 頁	1 回	8.00
普　通（前附第1頁）	1 頁	1 回	45.00
普　通（前附第2頁）	1 頁	1 回	40.00
普　通（後附第1及最終頁）	1 頁	1 回	25.00
アート（中　揷）	½ 頁	1 回	20.00
表　紙 2	1 頁	1 回	60.00
表　紙 3	1 頁	1 回	45.00
表　紙 4	1 頁	1 回	80.00
建築事務所錄	1 欄	1 回	1.50
（建築關係業者案內）	1 欄	1 回	5.00

御　注　文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

定評アル特許宮島式排氣頭

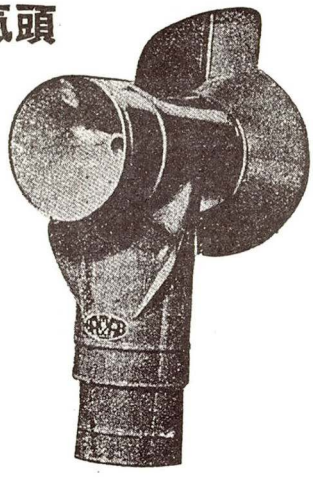


（固定形）

排氣換氣ハ
健康ノ基

排氣頭ノ
眞價ハ
排氣量ニアリ

（本機ハ吸入器ノ原理同用ノモノニ付効果確實ナリ）



（風向變換形）

特許 第一二五八二七號 第一二三一九六號 第七三三四六號 第七三三六〇號

特許 第一一一〇〇七號 第一四二七四九番 第一四二七五〇番

諸官省御用

排氣頭販賣及取付並ニパイプ衛生工事請負

宮島康夫商店

東京市赤坂區青山北町一丁目四番地（神宮外苑入口）
電話青山(36)四七二九番振替口座東京五八四八七番

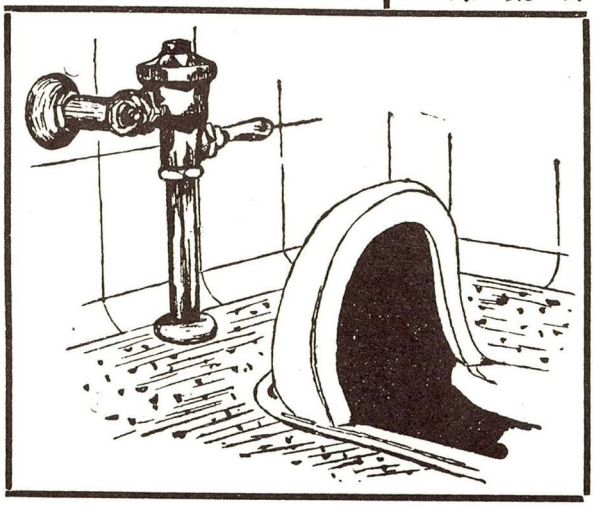
カタログ進呈

ヨネ フラッシュ バルブ

水洗便所洗滌弁

専賣特許
實用新案
商標登錄

大藏省營繕管財局
東京帝國大學營繕課
大阪府營繕課
兵庫縣營繕課
大阪市建築課
名古屋市營繕課
南滿洲鐵道株式會社
臺灣總督府營繕課
御指定



米本榮商店

大阪市北區梅田新道
太平ビルヂング四階
電話北八一八番
振替大阪四八二七番

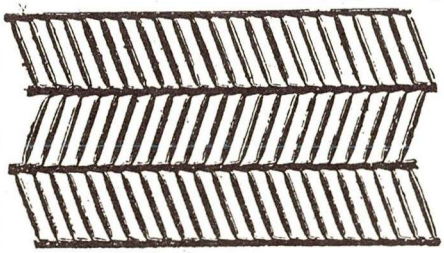
建築と社會第16輯第12號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……31
　　淺野スレート株式會社……16
　　淺海商店……22
イ　岩元商會建材部……22
　　岩城硝子製造所……34
エ　榮進社……15
　　英進商會建材部……36
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……12
　　大野製作所……1
　　奥村重兵衛商店……17
　　押谷商店……36
カ　金岡養樹園……中挿
　　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　木下謹三商店……12
　　桐田商會……29
ク　黒川化學工業所……8
　　久保商店……34
ケ　建盛商會……28
　　輕量建材合資會社……37
コ　工材社……30
サ　三稜社……27
　　佐渡島商店……35
　　三機工業株式會社……表紙 2
　　佐久間パブコ工業株式會社……5
スセタ　須賀商會……25
　　千歳木材工業所……4
　　田中タイリング……9
　　田中商會合資會社……11
ダテト　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　　寺井洋家具部……19
　　東洋リノリユーウム株式會社……32
　　東洋工業株式會社……28
　　東京電氣株式會社……3
ナ　内外土木建築材料合資會社……32
　　南滿鑛業株式會社……18
ニ　日本ペイント株式會社……23
　　日本建築紙工株式會社……27
　　西原衛生工業所……19
　　西孫南店建築金物部……21
　　日本ドアーチエック製造所……20
　　日本パイプ製造株式會社……10
ノ　野澤幸三郎商店……26
フ　藤田商會……14
　　福島合名會社……40
　　福原商店大阪支店……19
ベ　ベニス工房……4
マ　マルエス工業株式會社……7
ミ　ミナト製作所……8
　　三井物產株式會社……13
　　宮島康夫商店……39
ヤ　矢橋大理石商店……14
　　山本窯業商店……18
　　ヤマト商會……9
ヨ　横河橋梁製作所……24
　　米本榮商店……39
レ　玲光社(木内眞太郎)……30

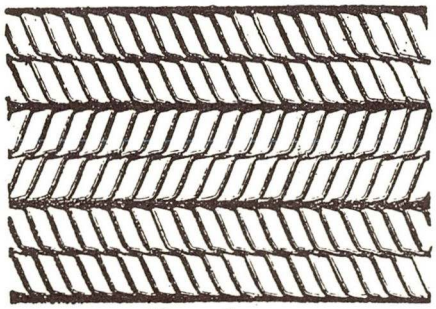
高級壁下地材料

特許　ヤハズラス

（原名　ヘリングボーンラス）



シングル



ダブル

◇特徴

一、網目の刻み方が最も合理的でモルタルの行渡りに留意されてあるのでモルタルとの馴染良く施工が極めて容易で而かも耐久力強大であります

二、リブに重ね目の高さに合せて塗る必要なくモルタルを非常に節約する事が出來ます

三、しにし狀支タむにでる起度四には平對モ塗る方のが、乾縮で同的極がを重端まる龜縮ま密完をヘルモ落無るしに十對面五し

四、あ生面共比るルれ經の必餘部、り濟で要裕に兩りずに收率とがた的で刻獨網ま

五、當、單通得に張重ま目ねす目でめな見ね接せ俱裂し縦一燥ル附のぎつらねすのので合完す目あているの合んはを壁横のすタさであみ特目す着全な鍵をル込駄のて陸

ラスの様普せ全節が

關西一手販賣　福島合名會社大阪支店

大阪市北區堂島ビルヂング　電話北五八九〇番